

平成28年度
消防防災年報

福 井 県
＜平成29年刊行＞

はじめに

災害や事故が大規模化、多様化する中であって、本県の消防防災体制は、関係各位のたゆまぬ努力により着実に充実強化されてきており、地域住民の安全・安心の確保に大きな役割を果たしているところです。

近年我が国においては、地震、台風、集中豪雨、火災など様々な災害が多発しております。平成28年度以降をとらえても、熊本地震、東北地方や北海道を襲った平成28年台風10号、本年7月の九州地方における集中豪雨、新潟県糸魚川市大規模火災など、いずれも甚大な被害をもたらしました。

本県においても、本年2月に越前市で発生した火災や、5月の鯖江市における火災では大きな被害が生じており、記憶に新しいところです。

私たちは、常に災害と隣り合わせで生活しており、こうした災害に的確に対応し、住民の安全・安心を向上させていくためには、住民と行政が一体となって、地域の防災力を充実強化していく必要があります。

県においては、消防・防災の基本である災害発生の予防や初動対応の充実を図るため、消防団や自主防災組織の育成強化を図り、自助、共助、公助のバランスのとれた、安全で安心できる社会の実現を目指しております。

今後とも消防防災行政の推進について、より一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この消防防災年報は、市町および消防本部等関係機関からの報告をもとに平成28年度における消防、防災、保安行政の現況を取りまとめたものです。各方面で、消防防災に関する参考資料として活用され、安全で安心な地域づくりの一助となれば幸いです。

平成29年8月

福井県安全環境部危機対策・防災課

課長 谷口 竜哉

目 次

〔消 防 編〕

第1章 消防の概要

第1表 福井県常備消防体制	1
第2表 消防の概況表	2

第2章 火災の実態

1 概況	4
2 出火件数および損害額の状況	4
3 出火原因	4
4 火災による死者の状況	5
第1表 1日当たりの損害状況	5
第2表 平成28年火災発生状況と前年比較表	6
第1図 過去10年間の出火件数と損害額の推移	7
第2図 過去10年間の死傷者数の推移	7
第3図 火災発生件数の内訳	8
第4図 うち建物火災件数の内訳	8
第5図 損害額の内訳	8
第3表 平成28年月別火災発生状況表	9
第4表 市町別火災状況	10
第5表 市町別月別火災発生件数、損害額および出火率	12
第6表 全火災の出火原因別損害状況表	14
第6図 全火災の出火原因別状況	14
第7表 死者の死因別発生状況表	15
第8表 死者の経過別・年令別発生状況表	15

第3章 救急業務の実態

1 救急体制	16
2 救急医療体制	16
3 救急活動状況	16
第1表 救急体制状況表	17
第2表 医療機関状況表	17
第3表 救急活動状況表	17
第4表 高速自動車道における救急活動状況表	17
第1図 過去10年間の救急活動の推移	18
第2図 出場件数の事故種別内訳	18
第3図 搬送人員の事故種別内訳	18

第4章 予防行政の概況

1 防火対象物定期点検報告制度	19
第1表 防火対象物定期点検報告制度実施状況表	19
2 消防設備士試験・講習の状況	20
第2表 消防設備士試験実施状況表	20
第3表 消防設備士義務講習実施状況表	20

第5章 危険物規制

1 概況	21
第1図 危険物施設構成比	21
第2図 過去10年間の危険物施設の推移	21
第1表 施設別危険物施設数	22
第2表 指定数量別・類別危険物施設数	23

第3表	危険物施設に対する立入検査状況	24
第4表の1	容量別屋外タンク貯蔵所数	25
第4表の2	品名別屋外タンク貯蔵所数	25
第5表	危険物取扱者試験実施状況	26
第6表	危険物取扱者保安講習実施状況	26
2	危険物施設の火災・漏えい事故等	27
第7表	過去5年間の危険物施設における災害事故発生件数	27

第6章 消防の概要

1	消防の組織	28
2	消防施設	28
3	民間防火組織	28
4	表彰	29
5	消防の現況	29
第1表	消防職団員数の推移	29
第2表	消防機関の現況	29
第3表	消防の概況	30
第4表	階級別消防職員数	31
第5表	階級別非常勤消防団員数	32
第6表	年齢別消防吏員・消防団員数	33
第7表	在職年数別消防吏員および消防団員数	34
第8表	消防ポンプ自動車等現有数（消防本部・署）	35
第9表	消防ポンプ自動車等現有数（消防団）	36
第10表	化学消火薬剤備蓄状況	37
第11表	消防水利の状況	38
第12表	消防機関の出動状況	39
第13表	消防吏員・団員の公務による死傷者数	39
第14表	火災通報施設等の現況	40
第15表	無線通信施設の現況	41
第16表	幼年消防クラブの現況	42
第17表	少年消防クラブの現況	43
第18表	女性防火クラブの現況および活動状況	44
第19表	消防表彰受賞状況	45

第7章 消防教育訓練

1	消防学校の概要	46
2	教育訓練	46
第1表	平成28年度消防本部(局)別受講者数	47
第2表	平成28年度消防学校教育訓練実施状況	48
第3表	平成28年度消防大学校派遣者数	48

[防災編]

第1章 災害の発生状況

1	平成28年中の災害発生状況	49
第1表	平成28年中の災害発生状況	49
2	過去5年間の災害発生状況	51

第2章 平成28年の天候概況

1	天候の特徴	61
2	月別気象概況	62

第3章 防災訓練の実施状況

I 総合防災訓練	6 5
II 原子力防災訓練	6 8
III 過去5年間の総合防災訓練等の実施状況	7 4
IV 市町別自主防災組織の結成状況	7 5

第4章 平成28年度防災行政無線利用状況

1 無線局の現況	7 6
2 利用状況	7 8
3 多重局通信回数集計表	8 0
4 端末局無線通信回数調	8 1
5 非常通信訓練実施状況	8 2

第5章 防災ヘリコプターの運航体制

1 運航基地	8 5
2 組織図	8 5
3 運航時間	8 5
4 活動業務	8 5
第1表 福井県防災ヘリコプター運航実績表	8 6

第6章 衛星車載局の運用体制

1 収容	8 7
2 運用組織図	8 7
3 運用	8 7
4 主な仕様	8 7

[保安編]

第1章 高压ガス保安

概況	8 9
第1表 市町別高压ガス関係事業所数	9 0
第2表 ガスの種類別高压ガス製造事業所数	9 1
第3表 処理量別・製造形態別製造事業所数	9 2
第4表 高压ガス貯槽数	9 3
第5表 平成28年度高压ガス製造保安責任者試験実施状況	9 4
第6表 平成28年度高压ガス販売主任者試験実施状況	9 5
第7表 平成28年度液化石油ガス設備士試験実施状況	9 5
第8表 平成28年度高压ガス関係免状交付状況	9 5
第9表 平成28年度高压ガス関係申請状況	9 6
第10表 平成28年度高压ガス事故発生状況	9 7

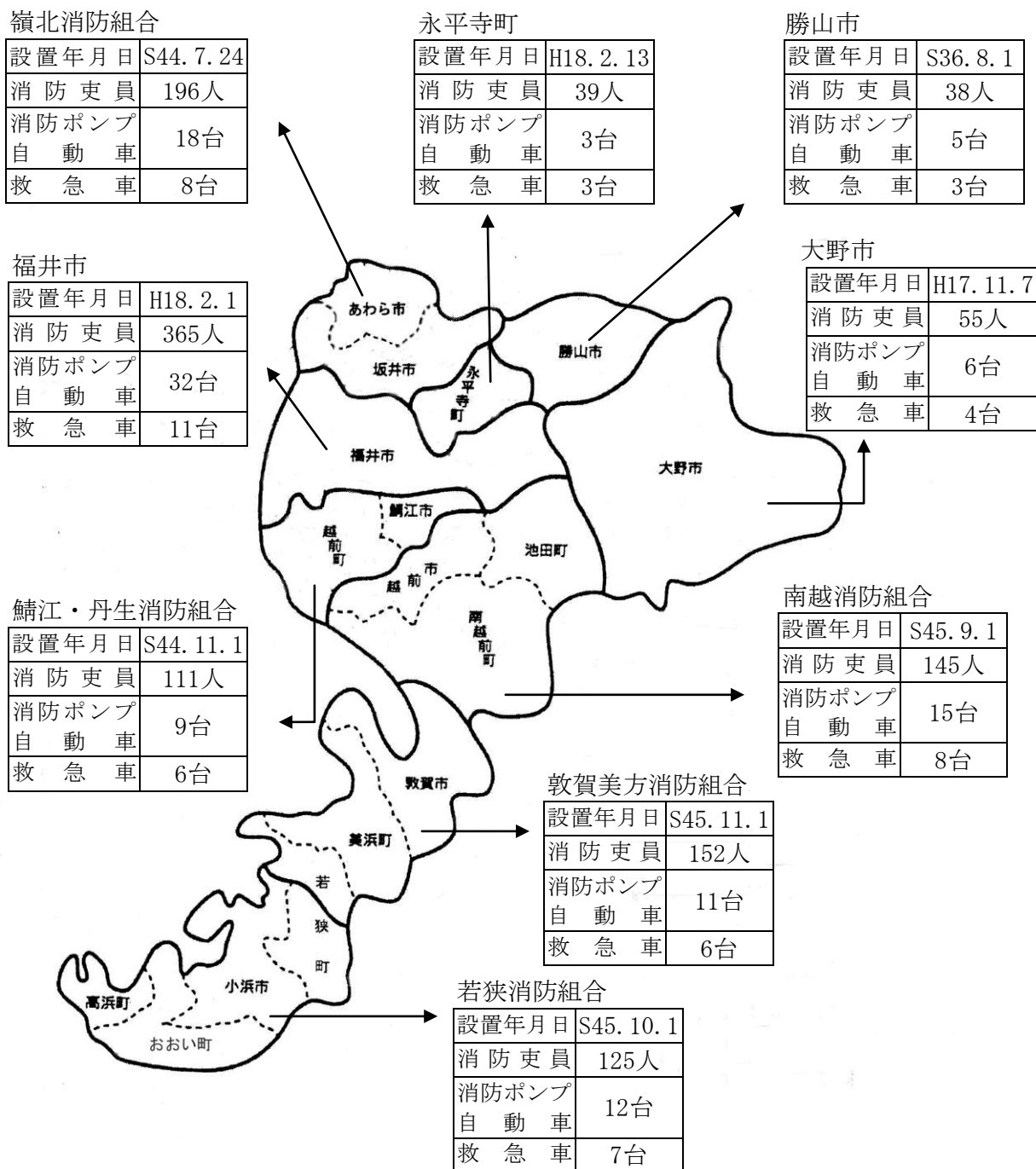
第2章 火薬類保安

概況	9 8
第1表 火薬類関係事業所等数	9 8
第2表 鉄砲関係事業所数	9 9
第3表 火薬類(爆薬)の消費量の推移	9 9
第4表 火薬類取扱および丙種火薬類製造保安責任者試験実施状況	9 9
第5表 平成28年度火薬類保安講習関係講習会実施状況	9 9
第6表 平成28年度火薬類許可申請等の状況	1 0 0
第7表 平成28年度事故発生状況	1 0 1

消 防 編

第1章 消防の概要

第1表 福井県常備消防体制(平成29年4月1日現在)



※台数については、消防団分を含まない

第2表 消防の概況表

面積（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」H28. 10. 1現在）		4,190.49	km ²
平成27年国勢調査（確定値）人口		786,740	人
推計人口（平成28年4月1日現在）		783,023	人
推計世帯数（平成28年4月1日現在）		280,075	世帯
65才以上高齢者数（福井県の推計人口 平成28年4月1日現在）		224,401	人
高齢化率（ ” ” ）		28.7	%
地域別人口	福井坂井地区（平成27年国勢調査 確定値）		404,796 人
	奥越地区		57,234 人
	丹南地区		184,783 人
	嶺南地区		139,927 人
28年火災状況	火災件数		196 件
	うち	建物火災件数	127 件
		林野火災件数	1 件
	建物焼損面積		7,422 m ²
	林野焼損面積		7 a
	損害額		412,033 千円
	うち	建物火災	404,224 千円
		死者（自殺者数内数）	
負傷者		31 人	
出火率（人口1万人に対する出火件数） ※人口：平成28年3月31日現在		2.46	件
28年救急状況	救急出場件数		28,511 件
	うち	急病	17,268 件
		交通事故	2,718 件
		一般負傷	4,221 件
搬送人員		27,330 人	
消防本部・署所	消防本部	単独設置市	3
		単独設置町	1
		消防一部事務組合	5
	消防署数		19
	出張所数		28
	消防職員	消防吏員	1,226 人
その他の職員		29 人	
合計		1,255 人	
消防団	消防団数		18
	分団数		234
	消防団員	非常勤団員数	5,809 人
		常勤団員数	—
		合計	5,809 人

消 防 車 両 等	区 分		消防本部・署所	消 防 団	
	普通消防ポンプ自動車			56 台	136 台
水槽付消防ポンプ自動車			22 台	—	
はしご付消防ポンプ自動車			13 台	—	
屈折はしご付消防ポンプ自動車			1 台	—	
大型高所放水車			2 台	—	
泡原液搬送車			2 台	—	
化学消防自動車			17 台	—	
指揮車			20 台	—	
小型動力ポンプ付積載車			—	208 台	
小型動力ポンプ(車両に積載していないもの)			29 台	109 台	
広報車			30 台	—	
資機材搬送車			26 台	—	
屈折放水塔車			0 台	—	
救急自動車			56 台	—	
救助工作車			15 台	—	
その他の車両			19 台	—	
消 防 水 利	消火栓	公 設		18,243 個	
		私 設		98 個	
	防火水槽	100m ³ 以上		138 基	
		60m ³ 以上 100m ³ 未満		138 基	
		40m ³ 以上 60m ³ 未満		4,797 基	
		20m ³ 以上 40m ³ 未満		487 基	
	井戸	公 設		79 個	
		私 設		—	
そ の 他				581 個	
通 信 施 設 等	消防用無線		基地局および固定局		67 局
			移動局		955 局
	防災行政無線	市町	同報無線	同報親局	28 局
				同報受信設備	28,037 局
			移動無線	基地局	24 局
		移動局		920 局	
		県	固定系	地上系	29 局
				衛星系	71 局
	移動系		基地局等	19 局	
			移動局等	221 局	
	テレビ監視装置				2 基
	火災報知専用電話				118 回線
消防電話				125 回線	

第2章 火災の実態

1 概 況

平成28年中の火災発生件数は196件、死者6人、負傷者31人、損害額4億1203万円、焼損棟数176棟、り災世帯数91世帯、り災人員255人となっており、一日当たりの損害状況は第1表のとおりで、概ね毎日113万円が灰じんに帰していることになる。

火災発生件数、損害額および死傷者数の過去10年間の推移は、第1図、第2図のとおりであり、火災発生件数においては、平成19年中が最も多く、平成27年中が最も少ない。

2 出火件数および損害額の状況

(1) 出火件数

総出火件数は196件で、これを火災種別ごとにみると、第3図のように建物火災が127件で全体の64.8%を占め、林野火災1件(0.5%)、車両火災24件(12.2%)、その他火災44件(22.4%)となっている。

また、建物火災だけでみると、第4図のように一般住宅が50件(39.4%)で最も多く、次いで工場18件(14.2%)、共同住宅6件(4.7%)、倉庫6件(4.7%)、複合用途(特定)6件(4.7%)、併用住宅5件(3.9%)、飲食店5件(3.9%)、その他31件(24.4%)となっている。

第3表の月別火災発生状況表を見ると、12月の発生件数が24件で最も多く、11月が11件と最も少ない。

第4表では、市町別の火災発生状況を示している。

(2) 損害額

損害額は、4億1,203万円で、これを火災種別ごとにみると、第5図のように建物火災が4億422万円で全体の98.1%を占め、次いで車両火災626万円(1.52%)となっている。火災1件当たりの損害額は約210万円となる。

第3表の月別火災発生状況表をみると、2月の損害額が約7,957万円で最も多く、6月が約326万円で最も少ない。

3 出火原因

全火災の出火原因別状況を表したのが第6図であり、出火原因別損害状況を表したのが第6表である。

第6図をみると、出火原因ではたばこが最も多く19件で9.7%を占め、次いで、こんろ15件(7.7%)、ストーブ14件(7.1%)、たき火11件(5.6%)、電灯電話等の配線10件(5.1%)などとなっている。

4 火災による死者の状況

死者の死因別発生状況を表したのが第7表であり、死者の経過別、年齢別発生状況を表したのが第8表である。

第7表をみると、死因では、一酸化炭素中毒が2人、火傷が1人、自殺が3人となっている。

また、平成28年中の死者に占める高齢者は4人で全体の約67%となった。

第1表 1日当たりの損害状況

区 分	単位	平成28年 (A)	平成27年 (B)	対前年増加数 (A) - (B)
出 火 件 数	件	0. 54	0. 51	0. 03
損 害 額	万円	113	137	△24
焼 損 棟 数	棟	0. 48	0. 44	0. 04
り 災 世 帯 数	世帯	0. 25	0. 22	0. 03
り 災 人 員	人	0. 70	0. 55	0. 15

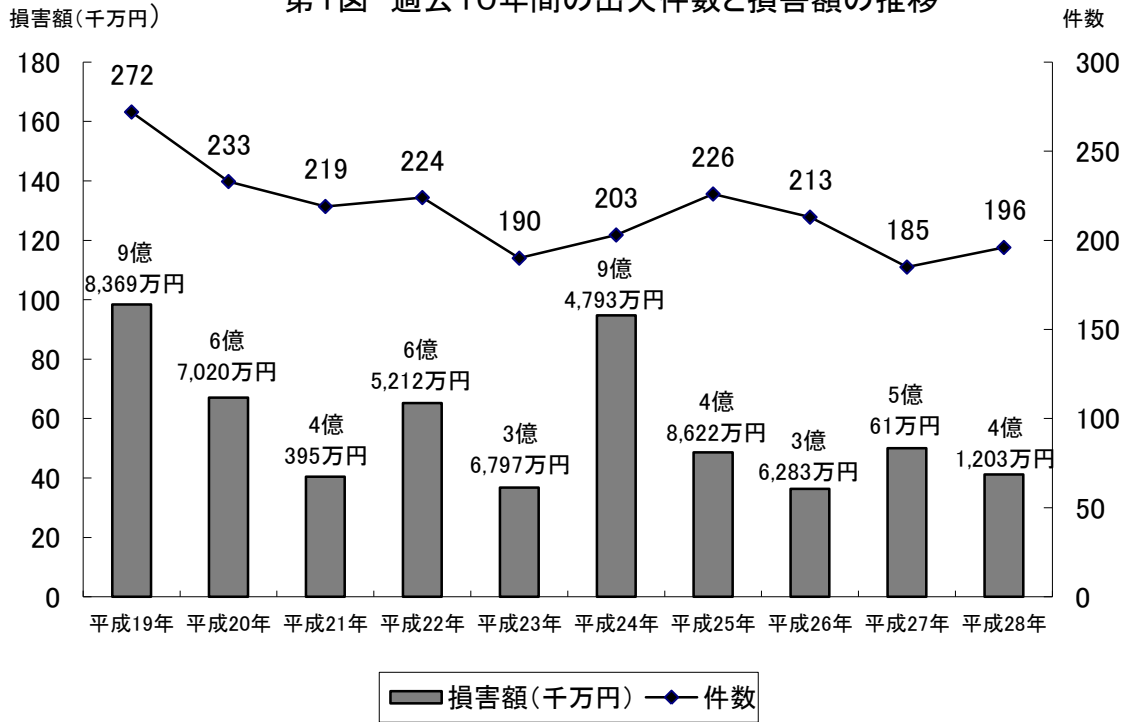
第2表 平成28年火災発生状況と前年比較表

区 分	平成28年(A)	平成27年(B)	対前年増加数 (A) - (B) = (C)
総 出 火 件 数	196	185	11
建 物	127	106	21
林 野	1	3	△ 2
車 両	24	31	△ 7
船 舶	0	1	△ 1
そ の 他	44	44	0
焼 損 棟 数 (棟)	176	162	14
全 焼	45	35	10
半 焼	12	8	4
部 分 焼	47	57	△ 10
ぼ や	72	62	10
り 災 世 帯 数 (世 帯)	91	82	9
全 損	23	24	△ 1
半 損	8	5	3
小 損	60	53	7
り 災 人 員 (人)	255	201	54
建 物 焼 損 面 積 (m ²)	7,422	9,345	△ 1,923
林 野 焼 損 面 積 (a)	7	13	△ 6
損 害 額 合 計 (千 円)	412,033	500,611	△ 88,578
建 物	404,224	485,363	△ 81,139
林 野	0	56	△ 56
車 両	6,263	7,963	△ 1,700
船 舶	0	4	△ 4
そ の 他	1,546	7,225	△ 5,679
爆 発	0	0	0
死 者 (人)	6	9	△ 3
() は 放 火 自 殺 者 内 数	(3)	(2)	(1)
建 物	4 (1)	5	△ 1 (1)
林 野	0	0	0
車 両	0	3 (1)	△ 3 (△ 1)
船 舶	0	0	0
そ の 他	2 (2)	1 (1)	1 (1)
負 傷 者 (人)	31	22	9
建 物	27	21	6
林 野	0	0	0
車 両	2	0	2
船 舶	0	0	0
そ の 他	2	1	1
出 火 率 (人口1万人に対する出火件数)	2.46	2.31	

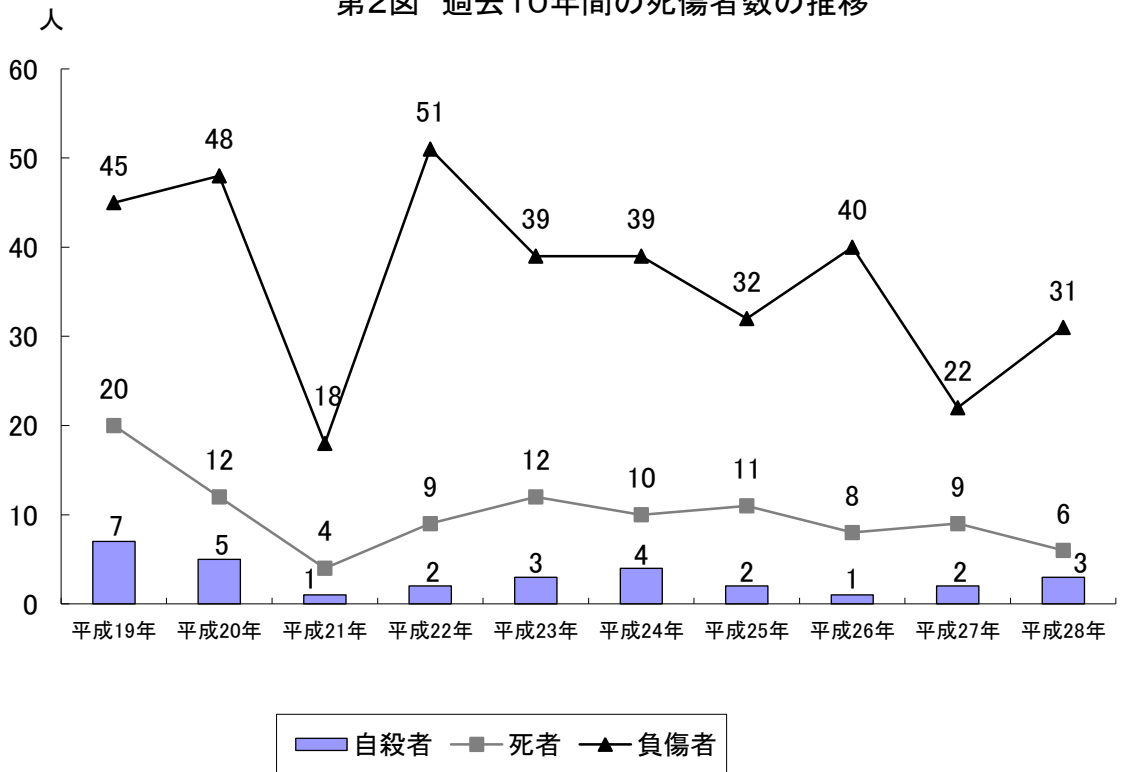
平成28年人口：平成28年3月31日現在の住民基本台帳人口による。

平成27年人口：平成27年3月31日現在の住民基本台帳人口による。

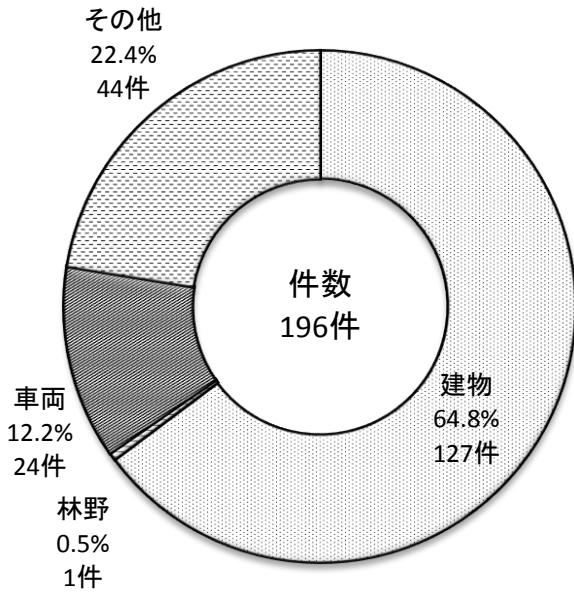
第1図 過去10年間の出火件数と損害額の推移



第2図 過去10年間の死傷者数の推移

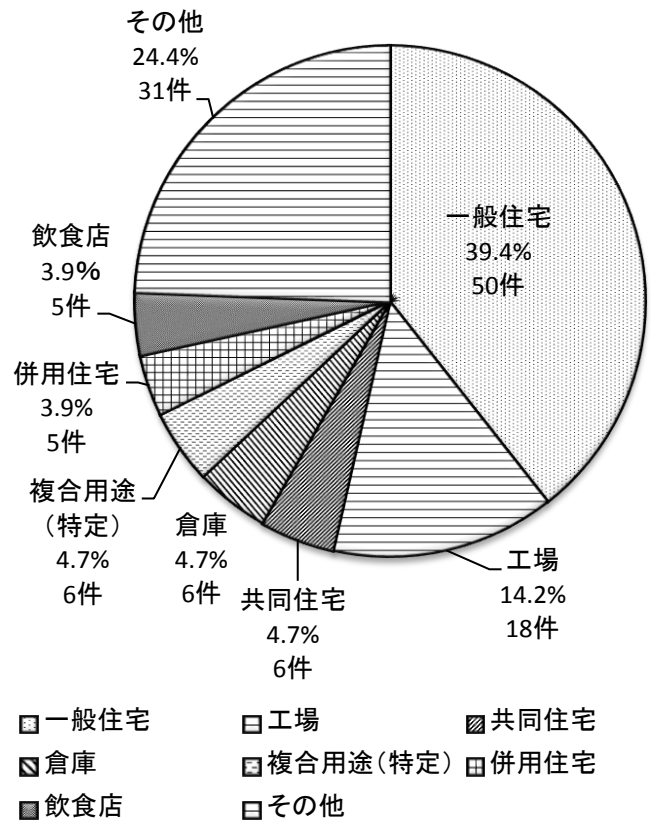


第3図 火災発生件数の内訳



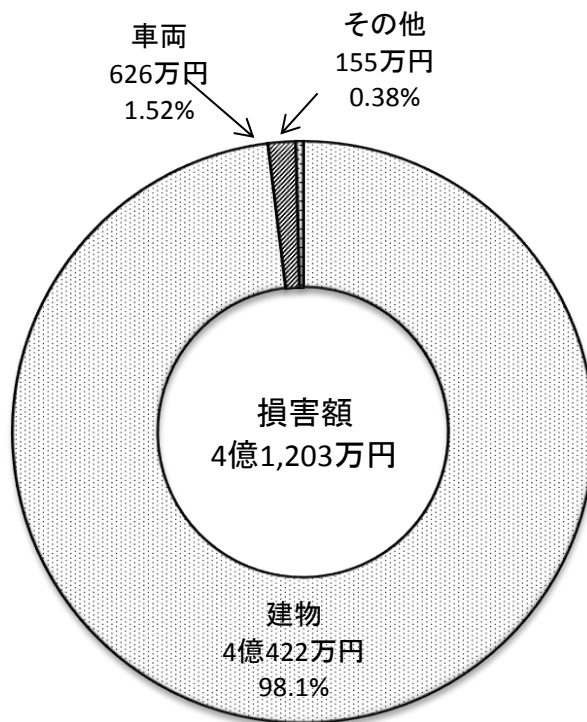
■建物 □林野 ■車両 ■船舶 □その他

第4図 うち建物火災件数の内訳



■一般住宅 □工場 ■共同住宅
■倉庫 □複合用途(特定) □併用住宅
■飲食店 □その他

第5図 損害額の内訳



■建物 □林野 ■車両 ■船舶 □その他

第3表 平成28年月別火災発生状況表

月	出火件数(件)						焼損棟数(棟)				焼損面積			り災世帯数(世帯)			り災人員(人)	死(人) 内は放火自殺者(人)	負傷者(人)	損害額(千円)								
	合計	建物	林野	車両	船舶	その他	合計	全焼	半焼	部分焼	建物	林野(a)	合計	全	半	小				合計	建物	林野	車両	船舶	その他	爆		
																											合計	全焼
1	18	15	0	2	0	1	22	6	1	6	9	982	0	17	5	2	10	45	2(1)	5	71,135	69,409	0	1,723	0	3	0	
2	16	13	0	1	0	2	19	7	1	6	5	862	0	10	5	0	5	27	1(0)	2	79,572	78,878	0	694	0	0	0	0
3	18	8	0	3	0	7	13	4	1	5	3	940	5	4	2	0	2	7	1(0)	3	29,031	27,705	0	635	0	691	0	0
4	15	10	0	2	0	3	10	1	0	4	5	237	0	10	0	0	10	22	0(0)	2	8,158	8,053	0	95	0	10	0	0
5	18	14	1	1	0	2	14	1	1	6	6	684	2	4	0	0	4	12	0(0)	1	57,395	56,993	0	303	0	99	0	0
6	14	6	0	1	0	7	12	5	1	4	2	216	0	2	0	1	1	3	0(0)	0	3,256	2,746	0	461	0	49	0	0
7	15	7	0	3	0	5	8	1	1	5	539	0	3	0	0	3	8	0(0)	0	0	5,813	5,587	0	210	0	16	0	0
8	19	9	0	3	0	7	16	7	1	2	6	821	0	4	1	1	2	17	0(0)	3	14,810	13,449	0	1,066	0	295	0	0
9	13	6	0	4	0	3	6	1	0	0	5	190	0	3	1	0	2	9	0(0)	1	9,159	8,435	0	605	0	119	0	0
10	15	10	0	1	0	4	17	5	1	3	8	1,032	0	11	4	1	6	46	0(0)	2	69,919	69,513	0	172	0	234	0	0
11	11	9	0	2	0	0	13	2	1	3	7	177	0	6	1	0	5	14	0(0)	3	21,831	21,575	0	231	0	25	0	0
12	24	20	0	1	0	3	26	5	3	7	11	742	0	17	4	3	10	45	2(2)	9	41,954	41,881	0	68	0	5	0	0
計	196	127	1	24	0	44	176	45	12	47	72	7,422	7	91	23	8	60	255	6(3)	31	412,033	404,224	0	6,263	0	1,546	0	0

第4表 市町別火災状況

区分	出火件数(件)							焼損棟数(棟)					り災世帯数(世帯)			り災人員(人)	
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	全損	半損		小損
福井市	53	33	0	9	0	0	11	40	7	0	13	20	26	4	0	22	61
敦賀市	17	15	0	1	0	0	1	25	8	2	5	10	17	6	0	11	54
小浜市	9	4	0	2	0	0	3	9	4	0	2	3	2	0	0	2	3
大野市	4	4	0	0	0	0	0	5	2	1	1	1	1	1	0	0	1
勝山市	8	4	0	1	0	0	3	4	2	0	0	2	2	1	0	1	10
鯖江市	19	13	0	3	0	0	3	18	4	1	9	4	4	2	1	1	9
あわら市	9	4	1	0	0	0	4	4	1	1	1	1	2	0	2	0	8
越前市	18	15	0	2	0	0	1	19	4	1	6	8	12	2	1	9	29
坂井市	13	11	0	0	0	0	2	12	1	2	1	8	6	1	1	4	20
市計	150	103	1	18	0	0	28	136	33	8	38	57	72	17	5	50	195
永平寺町	5	4	0	1	0	0	0	9	5	0	0	4	2	2	0	0	2
池田町	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南越前町	4	1	0	1	0	0	2	1	1	0	0	0	1	1	0	0	4
越前町	9	7	0	0	0	0	2	11	3	2	3	3	3	1	1	1	4
美浜町	3	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高浜町	9	5	0	1	0	0	3	11	2	1	3	5	6	1	1	4	26
おおい町	4	2	0	0	0	0	2	3	0	1	1	1	3	0	1	2	9
若狭町 (内訳)	11	5	0	1	0	0	5	5	1	0	2	2	4	1	0	3	15
旧三方町 敦賀美方消防管轄	7	4	0	1	0	0	2	4	1	0	2	1	3	1	0	2	10
旧上中町 若狭消防管轄	4	1	0	0	0	0	3	1	0	0	0	1	1	0	0	1	5
町計	46	24	0	6	0	0	16	40	12	4	9	15	19	6	3	10	60
県計	196	127	1	24	0	0	44	176	45	12	47	72	91	23	8	60	255

若狭町は、旧三方町と旧若狭町では消防の管轄が異なるため、内訳を記載した。

期間：平成28年1月1日～12月31日

死傷者数(人)		焼 損 面 積			損 害 額(千円)						
死 者	負 傷 者	建 物 床 (㎡)	建 物 表 (㎡)	林 野 (a)	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	爆 発
1	7	1,984	8	5	103,889	101,441	0	2,262	0	186	0
2	7	437	4	0	70,421	69,539	0	756	0	126	0
0	0	169	19	0	3,245	2,856	0	379	0	10	0
0	0	191	0	0	2,585	2,585	0	0	0	0	0
0	2	509	2	0	6,987	6,527	0	450	0	10	0
1	3	551	203	0	55,268	54,482	0	779	0	7	0
1	0	102	3	2	11,938	11,841	0	0	0	97	0
1	1	1,059	26	0	25,299	25,007	0	34	0	258	0
0	2	323	2	0	21,898	21,898	0	0	0	0	0
6	22	5,325	267	7	301,530	296,176	0	4,660	0	694	0
0	4	270	3	0	2,209	2,141	0	68	0	0	0
0	0	0	0	0	536	0	0	536	0	0	0
0	1	336	0	0	5,444	5,295	0	3	0	146	0
0	0	931	24	0	78,624	78,624	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	130	0	0	130	0	0	0
0	3	445	7	0	9,669	8,838	0	831	0	0	0
0	1	41	2	0	7,065	7,065	0	0	0	0	0
0	0	74	0	0	6,826	6,085	0	35	0	706	0
0	0	74	0	0	6,126	6,076	0	35	0	15	0
0	0	0	0	0	700	9	0	0	0	691	0
0	9	2,097	36	0	110,503	108,048	0	1,603	0	852	0
6	31	7,422	303	7	412,033	404,224	0	6,263	0	1,546	0

第5表 市町別月別火災発生件数、損害額および出火率

区 分	総計		1月		2月		3月		4月		5月		6月	
	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)
福井市	53	103,889	8	17,544	3	28,497	7	23,080	6	7,933	2	1,980	4	289
敦賀市	17	70,421	3	13,665	2	25,922	0	0	0	0	2	320	1	0
小浜市	9	3,245	0	0	1	0	0	0	2	84	0	0	0	0
大野市	4	2,585	0	0	0	0	1	60	0	0	1	9	1	925
勝山市	8	6,987	1	3,550	0	0	0	0	0	0	2	3	2	450
鯖江市	19	55,268	1	11,984	4	22,431	2	1,326	1	60	2	32	3	329
あわら市	9	11,938	2	10,104	0	0	1	0	2	2	3	1,832	1	0
越前市	18	25,299	3	14,288	0	0	2	3,879	1	43	1	3	0	0
坂井市	13	21,898	0	0	1	66	1	0	1	1	2	1,758	0	0
市 計	150	301,530	18	71,135	11	76,916	14	28,345	13	8,123	15	5,937	12	1,993
永平寺町	5	2,209	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
池田町	1	536	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南越前町	4	5,444	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
越前町	9	78,624	0	0	0	0	0	0	1	0	1	51,449	2	1,263
美浜町	3	130	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
高浜町	9	9,669	0	0	3	2,580	0	0	0	0	0	0	0	0
おおい町	4	7,065	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
若狭町 (内訳)	11	6,826	0	0	2	76	2	686	1	35	2	9	0	0
旧三方町 <small>敦賀美方消防管轄</small>	7	6,126	0	0	1	67	1	0	1	35	1	4	0	0
旧上中町 <small>若狭消防管轄</small>	4	700	0	0	1	9	1	686	0	0	1	5	0	0
町 計	46	110,503	0	0	5	2,656	4	686	2	35	3	51,458	2	1,263
県 計	196	412,033	18	71,135	16	79,572	18	29,031	15	8,158	18	57,395	14	3,256

若狭町は、旧三方町と旧若狭町では消防の管轄が異なるため、内訳を記載した。

出火率(人口1万人に対する出火件数)は、平成28年3月31日現在の住民基本台帳人口により算定

期間:平成28年1月1日～12月31日

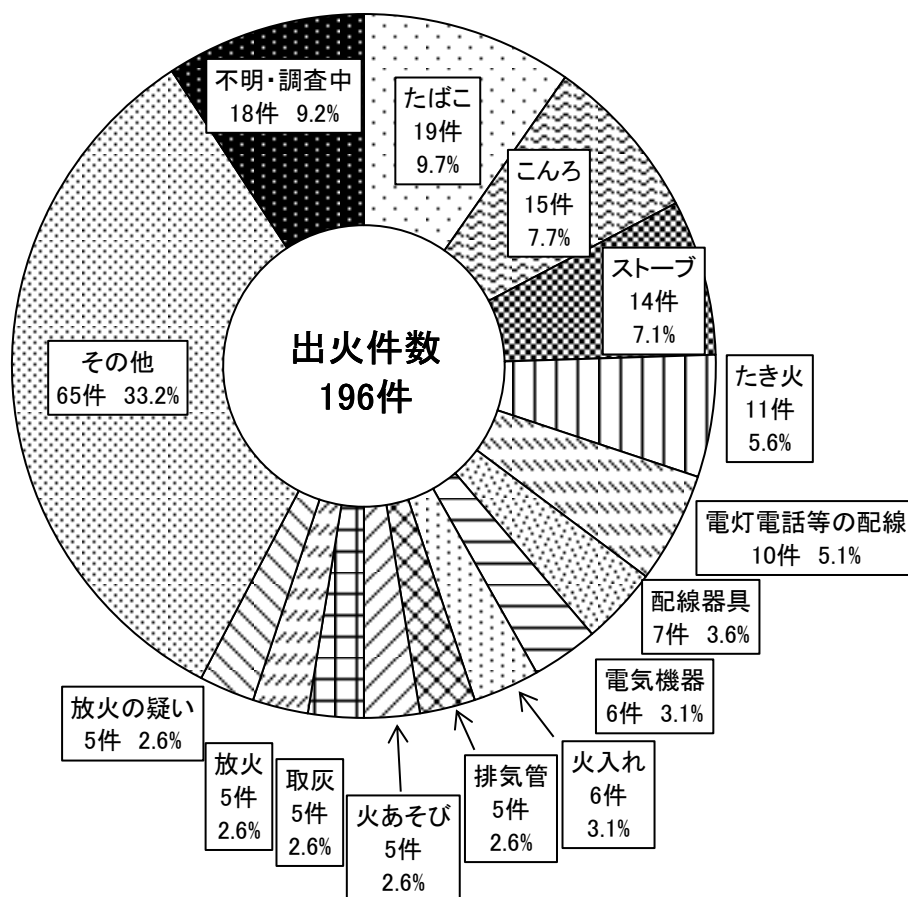
7月		8月		9月		10月		11月		12月		出火率 (人口 1万人に 対する 出火件数)
件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	
3	7	4	399	3	155	4	20,428	4	965	5	2,612	2.00
3	643	0	0	1	8	1	16,349	2	13,388	2	126	2.54
1	74	2	2,194	0	0	0	0	2	875	1	18	2.98
0	0	1	1,591	0	0	0	0	0	0	0	0	1.16
0	0	1	2,870	1	10	1	104	0	0	0	0	3.28
0	0	1	14	1	8,251	0	0	1	6,500	3	4,341	2.75
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.11
1	4,286	2	259	2	22	3	2,436	1	73	2	10	2.16
3	658	0	0	0	0	1	3	1	30	3	19,382	1.40
11	5,668	11	7,327	8	8,446	10	39,320	11	21,831	16	26,489	2.16
0	0	1	26	0	0	0	0	0	0	4	2,183	2.62
0	0	0	0	1	536	0	0	0	0	0	0	3.61
0	0	1	37	2	112	1	5,295	0	0	0	0	3.60
0	0	2	341	1	0	1	25,294	0	0	1	277	3.99
2	130	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.02
1	0	3	7,079	0	0	2	10	0	0	0	0	8.42
0	0	0	0	1	65	1	0	0	0	1	7,000	4.73
1	15	1	0	0	0	0	0	0	0	2	6,005	7.05
1	15	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6,005	
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	145	8	7,483	5	713	5	30,599	0	0	8	15,465	4.59
15	5,813	19	14,810	13	9,159	15	69,919	11	21,831	24	41,954	2.46

第6表 全火災の出火原因別損害状況表

期間:平成28年1月1日～12月31日

出火原因	出火件数(件)	焼損床面積(㎡)	焼損棟数(棟)	り災世帯数(世帯)	損害額(千円)
たばこ	19	408	18	10	35,041
こんろ	15	842	18	16	51,763
ストーブ	14	1,545	21	16	43,925
たき火	11	190	3	0	3,685
電灯電話等の配線	10	1,277	10	7	90,578
配線器具	7	662	8	6	17,102
電気機器	6	0	4	0	3,048
火入れ	6	12	1	0	89
排気管	5	0	0	0	921
火あそび	5	4	4	2	635
取灰	5	660	8	3	15,159
放火	5	185	8	5	19,241
放火の疑い	5	0	2	0	28
その他	65	501	48	14	78,227
不明・調査中	18	1,136	23	12	52,591
合計	196	7,422	176	91	412,033

第6図 全火災の出火原因別状況



第7表 死者の死因別発生状況表

死因 火災種別	一酸化炭素 中毒・窒息	火傷	打撲・骨折 等	自殺	その他	不明	合計(人)
建 物 火 災	2	1	0	1	0	0	4
林 野 火 災	0	0	0	0	0	0	0
車 両 火 災	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他 火 災	0	0	0	2	0	0	2
合 計 (人)	2	1	0	3	0	0	6

第8表 死者の経過別・年齢別発生状況表

経過別 年齢別(歳)	0～ 5	6～ 10	11 ～ 20	21 ～ 30	31 ～ 40	41 ～ 50	51 ～ 60	61 ～ 64	65 ～ 70	71 ～ 80	81～	不明	合計 (人)
泥酔によりほとんど避 難できず									1				1
延焼拡大が早く逃げ 切れず										1			1
放火自殺							2			1			3
不明・調査中										1			1
合計(人)	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3	0	0	6

第3章 救急業務の実態

1 救急体制

災害により生じた事故もしくは屋外および公衆の出入りする場所、または屋内において生じた事故で、迅速に搬送する手段がない場合に傷病者を医療機関等へ搬送する業務が救急業務であるが、平成29年4月1日現在、第1表のとおり、救急自動車56台(うち高規格救急自動車55台)、救急隊員559(うち救急救命士228名)で救急業務にあたっている。

2 救急医療体制

救急隊が搬送する傷病者を受け入れる救急告示医療機関数は、平成29年4月1日現在、第2表のとおり53施設である。

3 救急活動状況

救急活動状況を表したのが第3表であり、救急出場件数は28,511件、搬送人員は27,330人となっている。県内1日あたりの出場件数は約78件となり、約18分に1回の割合で救急隊が出場したことになる。

過去10年間の出場件数および搬送人員の推移を表したのが第1図であり、出場件数、搬送人員ともにほぼ毎年増加している。

出場件数、搬送人員の事故種別内訳を表したのが第2図、第3図であり、出場件数の事故種別内訳では、急病が17,268件で、全体の60.6%を占め、次いで一般負傷4,221件(14.8%)、交通事故2,718件(9.5%)などとなっている。搬送人員では急病が16,270人で全体の59.5%を占め、次いで一般負傷4,052人(14.8%)、交通事故3,091人(11.3%)などとなっている。

第1表 救急体制状況表

平成29年4月1日現在

救急体制 消防(局)本部名	救急自動車			救急隊員					
	高規格 救急車	通常型	合計	専任		兼任		合計	
				救急救命士		救急救命士		救急救命士	
福井市	11	0	11	54	35	27	9	81	44
大野市	4	0	4			46	18	46	18
勝山市	3	0	3			26	8	26	8
永平寺町	3	0	3			30	8	30	8
嶺北消防組合	8	0	8			84	33	84	33
鯖江・丹生消防組合	6	0	6			106	36	106	36
南越消防組合	7	1	8			72	23	72	23
敦賀美方消防組合	6	0	6	30	25	14	7	44	32
若狭消防組合	7	0	7	8	6	62	20	70	26
合計	55	1	56	92	66	467	162	559	228

第2表 医療機関状況表

平成29年4月1日現在

告示別 種別	国・公立	公的	私的		合計
			病院	診療所	
救急告示医療機関	7	5	26	15	53
その他の医療機関	17	7	28	444	496
合計	24	12	54	459	549

第3表 救急活動状況

(平成28年中)

	合計	火災	自然 災害	水難	交通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自行 損傷	急病	その他
救急出場件数	28,511	107	6	40	2,718	256	229	4,221	79	229	17,268	3,358
搬送人員	27,330	29	5	24	3,091	250	238	4,052	68	141	16,270	3,162

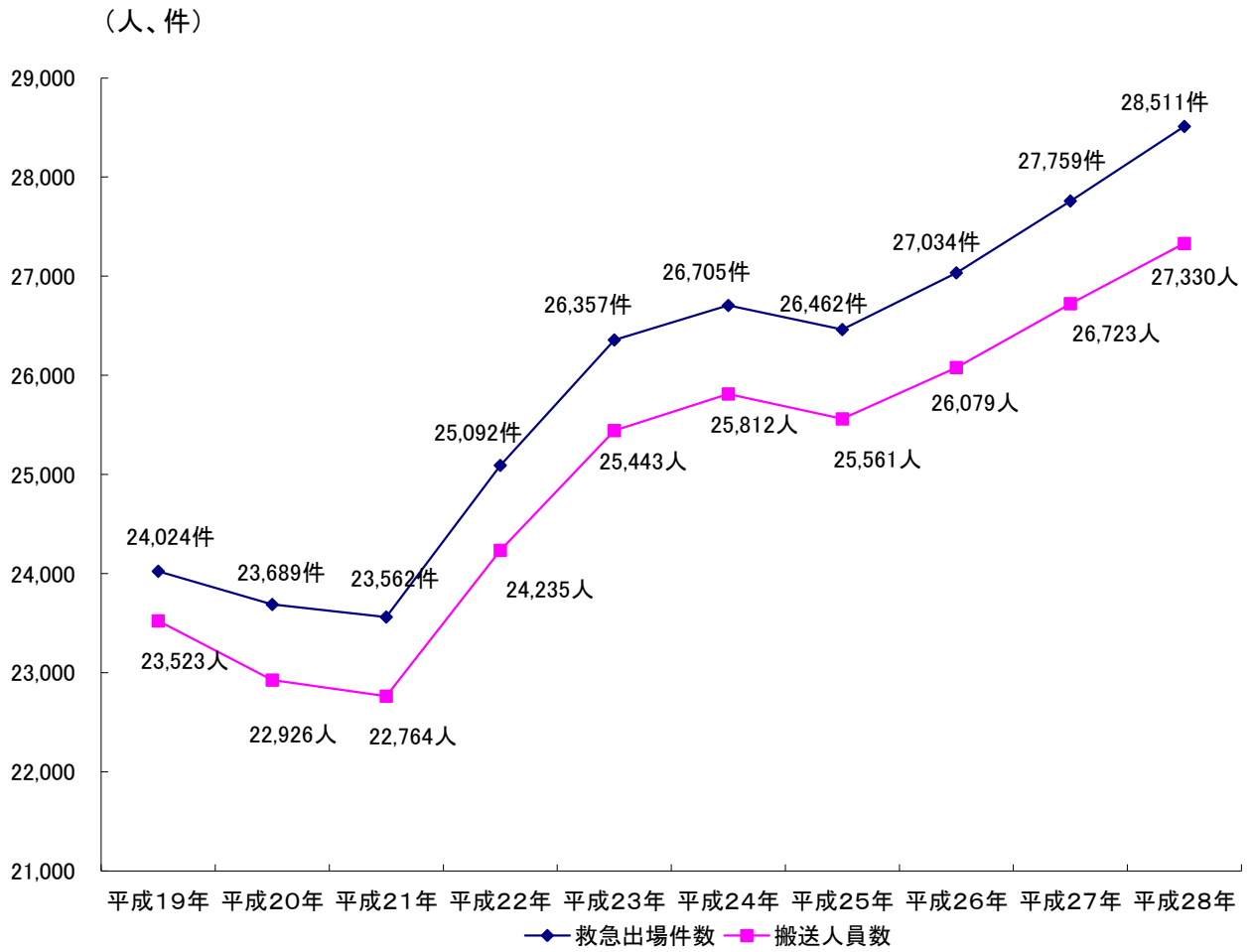
第4表 高速自動車道における救急活動状況表

(平成28年中)

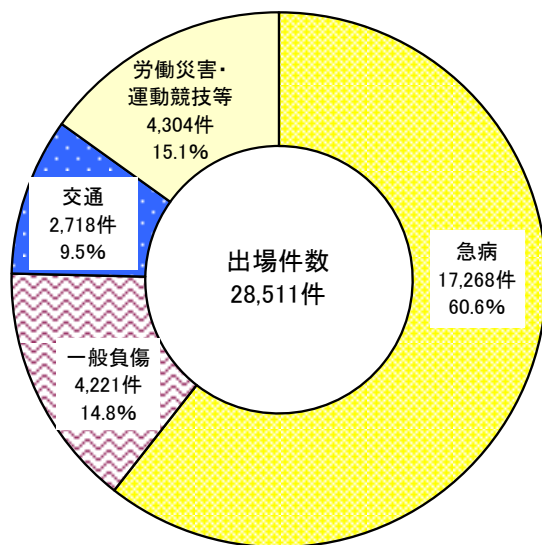
高速道路名	北陸自動車道									小計
担当消防 本部名	嶺北消防組合 消防本部		福井市 消防局		鯖江・丹生消防 組合消防本部		南越消防組合 消防本部		敦賀美方消防 組合消防本部	
I C 名	金津	丸岡	福井北	福井	鯖江	武生	今庄	敦賀		
救急出動 件数	8	7	6	3	8	10	29	15		86
搬送人員	9	7	8	4	9	11	29	13		90

高速道路名	舞鶴若狭自動車道								小計	計
担当消防 本部名	敦賀美方消防組合 消防本部			若狭消防組合 消防本部						
I C 名	若狭美浜	若狭三方	若狭上中	大飯高浜	小浜西	小浜	若狭上中			
救急出動 件数	2	4	0	2	4	1	0	13		99
搬送人員	2	4	0	2	4	1	0	13		103

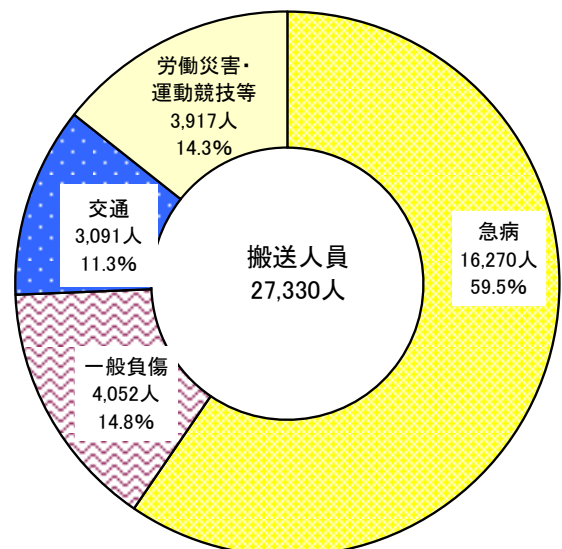
第1図 過去10年間の救急活動の推移



第2図 出場件数の事故種別内訳



第3図 搬送人員の事故種別内訳



第4章 予防行政の概況

1 防火対象物定期点検報告制度

不特定多数の人が出入りするなど一定の防火対象物について、所有者や賃借人等のうち管理について権原を有する人が、火災予防のために資格者による定期点検を行い、その結果を消防機関へ報告する制度である。

この制度による平成28年4月1日から平成29年3月31日までの状況は第1表のとおりである。

第1表 防火対象物定期点検報告制度実施状況表

防火対象物の区分			点検を要する防火対象物数		点検報告済防火対象物数		特例認定済防火対象物数	
			第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当
1	イ	劇場、映画館、演芸場または観覧場	35		13		10	
	ロ	公会堂または集会場	226		103		64	
2	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブその他これらに類するもの						
	ロ	遊技場またはダンスホール	60		33		4	
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等						
	ニ	カラオケボックス等	3		3			
3	イ	待合、料理店その他これらに類するもの	1	10	1	3		
	ロ	飲食店	9	47	4	12		
4		百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗または展示場	182	20	119	6	16	1
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所その他これらに類するもの	40	82	20	25	10	30
6	イ	病院、診療所または助産所	35	6	19	1	13	2
	ロ	老人短期入所施設、養護老人ホーム、精神障害者社会復帰施設等	6	3	1	3	4	
	ハ	老人デイサービスセンター、老人福祉センター、精神障害者社会復帰施設（軽微）等	1	3		3	1	
	ニ	幼稚園または特別支援学校	1		1			
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場その他これらに類する公衆浴場	3		1		1	
16	イ	複合用途防火対象物のうち、その一部が上記に該当する用途に供されているもの	205	47	96	12	37	3
16の2		地下街						
合計			807	218	414	65	160	36

【備考】

- ・点検報告済防火対象物とは、1年に1回、防火対象物点検資格者による点検報告が必要なもので、点検の結果、点検基準に適合していると認められた防火対象物。「防火基準点検済証」を表示することができる。
- ・特例認定済防火対象物とは、一定の要件を満たしているもので、申請によって点検報告の義務が3年間免除される防火対象物。「防火優良認定証」を表示することができる。
- ・第1号該当とは、収容人員が300人以上の防火対象物
- ・第2号該当とは、収容人員が30人以上300人未満の防火対象物で次の要件に該当する防火対象物
 - 特定用途部分が地階または3階以上に存するもの（避難階は除く）
 - 階段が2以上設けられていないもの
- ・調査基準日…平成29年3月31日
- ・調査期間……平成28年4月1日～平成29年3月31日

2 消防設備士試験・講習の状況

消防設備士は、甲種・乙種合わせて797人の受験者に対して354人が合格し、合格率は44.4%であった。その状況は第2表のとおりである。

また、免状所有者に対する義務講習は572人が受講した。その状況は第3表のとおりである。

第2表 消防設備士試験実施状況表

試験日：平成28年8月28日（日）

平成29年2月12日（日）

区 分	平成28年度								免状交付延べ数	
	受験者数（人）		合格人数（人）		合格率（%）		免状交付数			
	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種
特 類	9		1		11.1%		0		18	
第 1 類	93	25	28	6	30.1%	24.0%	30	4	1,221	321
第 2 類	33	10	10	5	30.3%	50.0%	9	4	344	96
第 3 類	27	8	11	3	40.7%	37.5%	10	3	259	63
第 4 類	190	79	70	44	36.8%	55.7%	71	45	2,731	1,081
第 5 類	37	13	18	8	48.6%	61.5%	20	8	300	114
第 6 類		150		70		46.7%		74		2,088
第 7 類		123		80		65.0%		90		3,122
計	389	408	138	216	35.5%	52.9%	140	228	4,873	6,885

第3表 消防設備士法定講習実施状況表

区 分	受 講 対 象 者 区 分	受講者数（人）	実 施 年 月 日
消 火 設 備	(甲・乙)第1類, 第2類, 第3類 消防設備士	112	平成28年8月30日（火）
避難設備・消火器	(甲・乙)第5類, (乙)第6類 消防設備士	149	平成28年8月31日（水）
警 報 設 備	(甲・乙)第4類, (乙)第7類 消防設備士	311	平成28年9月 1日（木） 平成28年9月 2日（金）
合 計		572	

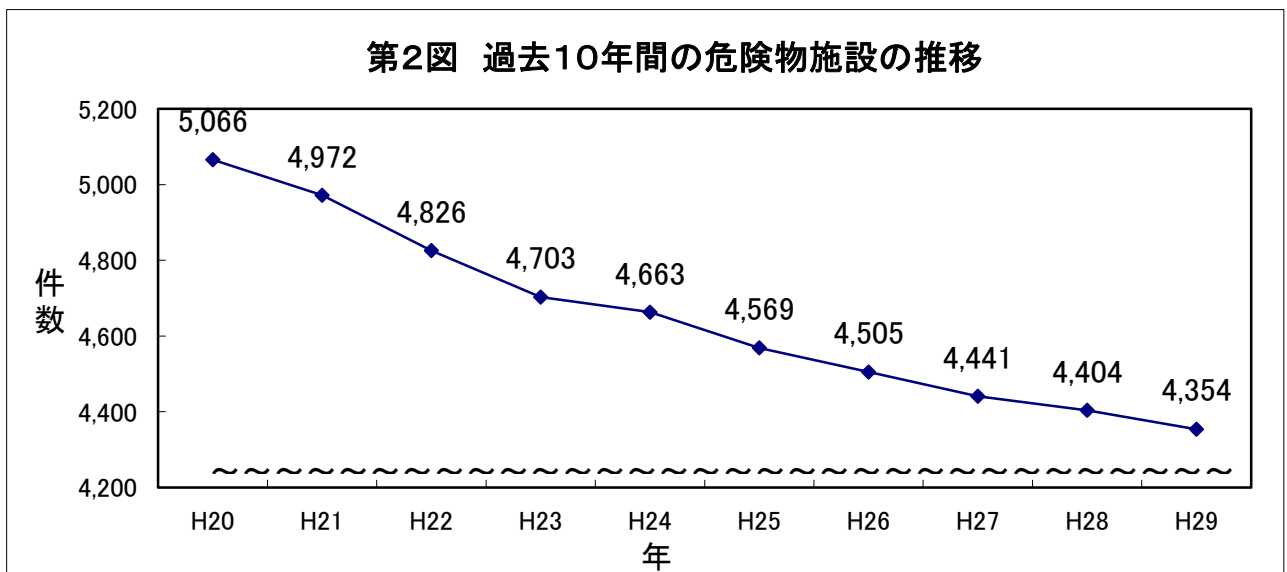
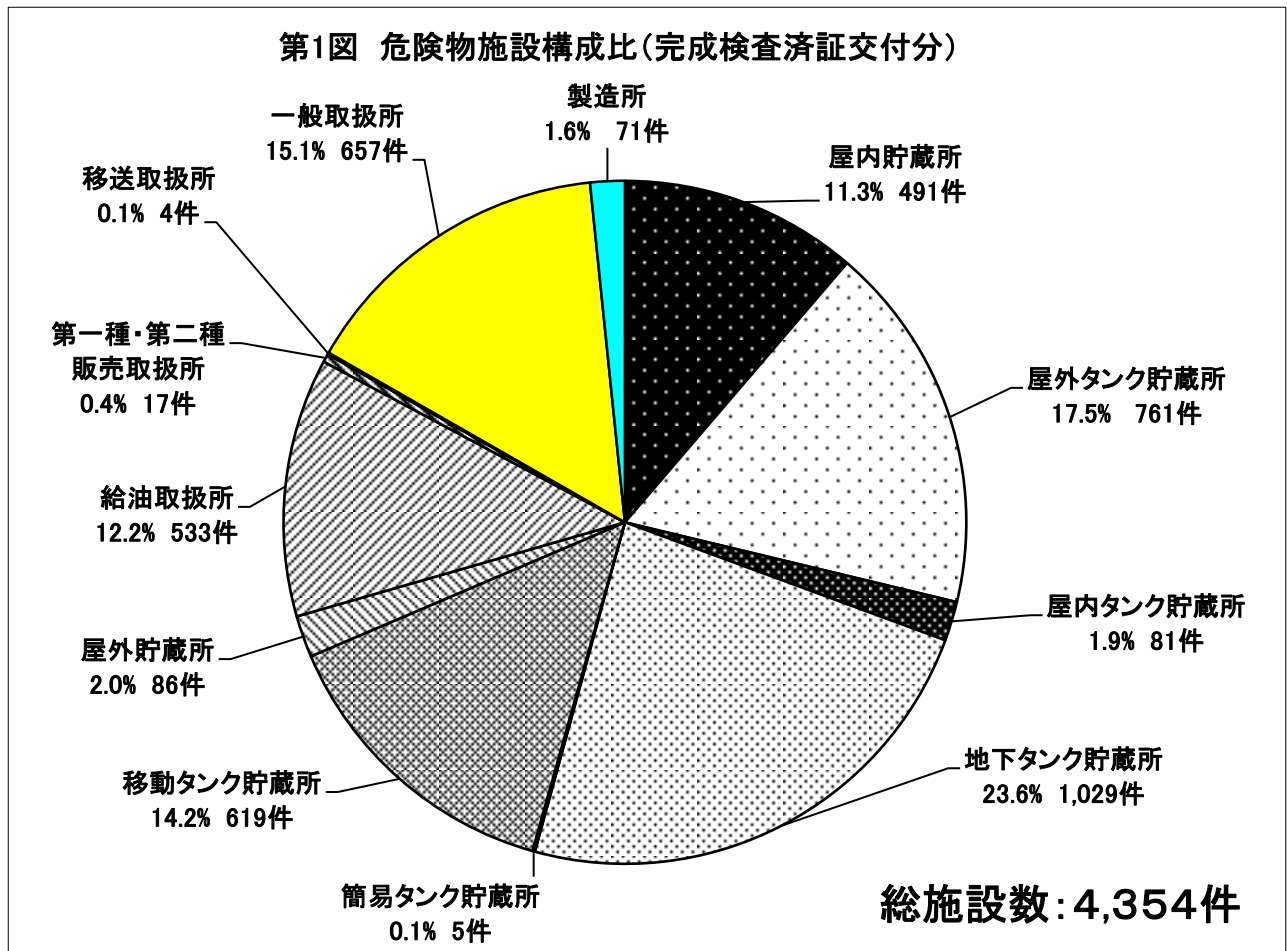
第5章 危険物規制

1 概況

(1) 危険物規制は、福井市、大野市、勝山市および永平寺町においては当該市町が、またその他の市町においてはそれぞれの加入する消防組合が行なっている。

なお、県内の総施設数は第1図のとおりである。(平成29年3月31日現在)

(2) 危険物の総施設数の推移は第2図のとおり減少傾向であり、前年に対し50件減少している。



第1表 施設別危険物施設数

平成29年3月31日現在

危険物施設の別 消防(局)本部名	製 造 所 (A)	貯 蔵 所										取 扱 所					合 計 (A + B + C)	事 業 所	
		屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タンク 貯 蔵 所	準 特 定 屋 外 タンク 貯 蔵 所	特 定 屋 外 タンク 貯 蔵 所	屋 内 タンク 貯 蔵 所	地 下 タンク 貯 蔵 所	簡 易 タンク 貯 蔵 所	移 動 タンク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所	一 般 取 扱 所			小 計 (C)
福 井 市	21	113	190	5	20	28	272	1	178	19	801	136	8	1	1	138	284	1,106	549
大 野 市		8	17				55		32		112	24				27	51	163	94
勝 山 市	2	6	31			1	48		20	3	109	17				20	37	148	84
永 平 寺 町		8	5			2	21		16		52	7				11	18	70	42
嶺北消防組合	26	99	175	4	36	11	186	1	122	22	616	92			2	176	270	912	333
鯖江・丹生消防組合	5	62	74			6	118		43	9	312	47	3	4		55	109	426	289
南越消防組合	13	74	110			10	122	2	75	16	409	67				75	142	564	259
敦賀美方消防組合	1	70	108	7	8	13	130		76	14	411	92			1	96	189	601	227
若狭消防組合	3	51	51			10	77	1	57	3	250	51	1			59	111	364	157
合 計	71	491	761	16	64	81	1,029	5	619	86	3,072	533	12	5	4	657	1,211	4,354	2,034

- 注：1 貯蔵所および取扱所の区分は危険物の規制に関する政令の区分による（以下の表においても同様）。
- 2 本表には、設置を許可した施設のうち、完成検査済証を交付した施設数から廃止届を受理した施設数を除いた数を記載（以下の表においても同様）。
- 3 準特定屋外タンク貯蔵所には、屋外タンク貯蔵所のうち、貯蔵し、または取り扱う液体の危険物の最大数量が五百キロリットル以上千キロリットル未満のものを記載（以下の表においても同様）。
- 4 特定屋外タンク貯蔵所数は、屋外タンク貯蔵所のうち、貯蔵し、または取り扱う液体の危険物の最大数量が千キロリットル以上のものを記載（以下の表においても同様）。
- 5 事業所数は、危険物施設を有する事業所の数を記載。

第2表 指定数量別・類別危険物施設数

平成29年3月31日現在

危険物施設の別 数量別・類別	製造所 (A)	貯蔵所								取扱所						合計 (A+B+C)			
		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	準特定屋外タンク貯蔵所	特定屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計 (B)	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	移送取扱所		一般取扱所	小計 (C)	
5倍以下	4	217	136			58	568	5	463	25	1,472	39	8			293	340	1,816	
5倍を超えて10倍以下	6	119	116			18	239		14	32	538	56	2			153	211	755	
10 " 50 "	32	89	258			5	166		30	25	573	136	2	5		127	270	875	
50 " 100 "	12	21	78				33		96	3	231	74				36	110	353	
100 " 150 "	4	25	42				14		15		96	55				16	71	171	
150 " 200 "		9	8	1			3			1	21	65				9	74	95	
200 " 1,000 "	13	9	57	11	2		6		1		73	108				16	124	210	
1,000 " 5,000 "		2	25	4	21						27					3	3	30	
5,000 " 10,000 "			2		2						2					2	2	4	
10,000倍を超えるもの			39		39						39				4	2	6	45	
合計	71	491	761	16	64	81	1,029	5	619	86	3,072	533	12	5	4	657	1,211	4,354	
単独	第1類		10								10							10	
	第2類	1	4								4					3	3	8	
	第3類		2								2					5	5	7	
	第4類	49	430	757	16	64	81	1,029	5	619	85	3,006	533	12	5	4	627	1,181	4,236
	第5類		19	2								21							21
	第6類			2								2							2
混在	21	26								1	27					22	22	70	
合計	71	491	761	16	64	81	1,029	5	619	86	3,072	533	12	5	4	657	1,211	4,354	

注：1 数量別の欄は、危険物施設で貯蔵または取り扱う危険物の最大数量（許可数量）を指定数量の倍数によって表したものである。
 2 類別の欄の単独には、類を同じくする危険物のみを貯蔵または取り扱っている危険物施設の数、混在には、類を異にする危険物を貯蔵または取り扱っている危険物施設の数に記載。

第3表 危険物施設に対する立入検査状況

平成28年 4月 1日から
平成29年 3月31日まで

危険物施設の別 消防(局)本部名		製 造 所 (A)	貯 蔵 所							取 扱 所					合 計 (A + B + C)		
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所		一 般 取 扱 所	小 計 (C)
福 井 市	検査施設数	19	74	154	12	159	1	182	13	595	101	7		1	93	202	816
	延回数	29	77	163	17	202	1	199	15	674	122	7		1	115	245	948
大 野 市	検査施設数			2				29		31	13				4	17	48
	延回数			2				29		31	13				4	17	48
勝 山 市	検査施設数	2	3	6	1	24		20	1	55	10				6	16	73
	延回数	2	3	6	1	24		20	1	55	10				6	16	73
永 平 寺 町	検査施設数		5	7		17		17	5	51	4				11	15	66
	延回数		5	7		17		17	5	51	4				11	15	66
嶺北消防組合	検査施設数	26	75	149	8	136	1	122	14	505	70			1	138	209	740
	延回数	26	75	149	8	136	1	122	14	505	70			1	138	209	740
鯖江・丹生消防組合	検査施設数	4	20	41	1	26		44	5	137	14		1		19	34	175
	延回数	4	20	41	1	26		44	5	137	14		1		19	34	175
南越消防組合	検査施設数	7	4	13	1	6		84	1	109	11				22	33	149
	延回数	7	4	28	1	6		84	1	124	19				50	69	200
敦賀美方消防組合	検査施設数	1	13	64	2	63		81	2	225	47				42	89	315
	延回数	1	13	64	2	63		81	2	225	47				42	89	315
若狭消防組合	検査施設数	1	32	26	7	46	3	39	3	156	33				28	61	218
	延回数	1	33	26	8	46	3	40	3	159	33				28	61	221
合 計	検査施設数	60	226	462	32	477	5	618	44	1,864	303	7	1	2	363	676	2,600
	延回数	70	230	486	38	520	5	636	46	1,961	332	7	1	2	413	755	2,786

注：1 検査施設数の欄は、立入検査を行った施設数を危険物施設の区分ごとに記載。
2 延回数の欄は、立入検査を行った延回数を危険物施設の区分ごとに記載。

第4表の1 容量別屋外タンク貯蔵所数

平成29年3月31日現在

消防(局)本部名 容量別	福	大	勝	永	嶺	鯖	南	敦	若	合
	井	野	山	平	北	江・	越	賀	狭	計
	市	市	市	町	消	丹	消	美	消	
					防	生	防	方	防	
					組	消	組	消	組	
					合	防	合	防	合	
						組		組		
						合		合		
100kl未満	148	17	30	5	119	54	100	68	45	586
100kl～500kl未満	17		1		16	20	10	25	6	95
500kl～1,000kl未満	5				4			7		16
1,000kl～5,000kl未満					21			8		29
5,000kl～10,000kl未満					2					2
10,000kl～50,000kl未満										0
50,000kl～100,000kl未満					3					3
100,000kl以上	20				10					30
合計	190	17	31	5	175	74	110	108	51	761

第4表の2 品名別屋外タンク貯蔵所数

平成29年3月31日現在

品名別 容量別	第4類										第4類以外の類(B)	合計(A+B)
	原	ナ	ガ	灯	軽	重	第	ア	そ	小		
	油	フ	ソ	油	油	油	4	ル	の	計		
		サ	リ				石	コ	他	(A)		
			ン				油	ール			(B)	
							類	類				
100kl未満				81	30	184	22	46	219	582	4	586
100kl～500kl未満				3	16	45	9		22	95		95
500kl～1,000kl未満	3		1		1	8			3	16		16
1,000kl～5,000kl未満			6	3	4	9			7	29		29
5,000kl～10,000kl未満				2						2		2
10,000kl～50,000kl未満										0		0
50,000kl～100,000kl未満						3				3		3
100,000kl以上	30									30		30
合計	33	0	7	89	51	249	31	46	251	757	4	761

第5表 危険物取扱者試験実施状況

区 分 種 別		平成25年度 合 格 率 (%)	平成26年度 合 格 率 (%)	平成27年度 合 格 率 (%)	平成28年度		
					受験者数 (人)	合格者数 (人)	合 格 率 (%)
甲 種		27.5	35.2	18.4	212	68	32.1
乙 種	第 1 類	68.0	68.1	62.6	302	199	65.9
	第 2 類	68.1	73.2	63.0	204	155	76.0
	第 3 類	66.7	65.0	69.0	226	154	68.1
	第 4 類	33.9	27.2	29.2	3,007	813	27.0
	第 5 類	63.0	70.7	59.6	207	141	68.1
	第 6 類	66.1	67.0	59.6	313	208	66.5
	小 計	45.4	42.3	38.7	4,259	1,670	39.2
丙 種		54.9	60.1	64.9	565	325	57.5
合 計		45.4	44.0	41.1	5,036	2,063	41.0

第6表 危険物取扱者保安講習実施状況

区 分 講習種別		平成25年度 受講者数 (人)	平成26年度 受講者数 (人)	平成27年度 受講者数 (人)	平成28年度	
					受講者数 (人)	講習実施回 数 (回)
給 油 取 扱 所		414	393	481	456	8
石 油 コ ン ビ ナ ー ト		43	42	41	50	1
そ の 他		1,243	1,211	1,520	1,471	11
合 計		1,700	1,646	2,042	1,977	20

- 注：1 「給油取扱所」は、給油取扱所において危険物の取扱作業に従事している危険物取扱者を対象とした講習種別である。
- 2 「石油コンビナート」は、石油コンビナート等災害防止法上の特定事業所における危険物施設において危険物の取扱作業に従事する危険物取扱者を対象とした講習種別である。
- 3 「その他」は、「給油取扱所」および「石油コンビナート」以外の危険物施設において危険物の取扱作業に従事する危険物取扱者を対象とした講習種別である。

2. 危険物施設の火災・漏えい事故等

- (1) 過去5年間における危険物の災害事故発生件数は、平成24年が15件と最も多い。
 (2) 過去5年間の危険物施設別の災害事故発生件数は、一般取扱所での事故が15件と最も多い。

第7表 過去5年間の危険物施設における災害事故発生件数

年	危険物施設の別 内訳	製 造 所 (A)	貯蔵所							取扱所					そ の 他 (D)	合 計 (A+B+C+D)		
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計 (B)	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	移 送 取 扱 所			一 般 取 扱 所	小 計 (C)
平成24年	火災								0						2	2		2
	漏えい			2		1		3	6	1					3	4		10
	その他								0	3						3		3
平成25年	火災								0						1	1		1
	漏えい					2		1	3							0		3
	その他							1	1							0		1
平成26年	火災								0						1	1		1
	漏えい			2					2						1	1		3
	その他							2	2							0		2
平成27年	火災	1							0							0		1
	漏えい							2	2	1					1	2		4
	その他			1					1							0		1
平成28年	火災								0						4	4		4
	漏えい							1	1						1	1		2
	その他							2	2						1	1		3
火災計		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	0	9
漏えい計		0	0	4	0	3	0	7	0	14	2	0	0	0	6	8	0	22
その他計		0	0	1	0	0	0	5	0	6	3	0	0	0	1	4	0	10
総計		1	0	5	0	3	0	12	0	20	5	0	0	0	15	20	0	41

注：1 危険物施設の別の「その他」には、危険物運搬中の事故または無許可の危険物施設など、許可を受けている危険物施設以外での事故件数を記載。

第6章 消防の概要

1 消防の組織〈消防機関と人員〉

昭和23年消防組織法施行後、市町村消防の原則が確立され、昭和48年7月1日大野地区消防組合が発足したことにより、県下全域にわたり消防の常備化が実現した。消防吏員は平成29年4月1日現在で1,226名である。

また、消防団員数は平成29年4月1日現在で5,809名であるが、近年の社会経済情勢の変化の影響を受けて、団員数の減少、サラリーマン団員の増加等の課題に直面しており、消防団の充実強化を一層推進することが必要である。

2 消防施設

(1) 消防機械

消防機械の保有状況は第8表および第9表のとおりであるが、特に近年の救急需要の増加に伴い、各消防本部とも高規格救急自動車の導入を推進している。これにより、高度な救急処置を実施することができ、救命率の向上を図っている。

(2) 消防水利

消防水利は、消防機械とともに、火災鎮火のために重要不可欠なものである。

これについては、消防に必要な水利の確保と管理のため「消防水利の基準」が定められ、その基準に適合したものを消防水利としている。消防水利には、消火栓、防火水槽、プール等の人工水利と河川等の自然水利があり、その保有状況は第11表のとおりである。

3 民間防火組織

(1) 幼年消防クラブ

幼年消防クラブは、幼年期における防火教育の重要性、防火活動を通じての正しい社会的態度の養成の必要性などの観点からはじめられたもので、幼稚園、保育園の指導者を中心に消防機関の協力を得て幼年消防活動を行うことにより、父母兄弟や近隣住民に対する防火思想の普及も効果的に図られている。

(2) 少年消防クラブ

少年消防クラブは、少年のころから火災予防に関する知識を身に付け、学校や各家庭における火災防止を図るとともに、火に関する諸原理を実際に即して勉強し、学校教育としての社会科、理科および家庭科の学習の補助を目的とするものであって、昭和25年に少年消防クラブ取扱要綱が制定され、続いて昭和28年に「全国少年消防クラブ運営指導協議会」（会長：消防庁長官）が設けられ、今日に至っている。

(3) 女性防火クラブ

女性防火クラブは、家庭において火を使用する機会の多い女性を対象に、火災予防の知識を養うことが必要であることから、任意に結成されたものであり、消防職団員の指導のもとに各家庭の防火診断、火災の初期活動等、女性による防火活動は重要な役割を果たしている。

4 表 彰

消防職員または消防団員の士気高揚を図るとともに、地域住民の消防に対する正しい認識と円滑な協力援助関係を確立するため、消防に関して功労のあった消防団員、消防機関その他の団体または個人に対し、各種表彰を行っている。

また、昭和58年より新たに県知事の定例表彰の中で、30年以上勤続の消防団員の配偶者等も表彰することにした。

5 消防の現況

第1表 消防職団員数の推移(各年4月1日現在)

区分	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
消防職員数	150	163	203	201	231	227	262	257	268	293	328	351	354	372	381	421	461	521	594
消防団員数	11,835	10,701	8,487	8,275	8,091	7,342	7,174	7,147	7,118	6,744	6,759	6,731	6,751	6,754	6,491	6,388	6,303	6,191	6,019

47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元	2	3	4
693	743	785	785	832	851	872	895	922	937	950	974	974	982	982	983	999	1,009	1,010	1,032	1,052
5,814	5,703	5,647	5,635	5,633	5,623	5,629	5,616	5,549	5,623	5,616	5,608	5,588	5,549	5,545	5,485	5,471	5,453	5,437	5,488	5,492

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
1,090	1,101	1,119	1,141	1,162	1,169	1,183	1,186	1,190	1,188	1,190	1,193	1,192	1,190	1,189	1,184	1,183	1,180	1,192	1,196	1,189
5,497	5,519	5,502	5,533	5,523	5,518	5,497	5,499	5,483	5,460	5,436	5,439	5,442	5,406	5,411	5,411	5,480	5,560	5,656	5,688	5,661

26	27	28	29
1,188	1,206	1,206	1,226
5,720	5,797	5,781	5,809

第2表 消防機関の現況

区 分		平成28年4月(A)	平成29年4月(B)	増減(B-A)
消防本部・署	消防本部数	9	9	0
	消防署数	19	19	0
	出張所数	28	28	20
	消防職員数	1,206	1,226	0
消防団	消防団数	18	18	0
	分団数	234	234	0
	消防団員数	5,781	5,809	28

第3表 消防の概況

平成29年4月1日現在

区分	消防本部・署所						消防団						消防水利		基地局および固定局	移動局				
	設置別		消防署数	出張所数	(実吏員数)	普通消防ポンプ数	水槽付消防ポンプ数	消防団数	分団数	消防団常備部数	団員数		普通自動車ポンプ数	小型動力ポンプ積載車			いらない積載車	消防栓(公設)	防火水槽	
	消防本部のみ設置	消防本部署を併設									計	常勤							非常勤	40以上
消防(局)本部名																				
福井市	○		4	15	365	20	3	1	53		1,000	1	52	41	9,523	820	30	15	163	
大野市		○	1	1	55	4		1	10		475	10	21	1	433	283	26	3	37	
勝山市		○	1		38	2	1	1	12		285	3	10		248	195	14	16	42	
永平寺町		○	1		39	1	2	1	11		271	10	11		177	254	11	3	27	
嶺北消防組合		○	4	1	196	7	4	2	33		731	36	11		1,419	1,247	108	4	93	
鯖江・丹生消防組合		○	1	4	111	5	1	2	38		593	31	10	3	1,643	877	40	5	97	
南越消防組合		○	3	2	145	7	4	3	32		817	12	26	1	2,482	689	34	7	152	
敦賀美方消防組合		○	3	1	152	3	4	3	16		744	24	30	6	1,265	214	168	8	209	
若狭消防組合		○	1	4	125	7	3	4	29		893	9	37	57	1,053	494	56	6	135	
計	1	8	19	28	1,226	56	22	18	234	0	5,809	136	208	109	18,243	5,073	487	67	955	

第5表 階級別非常勤消防団員数

平成29年4月1日現在

階級別 消防(局)本部	合計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	条約定数
福井市	1000 (29)	1 ()	8 ()	52 ()	52 ()	98 ()	100 (2)	689 (27)	1,055
大野市	475 (98)	1 ()	2 ()	10 (1)	12 (2)	36 (3)	72 (6)	342 (86)	485
勝山市	285 (24)	1 ()	2 ()	12 ()	12 ()	25 (1)	34 (2)	199 (21)	299
永平寺町	271 (10)	1 ()	2 ()	13 (1)	11 (1)	()	33 (1)	211 (7)	315
嶺北消防組合	731 (16)	2 ()	8 ()	33 ()	52 ()	2 (2)	64 (2)	570 (12)	773
鯖江・丹生消防組合	593 (41)	2 ()	5 ()	37 ()	34 ()	()	85 (2)	430 (39)	647
南越消防組合	817 (51)	3 ()	9 ()	32 (2)	32 (2)	()	84 (5)	657 (42)	826
敦賀美方消防組合	744 (26)	3 ()	4 ()	17 ()	18 ()	51 ()	85 ()	566 (26)	761
若狭消防組合	893 (7)	4 ()	6 ()	29 ()	21 ()	71 (1)	84 ()	678 (6)	894
計	5,809 (302)	18 (0)	46 (0)	235 (4)	244 (5)	283 (7)	641 (20)	4,342 (266)	6,055

注：下段の()は、女性団員の内数

第6表 年齢別消防吏員・消防団員数

平成29年4月1日現在

年齢別 消防(局)本部分	消 防 団 員										消 防 吏 員																	
	(C)のうち										団員数 (C)	(A)のうち										平均年齢 (B) (A)						
	18歳 〜 19歳	20歳 〜 24歳	25歳 〜 29歳	30歳 〜 34歳	35歳 〜 39歳	40歳 〜 44歳	45歳 〜 49歳	50歳 〜 54歳	55歳 〜 59歳	60歳 〜 64歳		65歳 以上	18歳 〜 19歳	20歳 〜 24歳	25歳 〜 29歳	30歳 〜 34歳	35歳 〜 39歳	40歳 〜 44歳	45歳 〜 49歳	50歳 〜 54歳	55歳 以上							
福井市	1	13	32	68	118	187	171	152	150	83	25	1,000	14,925	40.9	71	41	45	33	24	58	38	46	71	14,925	40.9	1,000	46,923	46.9
大野市	0	7	29	44	62	84	79	69	58	34	9	475	2,125	38.6	5	6	10	3	6	10	5	8	5	2,125	38.6	475	21,480	45.2
勝山市	0	2	12	26	40	57	37	41	52	17	1	285	1,538	40.5	3	1	5	4	9	6	3	3	3	1,538	40.5	285	13,059	45.8
永平寺町	3	24	14	24	54	54	46	27	16	9	0	271	1,440	36.9	3	6	2	6	9	4	2	3	3	1,440	36.9	271	11,017	40.7
嶺北消防組合	0	9	27	61	119	153	156	100	63	28	15	731	7,198	36.7	11	30	25	15	42	25	14	11	11	7,198	36.7	731	32,591	44.6
鯖江・丹生消防組合	1	28	39	100	137	139	93	32	18	2	4	593	4,237	38.2	7	15	13	17	23	11	7	11	7	4,237	38.2	593	23,261	39.2
南越消防組合	0	12	34	63	113	165	156	126	81	46	21	817	5,605	38.7	16	22	10	11	30	17	15	16	16	5,605	38.7	817	37,108	45.4
敦賀美方消防組合	1	16	77	158	185	113	68	45	49	23	9	744	5,206	34.3	8	27	30	24	25	7	4	8	8	5,206	34.3	744	29,463	39.6
若狭消防組合	3	39	96	182	261	184	94	27	7	0	0	893	4,530	36.2	13	22	15	15	17	8	10	13	13	4,530	36.2	893	33,041	37.0
計	9	150	360	726	1,089	1,136	900	619	494	242	84	5,809	46,804	38.2	143	182	135	122	223	121	109	143	46,804	38.2	5,809	247,943	42.7	

注:18歳〜19歳の欄は18歳未満含む。

第7表 在職年数別消防吏員および消防団員数

平成29年4月1日現在

年数別 消防(局)本部名	消 防 吏 員						消 防 団 員									
	消			防			常 勤			非 常 勤						
	合 計	5 年 未 満	5 10 年 未 満	10 15 年 未 満	15 20 年 未 満	20 25 年 未 満	25 30 年 未 満	30 年 以 上	合 計	5 年 未 満	5 10 年 未 満	10 15 年 未 満	15 20 年 未 満	20 25 年 未 満	25 30 年 未 満	30 年 以 上
福 井 市	365	81	47	21	32	45	41	98	1,000	247	235	145	127	98	81	67
大 野 市	55	10	9	4	3	10	7	12	475	155	90	58	50	53	32	37
勝 山 市	38	5	4	3	5	10	5	6	285	47	60	51	48	35	33	11
永 平 寺 町	39	11	4	1	5	8	5	5	271	101	74	35	27	25	7	2
嶺 北 消 防 組 合	196	39	40	15	18	37	19	28	731	165	157	121	120	79	53	36
鯖 江・丹 生 消 防 組 合	111	16	21	9	14	21	11	19	593	186	159	105	85	42	10	6
南 越 消 防 組 合	145	32	19	7	17	26	17	27	817	221	141	138	104	90	85	38
敦 賀 美 方 消 防 組 合	152	36	35	19	10	31	9	12	744	247	241	136	46	29	28	17
若 狭 消 防 組 合	125	28	24	11	12	11	13	26	893	322	263	157	89	44	17	1
計	1,226	258	203	90	116	199	127	233	5,809	1,691	1,420	946	696	495	346	215

第8表 消防ポンプ自動車等現有数(消防本部・署)

平成29年4月1日現在

区分	消防本部・署 現有													その他車両												
	普通消防ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	はしご付消防ポンプ自動車 (ポンプ付でないものを含む)	18m級	24m級	30m級	38m級	消防ポンプ自動車	大型高所放水車	泡原液搬送車	化学消防ポンプ自動車	指揮車	照明車		積載車	小型動力ポンプ	広報車	資機材搬送車	屈折放水塔車	水槽車	支援車	人員搬送車	防災指導車	救急自動車	救助工作車	
消防(局)本部名																										
福井市消防局	20	3	2	1	1	1	1	1	1	1	4	5		7	6	4				1	1	1		11 (11)	2	6
大野市消防本部	4		1		1						1	1			1	2			1			1		4 (4)	1	
勝山市消防本部	2	1	1		1						1	1			1	1								3 (3)	1	
永平寺町消防本部	1	2										1		2	1	1							3 (3)	1		
嶺北消防組合	7	4				2			1	1	4	5		7	1	5			1	1			8 (8)	3	5	
鯖江・丹生消防組合	5	1					1				2	2			6	1			1				6 (6)	1		
南越消防組合	7	4	1			1					2	3		1	7	5			1	1	1	1	8 (7)	3		
敦賀美方消防組合	3	4	1				1				2	1		6	1	5			1	1			6 (6)	2	8	
若狭消防組合	7	3				1					1	1		6	6	2					1		7 (7)	1		
計	56	22	4	2	4	3	1	2	17	20	0	29	30	26	0	4	4	4	4	4	4	2	56 (55)	15	19	

注:救急自動車の()書きは高規格救急自動車で内数。

第9表 消防ポンプ自動車等現有数（消防団）

平成29年4月1日現在

種別 消防(局)本部名	消防団現有			
	普通消防ポンプ自動車	水槽付消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ	
			小型動力ポンプ付積載車	車両に積載していないもの
福井市	1		52	41
大野市	10		21	1
勝山市	3		10	
永平寺町	10		11	
嶺北消防組合	36		11	
鯖江・丹生消防組合	31		10	3
南越消防組合	12		26	1
敦賀美方消防組合	24		30	6
若狭消防組合	9		37	57
計	136	0	208	109

第10表 化学消火薬剤備蓄状況

平成29年4月1日現在

種別	計		化学消火剤種別									
	(A)	(B)	たんぱく系		合成界面活性剤	水成膜泡消火薬剤	水溶性液体用泡消火薬剤 (耐アルコール用)	第1種粉未	第2種粉未	第3種粉未	第4種粉未	
	(kg) (ア)～(オ)	(kg) (カ)～(ケ)	3%型 (kl) (ア)	6%型 (kl) (イ)	(kl) (ウ)	(kl) (エ)	(kl) (オ)	(kg) (カ)	(kg) (キ)	(kg) (ク)	(kg) (ケ)	
消防(局)本部名												
福井市	14.85	0.00	10.40	0.09	1.63	2.39	0.34					
大野市	1.96	0.00			1.96							
勝山市	1.00	0.00			1.00							
永平寺町	0.50	0.00			0.50							
嶺北消防組合	31.21	0.00	4.98		4.43	18.20	3.60					
鯖江・丹生消防組合	4.18	0.00			2.38	1.80						
南越消防組合	3.34	0.00			0.72	2.62						
敦賀美方消防組合	4.71	0.00	0.87		3.06	0.50	0.28					
若狭消防組合	1.34	0.00			1.34							
計	63.09	0.00	16.25	0.09	17.02	25.51	4.22	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

第12表 消防機関の出動状況

平成28年中

区分	種別	火災		風水害等の災害(イ)	演習訓練(ウ)	広報指導(エ)	警防調査(オ)	火災原因調査(カ)	特別警戒(キ)	捜索(ク)	予防査察(ケ)	誤報等(コ)	その他(カ)
		火災(ア)	火災(イ)										
消防本部・署所	出動回数	24,987	213	31	3,501	4,009	6,066	238	1,488	29	8,408	60	944
	出動延人数	79,363	2,891	156	18,176	12,475	15,815	1,408	4,057	263	20,584	612	2,926
消防団	出動回数	3,103	143	4	827	303	31	0	402	0	1	16	1,376
	出動延人数	42,543	2,165	34	20,217	2,712	417	0	6,061	0	3	137	10,797

第13表 消防吏員・団員の公務による死傷者数

平成28年中

区分	種別	火災		救急業務(イ)	風水害等の災害(ウ)	演習訓練(エ)	特別警戒(オ)	捜索(カ)	その他(キ)
		火災(ア)	火災(イ)						
消防吏員	死者	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷者	10	2	0	0	8	0	0	0
消防団	死者	0	0	0	0	0	0	0	0
	負傷者	4	0	0	0	4	0	0	0

第14表 火災通報施設等の現況

平成29年4月1日現在

区分	火災報知機			テレビ 監視装置 (基)	望楼		電話					救急指令装置		
	受信機 (基)	発信機			小計 (ウ)+(エ) (基)	24時間 監視体 制をとつ ているも の (ウ) (基)	その他 (エ) (基)	小計 (カ)+(キ)+(ク) (回線)	火災報知 専用電話 (カ) (回線)		消防機関にあるもの		救急 指令 専用	消防 指令 装置と併用
		小計 (ア)+(イ) (基)	公衆用 (ア) (基)						自衛用 (イ) (基)	回線 (カ) (回線)	消防電話 1ヶ月あた りの経費 (キ) (回線)	加入電話 (キ) (回線)		
消防(局)本部名														
福井市	0				0		165	26	99	160	40		1	
大野市	0			1	0		40	13	2	5	25			
勝山市	0				0		13	6			7			
永平寺町	0				0		20	15			5		1	
嶺北消防組合	0				0		47	14			33			
鯖江・丹生消防組合	0				0		55	13	5	229	37		1	
南越消防組合	0				0		46	12	2	6	32			
敦賀美方消防組合	0				0		43	11	9	248	23			
若狭消防組合	0			1	0		40	8	8		24			
計	0	0	0	2	0	0	469	118	125	648	226	0	3	

第16表 幼年消防クラブの現況

平成29年4月1日現在

種別	組織別クラブ数					組織別クラブ員数					指導者数					
	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	市町村 単位	地区 単位	その他	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	市町村 単位	地区 単位	その他	計	幼稚園 保育園 単位	学校 単位	その他
消防(局)本部名																
福井市	2	2					48	48					2	2		
大野市	17	17					1,099	1,099					15	15		
勝山市	13	13					489	489					168	168		
永平寺町	10	10					622	622					56	56		
嶺北消防組合	47	47					4,567	4,567					47	47		
鯖江・丹生消防組合	38	38					1,661	1,661					105	105		
南越消防組合	33	33					678	678					33	33		
敦賀美方消防組合	35	35					2,850	2,850					35	35		
若狭消防組合	1	1					32	32					3	3		
計	196	196	0	0	0	0	12,046	12,046	0	0	0	0	464	464	0	0

第17表 少年消防クラブの現況

平成29年4月1日現在

種別	組織別クラブ数					組織別クラブ員数					指導者数						
	計	学校単位		市町村単位	地区単位	その他	計	学校単位		市町村単位	地区単位	その他	計	学校単位		その他	
		小学校	中学校					小学校	中学校					小学校	中学校		
消防(局)本部名																	
福井市	50	50					2,524	2,524					79	79			
大野市	15	10	5			340	431	91					14	10	4		
勝山市	17	3		4	10	381	1,136				89	666	52	6			46
永平寺町	13				13		206					206	30				30
嶺北消防組合	26	26				1,082	1,082						26	26			
鯖江・丹生消防組合	20	20				2,640	2,640						120	120			
南越消防組合	21	21				758	758						21	21			
敦賀美方消防組合	12	12				284	284						12	12			
若狭消防組合	0						0						0				
計	174	142	5	4	23	9,061	9,061	91	0	89	872	354	274	4			76

第18表 女性防火クラブの現況および活動状況

平成29年4月1日現在

種別	合計		周囲の状況						活動状況別組織数			
	組織数 (ア)+(イ)+(ウ)+(エ)	人員 (カ)+(キ)+(ク)+(ケ)	市街地		農山村地域		漁村地域		消火活動を行う	消火活動は行わないが、吹き出し、連絡、救護等を行う	(a)(b)は行わず、予防の啓蒙活動を行っている	
			組織数 (ア)	人員 (カ)	組織数 (イ)	人員 (キ)	組織数 (ウ)	人員 (ク)				組織数 (エ)
消防(局)本部名												
福井市	40	1,759	15	497	22	796	3	466	9			31
大野市	4	116			4	116			3			1
勝山市	9	270	3	150	6	120			9			
永平寺町	1	21	1	21								1
嶺北消防組合	2	612	2	612								2
鯖江・丹生消防組合	22	1,318	7	136	12	500	3	682	12			10
南越消防組合	23	247	13	122	10	125				23		
敦賀美方消防組合	9	1,570	2	1,482	4	63	3	25	7	2		
若狭消防組合	16	208			8	152	8	56	16			
計	126	6,121	43	3,020	66	1,872	17	1,229	56	25	0	45

第19表 消防表彰受賞状況

種 類		年 度										
		19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
叙 勲		21	23	24	23	22	21	22	23	21	31	
藍 綬 褒 章		4		1				3	3	2		
消 防 庁 長 官 表 彰	功 勞 章	2	2	1	2	1	2	2	2	1	1	
	永年勤続功労章	20	20	20	21	21	21	21	21	22	22	
	表 彰 旗											
	竿 頭 綬							1	1	1		
	消防団 地域 活動	消 防 団			1	1	1	1	1	1	1	1
		事 業 所	1		1	1	1				1	
	少 年 消 防 ク ラ ブ	表 彰 旗				1			1			
		表 彰 楯	1	2	1		1	1		1	1	1
		指 導 者										
	福 井 県 知 事 表 彰	功 勞 章	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
永年勤続精績章		117	154	141	142	155	152	154	177	132	168	
銀 杯		30 年 以 上										
		退職10～15年未満	58	66	75	66	70	67	71	73	49	55
感 謝 状		退 職 幹 部	23	23	24	24	22	22	33	16	49	23
		人 命 救 助 そ の 他										
		夫 人 表 彰	29	26	22	36	33	28	26	33	33	31
竿 頭 綬								35	46	46	47	
特 別 功 勞 章												

第7章 消防教育訓練

1 消防学校の概要

(1) 沿革

昭和34年7月16日 福井市水越町に福井県消防学校設置。
 昭和47年11月1日 福井市合谷町へ移転。
 平成8年4月1日 福井市大畑町へ再移転、現在に至る。

(2) 施設概要

ア 所在地等 (ア) 所在地 福井市大畑町97-21-3
 (イ) 敷地面積 40,759.02㎡
 イ 建物工作物等

建物構造および規模

・ 敷地面積……………40,759.02㎡ ・ 建物延面積…………… 8,001.62㎡

名称	規模・構造	延べ面積(㎡)	内 容
教育管理棟 宿泊施設(3階)	RC造3階	3,249㎡	1階 校長室 講師控室 職員室 会議室 防災倉庫 2階 普通教室(60人)(40人) 談話室 図書室 視聴覚室 理化学室(各種実習室併設) 等 3階 寮室(20室) トレーニングルーム 娯楽室
体育館	鉄骨造2階 建	2,106.25㎡	1階 食堂 学生ホール 和室 倉庫 2階 アリーナ
雨天訓練場	鉄骨平屋建	1,091.22㎡	訓練場(救助、ポンプ操法訓練施設) 訓練資器材庫 訓練車両庫
訓練塔(主)	SRC造 地下1階建 地上8階建	594.84㎡	立坑訓練室 耐煙迷路室 消火設備実験室 垂直救助訓練 水平ロープ渡過 ブリッジ救出訓練施設 放水訓練室 水平救助・担架吊り下げ救出訓練施設 梯子車注水訓練室 積載梯子上救出訓練施設 梯子車進入訓練室 高所活動・人命検索訓練施設 救助袋等避難器具取扱訓練室 地下火災実験室
訓練塔(補助)	鉄骨造 地上7m	A塔 70.44㎡ B塔 32.86㎡	人命救助訓練施設 引上救助訓練施設 中高層建物防御訓練施設 斜め救助訓練施設 障害突破 垂直降下訓練施設
水難訓練用プール (兼、潜水訓練)	FRP製	25m×5コース 水深1.5m～3.0m 容量630m³ 採水口4箇所(ポンプ車用) 機械室・便所(34.43㎡)	
その他施設			油火災消火訓練施設(耐火レンガ造) 直径3m×高さ0.5m 防火訓練壁 幅14m×高さ4m 受水槽20㎡ 煙道訓練施設 間口1.0m×1.0m
屋外訓練場		7,800㎡ (120m×65m)	1周200mグラウンド

2 教育訓練

消防職団員の各種教育訓練を第1表および第2表のように実施し、人的消防力の充実に向上を図るとともに、より高度の専門的知識を修得させた。
 また、第3表のとおり消防大学校へ職員が派遣された。

平成28年度 消防(局)本部別受講者数

区分	教育訓練の種類	項目	実施年月日	教育 実日数	延時間	消防(局)本部						合計						
						福井	敦賀美方	南越	若狭	大野	勝山		鯖江丹生	嶺北	永平寺	その他		
消防職員	初任教育(第51期)	初級幹部科	隔年実施のため中止	120	835	15	4	6	3	3	4	9	2	46				
						7	49	2	3	1	2	3	1	19				
						3	21	4	2	1	1	1	2	14				
						3	70	4	2	3	2	4	1	20				
						10	70	4	2	3	2	2	1	18				
						7	49	4	2	3	2	3	1	19				
						23	161	4	2	3	2	2	4	21				
						36	252	7	6	5	4	3	8	40				
						12	84	5	2	1	1	1	3	14				
						2	16	5	4	4	4	2	4	33				
消防団員	初級幹部科	初任教育(第51期)	隔年実施のため中止	224	1,610	65	32	35	26	17	10	34	46	14	2	281		
						2	12	11	7	3	7	2	6	4	3	50		
						2	14	4	5	3	4	2	3	2	2	14		
						2	10	5	6	3	5	6	2	4	3	37		
						2	12	1	3	3	4	1	2	2	1	18		
						8	48	21	21	12	20	16	6	15	12	9	9	132
						1	7	4	13	12	2	4	2	1	7	2	47	
						1	6	13	8	1	5	4	2	2	7	4	46	
						1	3			2		25	2	18	6	2	55	
						1	3			15				4	1	10	2	43
その他	初級幹部科	初任教育(第51期)	隔年実施のため中止	2	9										<229>			
						7	31	43	21	15	22	33	10	22	30	10	206	
						239	1,689	129	74	62	68	66	26	71	88	33	2	619
						1	4	12	4	3	2	2	4	4	4	3		38
						1	4	12	5	7	3	1	5	12	4	4		53
						1	4	8	5	5	4	1	2	4	5	2		36
						1	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2		18
						4	16	34	16	17	11	6	13	22	15	11		145
						243	1,705	163	90	79	79	72	39	93	103	44		764

第2表 平成28年度消防学校教育訓練実施状況

区分	項目	入校者数	教育実日数	教育時間数	担当講師別時間数				
					学校	県	消防	専門	
消防職員	初任教育(第51期)	46	120	835	537	31	210	57	
	幹部教育	初級幹部科							
		中級幹部科(第30期)	19	7	49	9	6	25	9
		上級幹部科(第10期)	14	3	21	2	5	10	4
	専科教育	警防科(第36期)	20	3	70	26	12	21	11
		特殊災害科							
		予防査察科(第12期)	18	10	70	9	4	53	4
		危険物科(第33期)	19	7	49	9	8	25	7
		火災調査科							
		救助科(第40期)	21	23	161	23	8	109	21
	特別教育	救急科(第24期)	40	36	252	7	7	65	173
		水難救助科(第21期)	14	12	84	8		76	
		操法指導員教育	33	2	16	2		14	
	起震車操作員教育	37	1	3	3				
	小計	281	224	1,610	635	81	608	286	
消防団員	初級幹部科	50	2	12	12				
	指揮幹部科								
		現場指揮課程	27	2	14	1		13	
		分団指揮課程	37	2	10	6	2	2	
		消防団指導員教育(日消)	18	2	12	10	2		
	小計	132	8	48	29	4	13	2	
一般・その他	自衛消防隊幹部教育	47	1	7	6	1			
	女性防火クラブ員教育	46	1	6	6				
	自主防災組織員教育	113	3	9	6	3			
	(市町新規採用職員研修)	(229)	2	9	6	3			
	小計	206	7	31	24	7	0	0	
	合計	619	239	1,689	688	92	621	288	
公開講座	中級幹部科	38	1	4				4	
	警防科	53	1	4				4	
	予防査察科	36	1	4				4	
	救急科	18	1	4				4	
	公開講座合計	145	4	16	0	0	0	16	
	総合計	764	243	1,705	688	92	621	304	

第3表 平成28年度消防大学校派遣者数

学 科	派遣者数	備 考	
幹部科	(第45期)	福井市(2)、永平寺、鯖江・丹生、消防学校	
	(第46期)		
	(第47期)		
	(第48期)		
上級幹部科(第80期)	1	消防学校	
新任消防長・学校長科(第20期)	1	消防学校	
警防科(第100期)	1	南越	
救助科	(第73期)	1	若狭
	(第74期)	1	敦賀美方
予防科(第100期)	1	鯖江・丹生	
危険物科(第11期)	1	嶺北	
火災調査科(第32期)	1	嶺北	
新任教官科(第10期)	1	消防学校	
高度・特別高度救助コース(第6回)	1	敦賀美方	
航空隊長コース(第16回)	1	防災航空事務所	
危機管理・国民保護コース(第6回)	3	福井市、永平寺町、嶺北	
自主防災組織育成コース(第12回)	2	嶺北、消防学校	
女性消防吏員活躍推進講習会(第1回)	1	鯖江・丹生	
合計	22		

防 災 編

第1章 災害の発生状況

1 平成28年中の災害発生状況

- (1) 人的被害
重傷者2人、軽傷者11人
- (2) 住家被害
一部破損11棟、床上浸水1棟

第1表 平成28年中の災害発生状況

発生年月日 区分	災害名		落雷 1月18日	波浪 1月18日～20日	大雪 1月24日	大雪 1月25日	凍結 1月26日	暴風 4月17日	暴風 5月3日	大雨 6月25日	台風16号 9月20日	台風18号 10月5日	計
	死者	負傷者											
人的被害	人	人											0
負傷者		重傷							2				2
		軽傷			1	3		2	3			2	11
住家被害		全壊											0
		半壊											0
		一部破損							10		1		11
		床上浸水									1		1
		床下浸水											0
非住家被害		公共建物											0
		その他							7				7
その他		流失・埋没											0
田		冠水											0
畑		流失・埋没											0
		冠水											0
		学校											0
		病院											0
		道路											0
		橋りょう											0
		河川											0

発生年月日 区分	災害名	落雷	波浪	大雪	大雪	大雪	凍結	暴風	暴風	大雨	台風16号	台風18号	計
		1月18日	1月18日～20日	1月24日	1月25日	1月26日	4月17日	5月3日	6月25日	9月20日	10月5日		
その他	港湾												0
	箇所												0
	砂防												0
	箇所												0
	清掃施設												0
	箇所												0
	崖くずれ												0
	箇所												0
	鉄道不通												0
	箇所												0
	被害船舶												0
	隻												0
	水道					261							261
戸												0	
電話												0	
回線												0	
電気												0	
戸												0	
ガス												0	
戸												0	
建物												0	
件												0	
危険物												0	
件												0	
その他												0	
件												0	
り災害世帯数												0	
世帯												0	
り災害者数												0	
人												0	
公立文教施設												0	
千円												0	
農林水産業施設										9,757		9,757	
千円												0	
公共土木施設		2,593	3,923								224,135		230,651
千円													0
その他の公共施設											1,136		1,990
千円													0
公共施設被害市町村数		1	1							1	5		9
団体													0
千円												300	37,175
その他被害													0
被害総額		2,593	3,923										279,573
千円													0
都道府県設置													0
災害対策本部解散													0
災害対策本部設置													0
災害救助法適用市町村													0
災害対策本部設置市町村											2		2
災害救助法適用市町村													0
消防職員出動延人数													0
人													0
消防団員出動延人数													0
人													0

2 過去5年間の災害発生状況（平成24年～28年）

年月日	種類	被害状況	気象状況
2012 (平24) 4.3	強風	(1)人的被害 重傷 1人 軽傷 9人 (2)住家被害 一部破損 23棟 (3)非住家被害 公共建物 1棟 その他 3棟 (4)公共施設被害 9,653千円	前線を伴った低気圧が、日本海を急速に発達しながら東北東に進んだ。この低気圧に吹き込む南寄りの風が強まり、県内では暴風となった。 (日最大風速) 三国 25.8m/s(南南東)13時22分 敦賀 24.0m/s(南南東)12時06分 (日最大瞬間風速) 三国 35.3m/s(南南東)13時36分 敦賀 37.5m/s(南南東)12時04分
2012 (平24) 4.22	強風	(1)その他被害 6,450千円	前線を伴った低気圧が日本海西部を東進したため、南よりの強風となった。 (日最大瞬間風速(22日)) 福井 25.3m/s(南南東)07時50分 敦賀 28.2m/s(南東)09時05分
2012 (平24) 6.19～20	台風 4号	(1)公共施設被害 11,605千円	台風第4号から湿った空気が入り、梅雨前線の活動が活発となったため雨となり、ところにより大雨となった。 (日最大風速(19日)) 敦賀 12.6m/s(南南東)13時12分 (日降水量(19日)) 小浜 72.5 [㎜] 、敦賀 64.0 [㎜]
2012 (平24) 7.20～21	大雨	(1)住家被害 半壊 2棟 一部破損 9棟 床上浸水 57棟 床下浸水 243棟 (2)非住家被害 その他 14棟 (3)公共施設被害 172,920千円 (4)その他被害 126,000千円 (5)災害対策本部設置市町 越前市	日本の南の太平洋高気圧から、暖かく湿った空気が西日本から北陸地方に流れ込み、また、上空の寒気を伴った気圧の谷の影響で、嶺北を中心に大雨となった。 (日最大1時間降水量(20、21日)) 今立 96.0 [㎜] 、あわら 95.0 [㎜] (日降水量(20、21日)) 今立 189.0 [㎜] 、あわら 182.0 [㎜]
2012 (平24) 8.13～14	大雨	(1)公共施設被害 9,383千円	前線が日本海を南下し、沿岸に停滞したため、大雨となった。 (日最大1時間降水量(13日)) 小浜 47.0 [㎜] (日降水量(13日)) 小浜 65.5 [㎜] 、大野 55.0 [㎜]
2012 (平24) 9.6	大雨	(1)住家被害 一部破損 1棟 床下浸水 139棟 (2)公共施設被害 5,652千円	前線が日本海を東に進み、前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった。 (日最大1時間降水量(6日)) 福井 62.5 [㎜] 、今庄 61.0 [㎜] (日降水量(6日)) 福井 133.5 [㎜] 、春江 85.0 [㎜]
2012 (平24) 12.6	強風	(1)人的被害 重傷 1人 (2)公共施設被害 90,000千円	低気圧が発達しながら日本海を東に進んだため、暴風となった。 (日最大風速) 三国 12.8m/s(西南西)04時12分 越廼 13.6m/s(西)03時51分 (日最大瞬間風速) 三国 24.1m/s(西南西)04時22分 越廼 23.4m/s(西南西)04時47分

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2013 (平25) 1. 6 ～ 2013 (平25) 3. 31	大雪	(1)人的被害 重傷 1人 軽傷 1人	天気は周期的に経過し、低気圧の通過後は冬型の気圧配置が続き雪や雨となりました。強い寒気の影響で1月の終わり頃には奥越を中心に大雪となった。 (日降雪量最大) 福井 22センチ1月3日 敦賀 27センチ1月26日 (最深積雪最大値) 福井 30センチ1月28日 敦賀 41センチ1月26日 九頭竜 176センチ1月28日
2013 (平25) 4. 6	暴風	(1)住家被害 一部破損 1棟 (2)公共施設被害 219千円 (3)その他被害 1,330千円	日本海と日本の南岸をそれぞれ低気圧が急速に発達しながら北東に進んだ。 (日最大風速) 敦賀 21.1m/s(南南東)16時44分 (日最大瞬間風速) 敦賀 32.2m/s(南南東)16時59分
2013 (平25) 4. 13	地震	(1)人的被害 重傷 1人	淡路島付近を震源とする地震 4月13日05時33分 M6.3 深さ15km 北緯 34度25.1分 東経 134度49.7分 震度3 小浜市、高浜町、おおい町
2013 (平25) 7. 7	強風	(1)住家被害 一部破損 2棟	梅雨前線に向かって南から暖かく湿った空気が入り、大気の状態が不安定となり積乱雲が通過中であった。 (日最大風速) 福井 4.6m/s(南南東)21時46分 大野 6.4m/s(北)17時17分 (日最大瞬間風速) 福井 7.8m/s(西南西)16時46分 大野 15.9m/s(北西)17時11分
2013 (平25) 7. 13	大雨	(1)住家被害 床上浸水 1棟 床下浸水 9棟	日本海から東北地方にのびる梅雨前線に、南から湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が不安定となった。 (日最大1時間降水量(13日)) 福井 55.0 ^{mm} (日降水量(13日)) 福井 69.0 ^{mm} 、勝山 82.0 ^{mm}
2013 (平25) 7. 29	大雨	(1)住家被害 床下浸水 2棟 (2)公共施設被害 162,120千円 (3)災害対策本部設置市町 越前市	日本海から北陸地方にのびる梅雨前線に、湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が不安定となった。 (日最大1時間降水量(29日)) 敦賀 27.5 ^{mm} (日降水量(29日)) 福井 137.5 ^{mm} 、勝山 175.0 ^{mm}

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2013 (平25) 8.23	竜巻	(1)人的被害 軽傷 1人 (2)住家被害 半壊 3棟 一部破損 70棟 (3)公共施設被害 134千円	日本海の前線に向かって暖かく湿った気流が入り、大気の状態が非常に不安定となり、小浜では竜巻(F1)と推定される現象が発生した。 (日最大風速) 敦賀 9.8m/s(北)19時10分 小浜 8.7m/s(北西)16時33分 (日最大瞬間風速) 敦賀 13.3m/s(北)19時05分 小浜 17.5m/s(北北西)16時27分
2013 (平25) 8.24	大雨	(1)公共施設被害 29,290千円 (2)災害対策本部設置市町 越前市	本州付近に停滞する前線の影響で、曇り時々雨となり、嶺北の一部では大雨となった。 (日最大1時間降水量) 今庄 38.0ミリ (日降水量) 今庄 111.0ミリ
2013 (平25) 8.31	大雨・ 強風	(1)住家被害 一部破損 2棟 (2)公共施設被害 1,216千円	台風第15号から変わった温帯低気圧からのびる寒冷前線が県内を通過した。 (日最大風速) 福井 10.0m/s(西南西)17時22分 勝山 15.4m/s(北西)17時41分 (日最大瞬間風速) 福井 19.9m/s(西北西)17時15分 勝山 29.5m/s(北西)17時34分
2013 (平25) 9.3	大雨	(1)住家被害 床上浸水 1棟 床下浸水 25棟	北陸地方に前線が停滞していた。前線に向かって南から暖かく湿った空気が入ったため、前線の活動が断続的に活発になった。 (日最大1時間降水量) 福井 47.0ミリ (日降水量) 福井 87.0ミリ
2013 (平25) 9.16	台風 18号	(1)人的被害 死者 1人 (2)住家被害 全壊 5棟 半壊 2棟 一部破損 13棟 床上浸水 78棟 床下浸水 320棟 (3)非住家被害 その他 19棟 (4)公共施設被害 2,906,000千円 (5)その他被害 75,815千円 (6)災害対策本部設置市町 敦賀市、小浜市、越前市、 美浜町、おおい町、若狭町	台風第18号が日本の南海上を北上していた。台風の北側に広がる雨雲域が県嶺南を中心にとどまった。 05:05に大雨特別警報を発表した。 (日最大1時間降水量) 敦賀25.0ミリ、小浜38.5ミリ (24時間降水量) 敦賀 215.0ミリ、小浜 384.0ミリ
2013 (平25) 10.15	台風 26号	(1)その他被害 31千円	台風第26号が本州の南海上を北上したため、大雨となったところがあった。 (日最大風速) 三国 9.2m/s(北東)22時15分 (日最大瞬間風速) 三国 15.7m/s(北東)22時31分 (日最大1時間降水量) 九頭竜 16.5ミリ (日降水量) 九頭竜 60.0ミリ

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2013 (平25) 11.25	強風	(1)人的被害 軽傷 1人	低気圧が発達しながら日本海中部を北東に進み、低気圧の中心からのびる寒冷前線が25日夕方頃通過した。 (日最大風速) 福井 16.1m/s(南南東)11時57分 三国 18.7m/s(南南東)08時59分 (日最大瞬間風速) 福井 23.9m/s(南東)11時53分 敦賀 28.2m/s(南南東)07時47分
2013 (平25) 12.15 ～ 2014 (平26) 3.31	大雪	(1)人的被害 軽傷 1人	12月上旬の終わりころから短い周期で低気圧が通過し、その後冬型の気圧配置となり、1月中旬には強い寒気の影響で気温が低くなった。 (日降雪量最大) 福井 16センチ2月8日 敦賀 15センチ12月28日 九頭竜 35センチ12月12日 大野 25センチ2月8日 武生 25センチ2月8日 今庄 33センチ12月28日 小浜 18センチ12月28日 (最深積雪最大値) 福井 17センチ1月11日 敦賀 21センチ12月29日 九頭竜 101センチ2月16日 大野 32センチ12月29日 武生 22センチ2月8日 今庄 35センチ12月29日 小浜 16センチ12月29日
2014 (平26) 5.12	強風	(1)その他被害 その他 3件 (2)農産被害 1,660千円	日本の東に高気圧があつて、一方、中国東北区に前線を伴った低気圧が北東に進んだため、日本付近は気圧の傾きが大きくなり、福井県では12日朝をピークに強風が吹いた。 (日最大風速) 敦賀 19.1m/s(南南東)07時58分 三国 17.7m/s(南南東)09時47分 (日最大瞬間風速) 敦賀 29.1m/s(南南東)07時51分 美浜 26.6m/s(南南東)21時14分
2014 (平26) 7.10	台風 8号	(1)その他被害 道路 1箇所 (2)公共土木施設被害 22,267千円	鹿児島県阿久根市付近に上陸した台風第8号が本州の南を東進した影響で、南から暖かく湿った空気が流れ込み、奥越中心に時々雨となった。 (日最大1時間降水量(10日)) 九頭竜 30.0 ^{mm} 、美浜 5.0 ^{mm} (日降水量(10日)) 九頭竜 79.5 ^{mm} 、美山 11.0 ^{mm} (日最大風速) 三国 11.8m/s(南南東)07時35分 敦賀 9.9 m/s(南東)15時50分 (日最大瞬間風速) 敦賀 17.3m/s(南南東)15時41分 三国 16.4 m/s(南南東)07時31分

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2014 (平26) 7.17	大雨・ 強風・ 落雷	(1)非住家被害 その他 1棟 (2)電気被害 4,530戸 (3)その他公共施設被害 840千円	梅雨前線に向かって湿った空気が流れ込んだ影響で、大気の状態が不安定となった。 (日最大1時間降水量(17日)) 小浜 32.5 [㎜] 、春江・美浜 14.0 [㎜] (日降水量(17日)) 小浜 33.0 [㎜] 、勝山 24.0 [㎜] (日最大風速) 小浜 14.3m/s(ー)14時07分 勝山 7.3m/s(北北西)14時27分 (日最大瞬間風速) 小浜 33.8m/s(ー)14時02分 勝山 11.7m/s(北西)14時22分
2014 (平26) 7.20	大雨	(1)住家被害 床下浸水 1棟 (2)その他 道路 2箇所 (3)その他 河川 5箇所 (4)電気被害 2,163戸 (5)農林水産業施設被害 16,864千円 (6)公共土木施設被害 197,796千円 (7)その他の公共施設被害 1,051千円	上空に寒気を伴った気圧の谷と湿った空気の影響で、大気の状態が非常に不安定となった。 (日最大1時間降水量(20日)) 三国 56.5 [㎜] 、福井 52.5 [㎜] (日降水量(20日)) 福井 77.5 [㎜] 、勝山 71.0 [㎜]
2014 (平26) 8.9	台風 11号	(1)人的被害 軽傷 1人 (2)住家被害 一部破損 1棟 (3)田 冠水 17.5ha (4)畑 冠水 22.1ha (5)その他 道路 5箇所 (6)その他 河川 10箇所 (7)その他 砂防 10箇所 (8)その他 崖くずれ 3箇所 (9)電気被害 30戸 (10)その他 その他被害 9箇所 (11)農林水産業施設被害 41,707千円 (12)公共土木施設被害 267,506千円 (13)その他の公共施設被害 8,603千円	台風第11号が四国の南海上を北上し、北陸地方の沿岸に停滞した前線に南からの暖かく湿った空気の影響で大雨となった。 (日最大1時間降水量(9日)) 大飯 18.0 [㎜] 、越廼 11.5 [㎜] (日降水量(9日)) 大飯 102.0 [㎜] 、美浜 71.5 [㎜] (日最大風速) 小浜 9.2m/s(東南東)18時52分 敦賀 8.1m/s(南南東)22時14分 (日最大瞬間風速) 小浜 18.8m/s(南東)23時59分 美浜 15.5m/s(東)22時09分
2014 (平26) 8.15	大雨	(1)住家被害 床下浸水 1棟	北陸地方に停滞する前線に向かって、暖かく湿った空気が流れ込み、雨で雷を伴い、大雨となった。 (日最大1時間降水量(15日)) 春江 33.5 [㎜] 、越廼 30.5 [㎜] (日降水量(15日)) 越廼 83.5 [㎜] 、勝山 75.0 [㎜]
2014 (平26) 8.26	大雨	(1)その他 砂防 2箇所 (2)その他の公共施設被害 2,062千円	前線を伴った低気圧が北陸地方を東進した影響で、雨時々曇りで嶺北を中心に雷を伴い大雨となった。 (日最大1時間降水量(26日)) 春江 33.5 [㎜] 、三国 24.0 [㎜] (日降水量(26日)) 春江 87.5 [㎜] 、三国 67.0 [㎜]

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2014 (平26) 10.5	台風 18号	(1)電気被害 3,080千円	高気圧に覆われましたが、台風第18号が西日本太平洋側に北上したため、雨一時曇りとなった。 (日最大1時間降水量(5日)) 敦賀 6.0 ^{mm} 、武生 5.0 ^{mm} (日降水量(5日)) 九頭竜 9.5 ^{mm} 、武生 8.0 ^{mm} (日最大風速) 三国 7.6m/s(北東)19時37分 春江 5.4m/s(北)18時24分 (日最大瞬間風速) 三国 13.8m/s(北東)18時06分 春江 7.2m/s(北)18時23分 越廼 7.2m/s(東北東)19時11分
2014 (平26) 10.13	台風 19号	(1)その他被害 河川 1箇所 (2)その他被害 港湾 1箇所 (3)その他被害 砂防 1箇所 (4)公共土木施設被害 82,291千円	台風第19号は鹿児島県枕崎市付近に上陸し、その後、三重県津市付近を東北東に進み、勢力を維持したまま東海地方から関東地方北部へ速度を速めながら北東に進んだため、雨時々曇りで夜は大雨となった。 (日最大1時間降水量(13日)) 三国 23.5 ^{mm} 、越廼 22.0 ^{mm} (日降水量(13日)) 大飯 112.5 ^{mm} 、九頭竜 91.5 ^{mm} (日最大風速) 小浜 15.9m/s(北)22時16分 春江 14.7m/s(北)23時24分 (日最大瞬間風速) 小浜 26.4m/s(北北西)23時49分 福井 21.5m/s(北北西)23時02分
2014 (平26) 12.2	強風・ 波浪	(1)公共土木施設被害 2,616千円	日本付近は強い冬型の気圧配置となり、雨一時みぞれ又は雪で、雷やあられを伴ったところがあった。 (日最大風速) 越廼 13.0m/s(西)00時31分 春江 11.9m/s(西)00時31分 (日最大瞬間風速) 三国 23.0m/s(西北西)05時36分 越廼 21.7m/s(西)09時39分
2014 (平26) 12.3	竜巻	(1)その他被害 その他 2箇所	強い冬型の気圧配置となり、上空の寒気の影響により大気の状態が不安定となり、坂井市では竜巻(F0)と推定される現象が発生した。 (日最大風速) 福井 8.1m/s(南西)06時20分 三国 10.3m/s(西南西)01時10分 (日最大瞬間風速) 福井 14.0m/s(南南西)06時13分 三国 23.1m/s(西南西)01時02分

年月日	種類	被害状況	気象状況
2014 (平26) 12.5	強風・ 波浪	(1)住家被害 一部破損 1棟 (2)その他被害 その他 2箇所 (3)公共土木施設被害 215,500千円	上空に寒気を伴った気圧の谷が通過し、冬型の気圧配置が強まり大気の状態が不安定となった。 (日最大風速) 越廼 11.6m/s(西)07時01分 敦賀 11.4m/s(西)16時20分 (日最大瞬間風速) 三国 20.7m/s(西)10時52分 越廼 20.2m/s(西南西)06時07分
2014 (平26) 12.7 ～ 2015 (平27) 3.31	大雪	(1)人的被害 死者 1人 重傷 3人 軽傷 4人 (2)非住家被害 その他 1棟 (3)公共土木施設被害 103,931千円	12月は冬型の気圧配置や寒気を伴った気圧の谷の影響で、雪や雨の日が多く、気温はかなり低くなった。1月、2月は上旬に冬型の気圧配置が強まり大雪となった。 (日降雪量最大) 福井 32センチ1月1日 敦賀 34センチ2月9日 九頭竜 65センチ12月22日 大野 42センチ12月22日 武生 33センチ1月2日 今庄 51センチ1月1日 小浜 38センチ1月1日 (最深積雪最大値) 福井 56センチ1月2日 敦賀 64センチ2月10日 九頭竜 227センチ2月14日 大野 115センチ1月3日 武生 50センチ1月3日 今庄 113センチ1月3日 小浜 44センチ1月2日
2014 (平26) 12.13	落雷	(1)その他被害 河川 1箇所 (2)公共土木施設被害 6,984千円	冬型の気圧配置が強まったため、みぞれや雪で雷やあられを伴ったところがあった。 (日最大1時間降水量(13日)) 今庄 10.0 ^{mm} 、武生 9.5 ^{mm} (日降水量(13日)) 今庄 68.0 ^{mm} 、武生 41.5 ^{mm} (日最大風速) 越廼 12.4m/s(西)20時01分 三国 11.9m/s(西北西)06時46分 (日最大瞬間風速) 三国 21.5m/s(西)14時06分 越廼 20.0m/s(西南西)17時41分
2014 (平26) 12.16	風浪	(1)その他被害 道路 2箇所 (2)その他被害 河川 1箇所 (3)その他被害 港湾 1箇所 (4)その他被害 海岸 4箇所 (5)公共土木施設被害 892,684千円	日本海北部にある発達中の低気圧からのびる寒冷前線が通過したため、雨で雷やあられを伴ったところがあった。 (日最大風速) 越廼 13.9m/s(西北西)23時06分 春江 12.2m/s(西)22時44分 (日最大瞬間風速) 三国 24.7m/s(西北西)18時54分 越廼 21.3m/s(西)22時56分

年月日	種類	被害状況	気象状況
2014 (平26) 12.17	斜面崩壊	(1)その他被害 崖くずれ 1箇所	強い冬型の気圧配置となったため、雪時々曇りで雷やあられを伴ったところがあった。 (日最大1時間降水量(17日)) 今庄 8.0 ^{mm} 、美山 7.5 ^{mm} (日降水量(17日)) 武生 38.0 ^{mm} 、美山 38.0 ^{mm}
2015 (平27) 1.11	強風	(1)住家被害 一部破損 42棟 (2)非住家被害 公共建物 2棟 その他 5棟 (3)その他被害 28,917千円	日本付近は強い冬型の気圧配置となり、福井県では、寒気を伴った上空の気圧の谷の影響で、大気の状態が非常に不安定となった。 坂井市三国町楽円からあわら市市姫で発生した突風は、竜巻(F0)と推定。坂井市三国町米納津から坂井町木部新保で発生した突風は、竜巻(F1)と推定。 (日最大風速) 敦賀 15.4m/s(北北西)19時12分 春江 13.0m/s(北)18時56分 (日最大瞬間風速) 三国 21.9m/s(西北西)16時08分 敦賀 21.0m/s(北北西)19時08分
2015 (平27) 7.17～18	台風 11号	(1)その他被害 河川 4箇所 (2)その他被害 砂防 9箇所 (3)公共土木施設被害 272,580千円 (4)その他の公共施設被害 6,472千円	17日夜に山陰沖に進んだ台風第11号は、18日には熱帯低気圧に変わり日本海を北東に進んだため大雨となったところがあった。 (日最大1時間降水量(18日)) 美浜 17.5 ^{mm} 、敦賀 17.0 ^{mm} (日降水量) 小浜 84.5 ^{mm} (17日)、 敦賀 79.5 ^{mm} (18日)
2015 (平27) 8.5	落雷	(1)人的被害 重傷 1人	南から湿った空気と上空寒気により大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨となったところがあった(福井地方気象台で14:12から14:40に雷電を観測)。
2015 (平27) 8.25	台風 15号	(1)人的被害 軽傷 2人 (2)その他の公共施設被害 216千円	強い台風第15号は25日06時過ぎには熊本県荒尾市付近に上陸した後、北に進み10時には日本海に達した。21時には大型の台風となった。このため、非常に強い風を観測したところがあった。 (日最大風速) 敦賀 20.4m/s(南東)17時49分 三国 16.0m/s(南南東)20時00分 (日最大瞬間風速) 敦賀 30.7m/s(南東)18時26分 小浜 30.6m/s(東南東)17時01分
2015 (平27) 9.8～9	台風 18号	(1)公共土木施設被害 4,308千円	台風第18号が、東海地方から北陸地方を北上し日本海に進んだため、大雨となったところがあった。 (日最大1時間降水量(9日)) 美浜 26.5 ^{mm} 、敦賀 22.0 ^{mm} (日降水量(9日)) 今庄 100.0 ^{mm} 、敦賀 85.0 ^{mm}

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2015 (平27) 10.1～2	大雨	(1) 公共土木施設被害 13,142 千円	前線を伴った低気圧が急速に発達しながら北陸地方を通過したため、大雨となったところがあった。 (日最大1時間降水量(2日)) 今庄 57.5 ^{mm} 、敦賀 48.0 ^{mm} (日降水量(2日)) 今庄 83.0 ^{mm} 、美山 73.0 ^{mm} (日最大風速) 小浜 14.6m/s(北西)2日01時21分 敦賀 14.4m/s(南南東)1日16時38分 (日最大瞬間風速) 敦賀 23.6m/s(西北西)2日01時02分 小浜 23.5m/s(北北西)2日01時09分
2015 (平27) 12.4	強風	(1) 公共土木施設被害 429,531 千円	日本付近は冬型の気圧配置となり、福井県では、大気の状態が不安定となった。 (日最大風速) 越廼 13.1m/s(西)4日05時02分 敦賀 12.1m/s(西)4日05時30分 (日最大瞬間風速) 三国 28.1m/s(西)4日00時53分 越廼 23.6m/s(西南西)4日01時24分
2015 (平27) 12.11	強風	(1) 人的被害 重傷 1人	本州上を前線を伴った低気圧が東北東進したため、大雨や強風となった。また、大気の状態が非常に不安定となり、竜巻等の激しい突風が発生しやすい状況となった。 (日最大1時間降水量(11日)) 武生 24.0 ^{mm} 、美浜 22.5 ^{mm} (日降水量(11日)) 大飯 92.5 ^{mm} 、小浜 86.0 ^{mm} (日最大風速) 春江 15.3m/s(北)11日12時26分 敦賀 15.3m/s(北北西)11日14時13分 (日最大瞬間風速) 小浜 24.7m/s(北北西)11日13時27分 敦賀 22.9m/s(北北西)11日14時04分
2015 (平27) 12.17 ～ 2016 (平28) 2.29	大雪	(1) 人的被害 軽傷 4人	12月は低気圧の通過や冬型の気圧配置の影響で曇りや雨の日が多く、1月24日から25日にかけて嶺北中心に、2月中頃は嶺南中心に一時的に冬型の気圧配置が強まって大雪となった。 (日降雪量最大) 福井 36センチ1月24日 敦賀 21センチ2月16日 九頭竜 35センチ1月19日 大野 34センチ1月24日 武生 26センチ1月25日 今庄 50センチ1月25日 小浜 15センチ2月16日 (最深積雪最大値) 福井 47センチ1月26日 敦賀 21センチ2月16日 九頭竜 87センチ1月25日 大野 57センチ1月25日 武生 39センチ1月25日 今庄 59センチ1月25日 小浜 27センチ2月16日

年月日	種 類	被 害 状 況	気 象 状 況
2016 (平28) 4. 17	暴風	(1)人的被害 軽傷 2人 (2)その他被害 15,075千円	華中で前線上に発生した低気圧が、発達しながら北東に進み、17日未明には朝鮮半島に、その後も発達しながら日本海を北東に進み17日夜には北海道西海上に進んだ。この低気圧の影響で福井県内では、16日夜から風が強まり、17日昼過ぎにかけて非常に強い風を観測した所があった。 (日最大風速(17日)) 三国 21.2m/s(南)10時35分 敦賀 20.0m/s(南南東)06時41分 (日最大瞬間風速(17日)) 敦賀 32.9m/s(南南東)08時08分 三国 30.1m/s(南)11時13分
2016 (平28) 5. 3	暴風	(1)人的被害 重傷 2人 軽傷 3人 (2)住家被害 一部破損 10棟 (3)非住家被害 その他 3棟 (4)農林水産業施設被害 15,000千円 (5)その他の公共施設被害 854千円 (6)その他被害 6,800千円	黄河下流で発生した低気圧は、ボツ海から黄海付近を通過し、中国東北区を進んだ3日昼頃にかけて急速に発達し、その後は東北東進した。この低気圧からのびる寒冷前線が、3日夜から4日未明にかけて北陸地方を通過した影響で、福井県内では、3日未明から風が強まり、夜遅くかけて非常に強い風を観測した所があった。 (日最大風速(3日)) 敦賀 22.9m/s(南南東)20時15分 三国 21.7m/s(南南東)22時05分 (日最大瞬間風速(3日)) 敦賀 35.8m/s(南東)11時17分 三国 31.6m/s(南)21時57分
2016 (平28) 6. 25	大雨	(1)農林水産業施設被害 9,757千円	前線を伴った低気圧が日本海を北東進した影響で、嶺北を中心に大雨となり強い雨を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(26日)) 三国 42.0 ^{mm} 5時33分
2016 (平28) 9. 20	台風 16号	(1)住家被害 床上浸水 1棟 一部破損 1棟 (2)公共土木施設被害 224,135千円 (3)その他被害 1,136千円 (4)災害対策本部設置市町村 敦賀市、池田町	台風16号が、太平洋沿岸を北東進した影響で、福井県では、19日から20日にかけて雨が降り、強い雨を観測した所があった。 (日最大1時間降水量(20日)) 敦賀 33.5 ^{mm} 14時46分 九頭竜 28.5 ^{mm} 16時11分 小浜 28.5 ^{mm} 13時24分 (日降水量(20日)) 九頭竜 117.0 ^{mm} 、大飯 109.5 ^{mm}
2016 (平28) 10. 5	台風 18号	(1)人的被害 軽傷 2人 (2)その他被害 300千円	台風18号が、対馬海峡から山陰沖を通過し能登半島沖に進んだ影響で、福井県では、5日昼前から風が強まり、5日夜遅くにかけて強い風を観測した所があった。 (日最大風速(5日)) 敦賀 16.0m/s(南南東)16時10分 三国 18.4m/s(南)19時31分 (日最大瞬間風速) 三国 26.4m/s(南)19時25分 敦賀 25.3m/s(南)15時52分

第2章 平成28年の天候概況

1 天候の特徴

冬型の気圧配置が長続きせず少雪、春と夏は高気圧に覆われることが多く高温・多照。

◇ 年（1月～12月）の概況

1月～2月は、寒気の影響は弱く暖冬、低気圧の影響を受けることが多かった。1月後半と2月の中頃に一時的に冬型の気圧配置が強まって大雪となった所もあったが冬型の気圧配置は長続きせず、高温・少雪となった。

3～5月は、高温、かなりの少雨、かなりの多照、3月下旬や5月中旬を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かった。寒気の影響が弱いことに加えて、日本の南と日本の東で高気圧が強かった影響で日本付近には南から暖かい空気が流れ込みやすくなった。

6～8月は、高温、多照であった。6月中旬から7月中旬にかけては梅雨前線が本州南岸から本州付近に停滞したため曇りや雨の日が多かった。7月下旬以降は日本海の高気圧や太平洋高気圧に覆われ晴れた日が多いため、各地で、猛暑日や最低気温が25度以上となる日が多かった。

9～11月は、9月は気圧の谷や前線の影響でかなりの寡照。10月以降は気圧の谷や前線、台風の影響により天気は短い周期で変化することが多かった。日本の南海上の高気圧が強かった影響で期間の前半は高温となったが、後半は低温の時期もあった。

12月は、月を通して低気圧の通過や冬型の気圧配置の影響で曇りや雨の日が多かったが、移動性の高気圧に覆われて晴れた日もあった。寒気の影響は弱く、降雪量はかなり少なかった。

官署	平均気温			降水量			日照時間		
	本年 (℃)	平年差 (℃)	階級区分	本年 (mm)	平年比 (%)	階級区分	本年 (h)	平年比 (%)	階級区分
福井	15.6	1.1	かなり 高い	2027.0	91	少ない	1733.4	107	多い
敦賀	16.4	1.1	かなり 高い	2092.5	98	平年並	1691.1	108	多い

※平年差（比）は、平年値（1981年～2010年の30年平均値）から求めています。

◇ 台風

台風の発生数は平年並の26個（平年値25.6個）となり、日本への接近数は11個（平年値11.4個）、上陸数は平年を上回り昨年より2個増え、6個（平年値2.7個）で、北陸地方への接近数は5個（平年値2.5個）となりました。

【台風発生数・上陸数】

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	平年値
発生							4	7	7	4	3	1	26	25.6
上陸（注1）								4	2				6	2.7
北陸地方に 接近した台風								3	1	1			5	2.5

(注1) 「上陸」は台風が中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を指します。
※台風の中心が新潟県、富山県、石川県、福井県のいずれかの気象官署から300km以内に入った場合を「北陸地方に接近した台風」としてしています。

・接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しません。

2 月別気象概況

◇ 2016年（平成28年）月別気象概況

1月

高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、低気圧の通過や冬型の気圧配置の影響で雪や雨の日が多くなりました。なお、24日から25日に上空に強い寒気が流れ込み、強い冬型の気圧配置となり、嶺北中心に大雪となったところがありました。

月平均気温は、勝山で平年よりかなり高く、その他の地点では平年より高くなりました。

月降水量は、小浜で平年より少なく、三国、勝山、越廼、敦賀で平年より多く、その他の地点では平年並となりました。

月間日照時間は、嶺北では平年並か平年より少なく、嶺南では平年より多いか、かなり多くなりました。

2月

気圧の谷や冬型の気圧配置の影響で曇りや雪または雨の日が多くなりましたが、冬型の気圧配置は長続きせず、移動性の高気圧に覆われて晴れた日もありました。中頃には嶺南を中心に一時的に冬型の気圧配置が強まって大雪となったところがありました。

月平均気温は、すべての地点で平年より高くなりました。

月降水量は、三国で平年よりかなり多く、勝山、美山、今庄、小浜で平年より多く、その他の地点では平年並となりました。

月間日照時間は、三国、勝山、大野で平年並、その他の地点では平年より多いか、かなり多くなりました。

3月

高気圧と低気圧が交互に通過し天気は短い周期で変わり、気圧の谷や冬型の気圧配置の影響で曇りや雨または雪の降った日もありましたが、下旬は晴れた日が多くなりました。

月平均気温は、すべての地点で平年よりかなり高くなりました。

月降水量は、すべての地点で平年よりかなり少くなりました。

月間日照時間は、小浜で平年並、その他の地点では平年より多くなりました。

4月

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気はおおむね数日の周期で変わりました。7日と17日は発達した低気圧の影響で荒れた天気となり、下旬は寒気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。また、

10日と23日から25日には黄砂を観測しました。

月平均気温は、大野、小浜で平年より高く、その他の地点では平年よりかなり高くなりました。
月降水量は、大野、敦賀、美浜、小浜で平年並、その他の地点では平年より多いか、かなり多くなりました。

月間日照時間は、三国、勝山、大野で平年並、その他の地点では平年より少なくなりました。

5月

中旬を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりました。また、前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日もありました。3日は、発達した低気圧の影響で非常に強い風が吹き、大荒れの天気となった所がありました。

月平均気温は、すべての地点で平年よりかなり高くなりました。

月降水量は、今庄、敦賀、美浜、小浜で平年並、その他の地点では平年より少ないか、かなり少なくなりました。

月間日照時間は、小浜で平年並、その他の地点では平年より多くなりました。

6月

気圧の谷や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなりましたが、高気圧に覆われて晴れた日もありました。なお、北陸地方は13日ごろに梅雨入りしたとみられます。

月平均気温は、三国で平年よりかなり高く、大野で平年並、その他の地点では平年より高くなりました。

月降水量は、勝山で平年より多く、敦賀、美浜で平年より少なく、その他の地点では平年並となりました。

月間日照時間は、勝山、敦賀、美浜で平年より多く、その他の地点では平年並となりました。

7月

気圧の谷や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くありましたが、期間終わりは高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。なお、北陸地方は22日ごろに梅雨明けしたと見られます。（速報値）

※気象庁では、春から夏にかけての実際の天候経過を考慮した検討を行った結果、統計値として「北陸地方の梅雨明けを7月19日ごろ」に確定しました。

月平均気温は、勝山、大野、今庄、小浜で平年並、その他の地点では平年より高くなりました。

月降水量は、勝山、敦賀、美浜で平年並、小浜、大飯で平年より多く、その他の地点では平年より少なくなりました。

月間日照時間は、三国、越廼、小浜で平年並、その他の地点では平年より多くなりました。

8月

高気圧に覆われて晴れた日が多くありましたが、期間の終わりは気圧の谷や台風第9号、台風第10号の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

月平均気温は、勝山、敦賀、美浜で平年より高く、その他の地点では平年並となりました。

月降水量は、今庄で平年より少なく、越廼、美浜、大飯で平年より多く、その他の地点では平年

並となりました。

月間日照時間は、三国、福井、大野で平年より多く、その他の地点では平年並となりました。

9月

期間の前半は高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、台風や前線の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった日もありました。

月平均気温は、越廼で平年並、その他の地点では平年より高くなりました。

月降水量は、今庄で平年並、その他の地点では平年より多いか、かなり多くなりました。

月間日照時間は、すべての地点で平年よりかなり少なくなりました。

10月

はじめは前線や台風の影響で曇りや雨の日が多く、中頃から天気は周期的に変わり晴れた日が多くなりました。

月平均気温は、越廼で平年より高く、その他の地点では平年よりかなり高くなりました。

月降水量は、今庄で平年より少なく、福井、越廼で平年より多く、その他の地点では平年並となりました。

月間日照時間は、福井、今庄で平年並、その他の地点では平年より少ないか、かなり少なくなりました。

11月

気圧の谷や冬型の気圧配置の影響で曇りや雨の日もありましたが、移動性高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

月平均気温は、越廼で平年より低く、その他の地点では平年並となりました。

月降水量は、大野で平年よりかなり少なく、大飯で平年並、その他の地点では平年より少なくなりました。

月間日照時間は、美浜、小浜で平年より少なく、今庄、敦賀で平年並、その他の地点で平年より多くなりました。

12月

高気圧に覆われて晴れた日もありましたが、冬型の気圧配置や気圧の谷、前線の影響で曇りや雨の日も多くなりました。

月平均気温は、三国、福井、勝山、今庄で平年よりかなり高く、その他の地点では平年より高くなりました。

月降水量は、美山、大野で平年より少なく、三国、越廼、小浜、大飯で平年より多く、その他の地点では平年並となりました。

月間日照時間は、美浜、小浜で平年並、その他の地点では平年より多くなりました。

第3章 防災訓練の実施状況

I 総合防災訓練

平成28年度福井県総合防災訓練を次のとおり実施した。

1 目的

災害対策基本法および福井県地域防災計画に基づき、防災関係機関が協力して迅速・的確に応急対策が実施できるよう、訓練会場の特色を活かした実践的な防災訓練を実施する。また、併せて住民の防災に対する意識の高揚を図る。

今年度はあわら市を主会場とし、大雨による災害や地震・津波災害に対応できる広域的な防災体制の確立を図る。

2 日時

平成28年10月30日（日） 8時00分～12時00分

3 場所

- (1) 主会場 北潟湖畔公園（あわら市）
- (2) 住民避難訓練 あわら市一円

4 主催 福井県、あわら市

5 訓練参加機関（順不同）

(1) 国の行政機関

中部管区警察局福井県情報通信部、北陸総合通信局、敦賀海上保安部、東京管区気象台福井地方気象台、近畿地方整備局、近畿地方整備局福井河川国道事務所、近畿地方整備局九頭竜川ダム統合管理事務所

(2) 自衛隊

自衛隊福井地方協力本部、陸上自衛隊第14普通科連隊、陸上自衛隊第10飛行隊、陸上自衛隊第372施設中隊、海上自衛隊舞鶴地方総監部、航空自衛隊第6航空団

(3) 警察関係

福井県警察本部、あわら警察署、あわら市防犯隊

(4) 応援県

石川県、富山県、岐阜県、奈良県

(5) 消防関係

福井県消防長会、嶺北消防組合消防本部、福井市消防局、大野市消防本部、勝山市消防本部、鯖江・丹生消防組合消防本部、永平寺町消防本部、南越消防組合消防本部、敦賀美方消防組合消防本部、若狭消防組合消防本部、嶺北消防組合あわら消防団、自主防災組織、(公社)福井県消防協会

(6) 医療関係

(一社)福井県医師会、(一社)坂井地区医師会、(一社)福井県歯科医師会、(公社)福井県看護協会、日本赤十字社福井県支部、福井県赤十字血液センター、福井県赤十字救護奉仕団、あわら市赤十字奉仕団、福井県無線赤十字奉仕団、赤十字飛行隊福井支隊、福井県立病院、福井赤十字病院、福井県済生会病院、福井大学医学部付属病院、福井勝山総合病院、公立丹南病院、市立敦賀病院、杉田玄白記念公立小浜病院、福井総合病院

(7) 交通運輸関係

福井県倉庫協会、(一社)福井県トラック協会、日本通運(株)福井支店、(一社)日本自動車連盟、えちぜん鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)金沢支社福井地域鉄道部、中日本高速道路(株)金沢支社、西日本高速道路(株)関西支社

(8) ライフライン関係

西日本電信電話(株)福井支店、(株)NTTフィールドテクノ北陸支店、(公財)日本公衆電話会、(株)NTTドコモ北陸支社、ドコモCS北陸(株)、KDDI(株)北陸総支社、ソフトバンク(株)、北陸電力(株)福井支店、(一財)北陸電気保安協会福井支店、(一社)福井県電業協会、あわら市管工事協会連絡協議会、(一社)坂井郡建設業協会、(一社)福井県LPガス協会、福井県高圧ガス地域防災協議会、(一社)日本コミュニティーガス協会近畿支部福井県防災会、関西電力(株)原子力事業本部、日本原子力発電(株)、(独)日本原子力研究開発機構

(9) 各種団体

日本郵便(株)、北陸地方非常通信協議会、福井県災害ボランティアセンター連絡会、(福)あわら市社会福祉協議会、あわら市災害ボランティアセンター連絡協議会、福井県石油業協同組合、(株)福井銀行、NHK福井放送局、福井街角放送(株)、(株)日立国際電気、あわら市金津雲雀ヶ丘寮、レイクサイド北潟湖畔荘、大塚製薬(株)、セッツカートン(株)、福井県民生活協同組合

(10) 地元地区関係 (あわら市住民)

(11) 福井県

(12) あわら市

6 訓練種目

(1) 実動訓練

①現地合同調整所の調整による救出救助訓練

現場状況や負傷者数等の情報が不明な状況での実動機関連携による救出救助訓練 (ブライント型)

- ・土砂災害道路啓開訓練 (自衛隊、消防)
- ・倒壊家屋救出訓練 (消防、警察、自衛隊、DMAT)
- ・中高層建物救出訓練 (消防、DMAT)
- ・応急救護所設置運営訓練 (消防、DMAT、看護協会等)

②航空機運用調整班の調整による救出救助訓練

県防災航空隊が、実動機関の航空機の活動内容等を調整し、以下の訓練を実施

- ・津波被害建物からの救出救助訓練 (県防災ヘリ、富山県防災ヘリ、消防、自衛隊)
- ・県警ヘリによる湖上からの漂流者救出救助訓練 (県警ヘリ、消防)
- ・ヘリからの散水による大規模火災延焼阻止訓練 (奈良県防災ヘリ)

- ③自衛隊の軽門橋を利用した車両等搬送訓練（自衛隊）
 - ・自衛隊の救助ボートを連結した「軽門橋」を利用し、支援物資を積載した車両等を搬送
- ④列車からの乗客救出救助訓練（えちぜん鉄道、消防、DMAT）
 - ・地震により停車した列車内からの乗客の避難誘導、負傷者の救出救助

（2）熊本地震の課題を踏まえた訓練

- ①あわら市災害対策本部への市町災害対応支援班派遣訓練（県、あわら市）
 - ・県災対本部会議で支援班の派遣を決定し、市災対本部で情報収集を行い、県へ報告
- ②応援協定に基づく支援物資輸送訓練（県、トラック協会、倉庫協会、自衛隊）
 - ・民間倉庫に集積された物資を市の中継拠点に配送。中継拠点で仕分けし避難所に配送
- ③熊本地震を踏まえた避難所運営訓練
 - ・車中泊を含む避難者の健康状況確認、支援物資供給訓練（県、あわら市）
 - ・段ボールを利用した生活スペース確保訓練、災害用トイレ組立訓練（あわら市、住民）
 - ・炊き出し訓練（自衛隊、市赤十字奉仕団、あわら市等）

（3）住民避難訓練等

- ①宿泊施設における一時滞在者の避難誘導訓練
 - ・地震による火災発生を想定した、宿泊施設従業員による避難誘導訓練
- ②避難者の健康支援活動および福祉避難所開設・運営訓練
 - ・福祉施設への避難情報の伝達、要配慮者への健康支援、あわら市による福祉避難所の開設訓練
- ③大雨および地震・津波災害からの住民避難訓練等
 - ・市内全地区を対象とした住民避難訓練
 - ・全市民を対象に自宅などでの地震から身を守る行動訓練

（4）災害対策本部運営訓練

- ①訓練想定に合わせた図上訓練
 - ・災害情報インターネットシステムを活用した被害情報集約訓練
 - ・緊急時初動班参集訓練

7 災害想定

- ・台風および前線による大雨によりあわら市に土砂災害警戒情報が発表、その後嶺北北部の沖合を震源とする地震が発生、市沿岸に津波警報が発表
- ・市内では、土砂災害および地震、津波災害による家屋の倒壊、火災、ライフラインの被害が発生

II 原子力防災総合訓練

1 目的

福井県原子力防災計画および福井県広域避難計画要綱に基づき、国、県、関係市町、防災関係機関および地域住民が一体となった原子力防災訓練を実施し、国、地方公共団体、原子力事業者、関係機関における初動対応の確立、防災体制の確認、住民避難体制や緊急時医療措置等の災害対策の習熟、原子力災害対策に係る要員の技能の習熟および原子力防災に関する住民理解の促進を図ることを目的とする。

また、高浜地域については、平成27年12月に原子力防災会議において了承された「高浜地域の緊急時対応」に基づき原子力防災訓練を実施し、その実効性を確認・検証することを目的とする。

2 実施日

平成28年8月27日(土) 高浜地域における内閣府・3府県および関西広域連合との合同原子力防災訓練

平成28年8月28日(日) 大飯地域における原子力防災訓練

3 対象発電所 関西電力(株) 高浜発電所、大飯発電所

4 訓練実施項目

(1) 住民避難訓練

ア 県内外の避難先施設への避難

[高浜] 県内避難 491人 (PAZ: 62人、UPZ: 429人)
県外避難 231人 (PAZ: 146人、UPZ: 85人)
[大飯] 県内避難 152人 (PAZ: 75人、UPZ: 77人)

イ 自衛隊車両、民間バス、自家用車による住民等の陸路からの避難

[高浜] 陸上自衛隊高機動車 8台、県バス協会バス 30台、自家用車 29台
[大飯] 陸上自衛隊高機動車 5台、県バス協会バス 7台、自家用車 9台

ウ 自衛隊、海上保安庁のヘリコプターによる住民等の空路からの避難

[高浜] 海上自衛隊ヘリ 1機、海上保安庁ヘリ 1機
[大飯] 航空自衛隊ヘリ 1機、海上保安庁ヘリ 1機

エ 避難車両中継所における自衛隊車両等から民間バスへの乗継

[高浜] 若狭たかはまエルどらんど(高浜町)
[大飯] 総合町民体育館(おおい町)、小浜市役所駐車場(小浜市)

オ 消防団等による自家用車避難済み住民等の確認

(2) 避難所開設運営訓練

ア 避難所の設置運営および受入マニュアル等に基づく避難者受入の実施

- イ 県境を跨ぐ避難者受入の実施
 - [高浜] 15施設（一般住民・児童園児の受入 7施設、要支援者の受入 8施設）
 - [大飯] 5施設（一般住民・児童園児の受入 3施設、要支援者の受入 2施設）
- ウ 避難元、避難先自治体における情報伝達の確認および福井県、兵庫県との連携
- エ 避難者の受付（スクリーニング受検の有無の確認も含む）
- オ 避難先施設における避難者への健康状態の確認
- カ 災害時応援協定に基づく県トラック協会による物資の調達、搬送
- キ 飲料水・飲食物の供給
- ク 避難中継所（車からバスへの乗換え、避難先への振分け場所）の設置
 - [高浜] 丹波の森公苑（兵庫県丹波市）
- ケ 避難先施設等における避難住民への事故状況等説明の実施

(3) 避難行動要支援者避難訓練

- ア 児童園児の保護者への引渡し
 - 児童園児引渡し訓練実施施設
 - [高浜] 高浜町 6施設（内浦小中学校、青郷小学校、和田小学校、内浦保育所、青郷保育所、和田保育所）
 - 小浜市 3施設（小浜小学校、西津小学校、雲浜小学校）
 - 若狭町 1施設（三宅保育所）
 - [大飯] おおい町 1施設（大島小学校）、美浜町 1施設（美浜西小学校）
- イ 引渡しできなかった児童園児は、職員と共に避難先施設等まで避難
 - 避難訓練実施施設
 - [高浜] 高浜町 2施設（高浜小学校、高浜保育所）
 - 小浜市 3施設（小浜小学校、西津小学校、雲浜小学校）
 - 若狭町 1施設（三宅保育所）
 - [大飯] おおい町 1施設（大島小学校）
 - 美浜町 1施設（美浜西小学校）
- ウ 入院患者、福祉施設入所者の避難先施設への搬送
 - [高浜] 高浜町 2施設（若狭高浜病院、若狭高浜病院附属老健施設）
 - おおい町 1施設（楊梅苑）
 - 小浜市 2施設（公立小浜病院、やすらぎの郷）
 - 若狭町 1施設（松寿苑）
 - [大飯] 美浜町 1施設（やはす苑）
- エ 若狭高浜病院における透析患者を想定した施設間の情報伝達および搬送
- オ 在宅避難行動要支援者の避難先施設（福祉避難所等）への搬送
 - [高浜] 高浜町在宅要支援者の搬送先：美浜町保健福祉センター、若狭高浜病院
 - [大飯] おおい町、小浜市在宅要支援者の搬送先：敦賀市福祉総合センター
- カ 消防、市町社協、福祉施設、原子力事業者が保有する救急車や福祉車両による搬送

[高浜] 救急車	3台	(若狭消防2、敦美消防1)
福祉車両	13台	{ 若狭消防1、敦美消防1、高浜町社協1、おおい町社協1 やすらぎの郷1、松寿苑1、関西電力7 }
[大飯] 救急車	1台	(敦美消防1)
福祉車両	4台	(若狭消防1、美浜町社協1、関西電力2)

キ 放射線防護のための換気設備を使用した屋内退避

[高浜] 高浜町	3施設	(若狭高浜病院、旧音海小中学校、内浦公民館)
おおい町	1施設	(楊梅苑)
小浜市	1施設	(公立小浜病院)
[大飯] おおい町	1施設	(はまかぜ交流センター)
小浜市	1施設	(県栽培漁業センター)

ク 避難先施設における避難者への健康状態の確認

(4) 原子力災害医療措置訓練

ア 福井県緊急時医療本部等の設置・運営

イ 避難経路上における安定ヨウ素剤の配布

配布場所および配布数			
[高浜]	6箇所	保健福祉センター (高浜町)	配布数 41人
	514人	ふるさと交流センター (おおい町)	配布数 52人
		里山文化交流センター (おおい町)	配布数 20人
		食文化館 (小浜市)	配布数 52人
		県若狭合同庁舎 (小浜市)	配布数 302人
		若狭町役場上中庁舎 (若狭町)	配布数 47人
[大飯]	2箇所	美浜西小学校 (美浜町)	配布数 60人
	77人	北西郷公民館 (美浜町)	配布数 17人

ウ 福井県内外におけるスクリーニングおよび簡易除染の実施

実施場所および対象車両等			
[高浜]	2箇所	美浜町役場 (美浜町)	対象車両 41台 対象人数 429人
	56台	あやべ球場 (京都府綾部市)	
			対象車両 15台 対象人数 85人
[大飯]	1箇所	南条勤労者体育センター (南越前町)	対象車両 9台 対象人数 77人
	9台		

エ 原子力事業者、指定公共機関(量子科学技術研究開発機構、日本原子力研究開発機構)、原子力災害医療協力機関(福井県医師会、福井県薬剤師会、福井県診療放射線技師会)の参画

オ 広島大学 (高度被ばく医療支援センター) との連携

カ 自衛隊によるスクリーニング、車両除染の実施

キ 府県警察によるスクリーニング場所周辺道路における交通誘導

ク 発電所内で発生した被ばく患者の搬送

〔搬送経路 大飯発電所 → 原子力災害医療協力機関（公立小浜病院）
→ 原子力災害拠点病院（福井大学医学部附属病院）〕

(5) 屋内退避訓練

ア UPZ圏住民による自宅等での屋内退避行動（戸締、情報収集等）の実施

イ 避難に備え、非常用持出品（保険証、常備薬等）の準備

ウ 家屋倒壊により屋内退避できない住民による近隣の指定避難所への退避

〔指定避難所 [高浜] 保健福祉センター（高浜町）、総合町民センター（おおい町）
[大飯] 総合町民センター（おおい町）〕

(6) 複合災害対応訓練

ア 複合災害時における防災関係機関間の情報伝達、対応要請の確認

イ 自衛隊、海上保安庁による住民避難の支援

ウ 通行不能道路における道路啓開（障害物排除）の実施

〔実施場所 [高浜] 県道21号（舞鶴野原港高浜線） 高浜町宮尾地係〕

エ 自衛隊による発電所事故制圧の支援

〔支援内容 [大飯] 発電所作業員および制圧資機材（作業用ロボット）を陸上自衛隊
高機動車3台で搬送（原子力研修センター → 大飯発電所）〕

オ 家屋倒壊により屋内退避できない住民による近隣の指定避難所への退避

(7) 緊急時通信連絡訓練

ア 発電所から事故状況の通報連絡

イ 国から府県、関係市町への通報連絡、避難指示等の伝達

ウ 府県、関係市町から自衛隊、海上保安庁、警察、消防、その他関係機関への通報連絡

エ 事故発生から応急処理、復旧までの通信伝達、収受等

オ 携帯型映像伝送装置等を利用した画像伝送

カ 福井県警へりくずりゅうの映像伝送システムを利用した画像伝送

キ 災害情報インターネットシステムを利用した現地支援員からの情報伝達

ク 北陸地方非常通信協議会等による情報伝達

(8) 災害対策本部等運営訓練

ア 国、各府県庁舎、各市町庁舎、原子力防災センターにおける災害対策本部等の設置・運営、
情報収集・連絡体制の構築

イ 災害対策本部等による住民に対する情報提供の実施

（ケーブルテレビ、防災行政無線屋外拡声器、個別受信機、緊急情報メール、広報車、船舶
等による地域住民・立入者等への広報）

ウ テレビ会議システム等を活用し災害対策本部と現地災害対策本部との対策会議等の実施

(9) 原子力防災センター運営訓練

- ア 原子力防災センターへの要員派遣
- イ 国災害対策本部等との対策会議の実施
- ウ 現地事故対策連絡会議、原子力災害合同対策協議会の開催（実施方針の決定等）
- エ 各機能班の活動
- オ 府県および市町現地災害対策本部等と各機能班との連携
- カ 住民等の避難状況の確認
- キ 実施方針に基づいた応急対策の決定（避難先等の決定、避難手段の確保など）

(10) 緊急時モニタリング訓練

- ア 緊急時モニタリングセンター等の設置・運営
- イ 緊急時モニタリング実施計画、緊急時モニタリング指示書の作成
- ウ 固定観測局および電子線量計観測局を活用したUPZ圏内の線量率の測定
- エ モニタリングカー等を活用した避難範囲の特定のための線量率の測定
- オ 「緊急時モニタリング情報共有システム（ラミセス）」を活用した関係機関との情報共有
- カ 固定観測局等のバックアップとしての可搬型モニタリングポスト、可搬型ヨウ素サンプルの設置および測定
- キ 環境試料の採取、受入
- ク 福井県モニタリング本部の設置・運営および後方支援
- ケ 福井県・石川県災害時等相互応援協定に基づく職員派遣、資機材提供
- コ 原子力事業者間の相互応援による職員派遣および資機材の提供
- サ モニタリング要員被ばく管理および資機材等の汚染管理

(11) 自衛隊災害派遣運用訓練

- ア 原子力防災センターへの連絡要員の派遣
- イ 住民の避難支援
- ウ スクリーニング、車両除染の支援
- エ 自衛隊による発電所事故制圧の支援

(12) 交通対策等措置訓練

- ア 主要交差点等における渋滞抑制対策の実施

実施場所	[高浜]	高浜町	2箇所（日置交差点、菌部口交差点）
		おおい町	2箇所（青戸の大橋南詰交差点、大飯高浜インター付近）
		小浜市	1箇所（湯岡橋東詰交差点）
	[大飯]	おおい町	1箇所（青戸の大橋南詰交差点）
		小浜市	2箇所（湯岡橋東詰交差点、小浜西インター付近）
- イ 福井県警へりくずりゅうによる発電所周辺地域の上空調査
- ウ 福井県警察本部のオフロードバイクによる避難地域の情報収集活動
- エ 福井県警察警備艇わかさによる発電所周辺の海上警備
- オ 立入制限措置

(13) 発電所事故制圧訓練

ア 緊急時活動レベル（EAL）による通報連絡訓練

イ 本店および発電所における緊急時対策本部設置・運営

ウ 規制庁ERCとの連携

エ 発電所における重大事故等発生時の対応

オ 原子力緊急事態支援組織（原子力レスキュー）の参画

訓練内容 [高浜] 支援組織拠点（敦賀市）から発電所構内へ作業用ロボットを搬入
[大飯] 支援組織拠点（敦賀市）から発電所構内へ作業用ロボットを搬入
作業用ロボットの実動訓練（遠隔起動、遠隔操作）

カ 現地支援拠点等の支援体制の確立

キ 自衛隊による発電所事故制圧の支援

ク 発電所内で発生した被ばく患者の搬送

Ⅲ 過去5年間の総合防災訓練等の実施状況

種別	年度	24	25	26	27	28
総合防災訓練	日時	平成24年11月9日(金) ～11月10日(土)	平成25年8月25日(日)	平成26年11月1日(土)	平成27年8月30日(日)	平成28年10月30日(日)
	場所	テイクボート福井、福井空港	鯖江中学校、越前漁港厨師地区、鯖江市内、越前町沿岸部、南越前町沿岸部	弁天緑地、勝山市一円、大野市保健センター	小浜漁港、小浜市一円、県立大学小浜キャンパス	北潟湖畔公園
	主催	福井県、福井市、坂井市	福井県、鯖江市、越前町、南越前町	福井県、勝山市	福井県、小浜市	福井県、あわら市
	参加機関	150	105	84	85	93
	訓練種目	66	53	39	48	44
	想定	地震と津波による災害	地震と津波および集中豪雨による災害	大雨と地震による災害	大雨による土砂災害および津波災害	大雨および地震・津波による災害
参加人員	2,500	3,900	4,500	4,100	5,300	
石油コンビナート等	日時				平成27年8月9日(日)	
	場所				福井臨海地区石油コンビナート等特別防災区域およびその周辺	
	主催	福井県総合防災訓練・緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練(上記)の中で実施			福井県石油コンビナート等防災本部	
	参加機関				30	
	訓練種目				28	
	想定				地震による原油漏えい、防油堤一部破損および余震によるタンク	
参加人員				451		
原子力防災訓練	日時		平成25年6月16日(日)	平成26年8月31日(日)	平成27年10月16日(金) ※平成27年度は個別訓練	平成28年8月27日(土)、28日(日)
	訓練対象施設		関西電力(株)美浜発電所3号機	関西電力(株)高浜発電所3号機	関西電力(株)高浜発電所	関西電力(株)高浜発電所、大飯発電所
	主催		福井県、美浜町、敦賀市	福井県、高浜町、小浜市、おおい町、若狹町	福井県	福井県
	参加機関		120	120	120	高浜:150 大飯:100
	訓練種目	未開催	12	12	①最初動対応訓練 86機関、442名参加 ②安定ヨウ素剤緊急時配布訓練 13機関、84名参加 ③スクリーニング・除染訓練 6機関、71名参加 ④緊急時モニタリング訓練 6機関、84名参加	13
	想定		全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至る	全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出		全交流電源喪失および原子炉冷却機能の喪失により、全面緊急事態に至り、放射性物質放出
参加人員		2,500	4,100		5,546	

IV 市町別自主防災組織の結成状況

平成29年4月1日現在

	管内世帯数 (A)	自主防災組織 の組織数	隊員数	組織されている 地域の世帯数 (B)	組織率 (カバー率) (B/A)
福井市	101,127	1,146	99,311	99,311	98.2%
敦賀市	26,621	89	2,000	25,463	95.7%
小浜市	11,270	99	1,134	7,040	62.5%
大野市	11,756	169	558	11,113	94.5%
勝山市	7,638	114	1,832	7,050	92.3%
鯖江市	23,672	152	7,211	23,573	99.6%
あわら市	9,682	97	3,428	8,522	88.0%
越前市	29,655	239	9,520	29,399	99.1%
坂井市	29,830	244	4,175	21,959	73.6%
永平寺町	7,270	89	18,881	6,226	85.6%
池田町	888	21	140	663	74.7%
南越前町	3,332	64	809	2,984	89.6%
越前町	6,510	58	1,410	5,559	85.4%
美浜町	3,846	22	6,979	2,612	67.9%
高浜町	4,220	27	3,150	1,969	46.7%
おおい町	3,176	22	1,276	1,465	46.1%
若狭町	4,822	82	1,395	3,959	82.1%
合計・ 平均	285,315	2,734	163,209	258,867	90.7%

管内世帯数：住民基本台帳法に基づく人口、世帯数調べ（平成29年4月1日現在）

隊員数：自主防災組織の組織編成において隊員又は班員等に位置づけられている実働隊員の総数
（平成29年4月1日現在）

第4章 平成28年度防災行政無線利用状況

1 無線局の現況

防災行政無線局等一覧（平成29年4月1日現在）

〔固定系〕

区分	局数		設置場所
	多重系	衛星系	
統制局	1	1	県庁
中継局	6		越知山（越前町大谷寺） 久須夜ヶ岳（小浜市堅海） 村国山（越前市村国） 八ツ杉（越前市別印） 岳山（美浜町早瀬） 青葉山（高浜町中山）
支部局	8	7	8土木（福井、三国、奥越、勝山 [※] 、丹南、鯖江丹生、敦賀、小浜） [※] 勝山土木は衛星系を持たない
合庁局	3	2	3合同庁舎（福井、丹生、坂井 [※] ） [※] 坂井合庁の衛星系は、三国土木と共用
ダム管等局	11		原子力センター 龍ヶ鼻ダム管 [※] 、龍ヶ鼻ダム下流連絡所 [※] 、永平寺堰堤 [※] 笹生川ダム管、笹生川堰堤 [※] 、浄土寺川堰堤 [※] 広野ダム管、広野堰堤 [※] 、榊谷堰堤 [※] 大津呂堰堤 [※] [※] 水防無線局を含む
小計	29	10	
端末局	県出先機関		14 健康福祉センター（福井、坂井、奥越、丹南、丹南（武生）、二州、若狭）、県立病院、福井港湾、敦賀港湾 衛生環境センター、防災航空事務所 [※] 坂井上水、日野川上水 [※] 福井空港は、併設局（防災航空隊）と共用
	市町		17 9市：福井、敦賀、小浜、大野、勝山、鯖江、あわら、越前、坂井 8町：永平寺、池田、南越前、越前、美浜、高浜、おおい、若狭
	消防本部		7 7消防本部 福井、大野、勝山、永平寺、嶺北、南越、若狭 [※] 鯖江丹生消防・敦賀美方消防は併設局（鯖江市・敦賀市）と共用
	国・公共機関等		19 福井气象台、鯖江自衛隊、舞鶴自衛隊、敦賀海保、福井海保 日赤福井、福井県医師会、福井火力、福井石油備蓄、原電敦賀 関電美浜・高浜・大飯、ふげん、もんじゅ オフサイトセンター（敦賀、美浜、大飯、高浜）
	小計		57
衛星車載局		1	
可搬型地球局		3	
合計	29	71	

[移動系]

区 分		局 数	設 置 場 所
陸 上 基 地 局	全 県 移 動 260MHzデジタル	11	県庁統制局 中継局（越知山、久須夜ヶ岳、陣ヶ岡、村国山、岳山、青葉山、 八ツ杉） 土木事務所（勝山、敦賀） 笹生川ダム管
	F W A (18GHz)	1	坂井合同庁舎
	400MHz防災相互	1	防災航空事務所
	計	13	
航 空 局		6	防災航空事務所（可搬用含む）
陸 上 移 動 局	全 県 移 動 局 260MHzデジタル	車載型 47	県庁 3台 土木事務所 42台（福井6台、三国6台、奥越7台、丹南7台、鯖江丹生6台、 敦賀4台、小浜6台） 防災航空事務所、衛星車載局
		半固定型 39	県出先機関8台：健康福祉センター（福井、坂井、奥越、丹南、二州、若狭） 県立病院、防災航空事務所
			9市：福井、敦賀、小浜、大野、勝山、鯖江、あわら、越前、坂井
			8町：永平寺、池田、南越前、越前、美浜、高浜、おおい、若狭
			5消防本部：福井、大野、勝山、永平寺、嶺北、鯖江丹生、南越、敦賀美方、若狭
		5防災関係機関：福井駅、NHK福井、福井放送、福井テレビ、FM福井	
	携帯型 70	県庁 30台、敦賀土木 20台、小浜土木 20台	
	携帯型(他機関) 43	原子力センター 3台、地域医療課 40台	
	小 計 199		
	F W A (18GHz)	1	陣ヶ岡中継局
	消 防 移 動 局	車載型 1	防災航空事務所
携帯型 8		県庁 1台、防災航空事務所 7台	
小 計 9			
防 災 移 動 局	携帯型 5	防災航空事務所、400MHz 防災相互	
計	214		
携 帯 局(へり用)		消防用 2	防災ヘリコプター
航 空 機 局		航行運航用 1	
簡 易 無 線 局		2	簡易画像伝送装置（衛星車載局に搭載）
へ り サ ッ ト 局	携帯基地地球局	固定型 1	県庁局
	ヘリコプター局	へり搭載型 1	防災ヘリコプター
	計	2	
合 計		240	

2 利用状況

(1) 一般通話の利用状況

平成28年中

区 分	一年間の総計	一カ月当たりの平均使用回数	一局当たりの月平均使用回数
支 部 ・ 合 庁 局	373,283	31,107	(10局) 3,111
ダ ム 管 等 局	10,160	847	(10局) 85
県 出 先 機 関	7,522	627	(15局) 42
市 町	750	63	(17局) 3.7
消 防 本 部	328	27	(9局) 3.0
国 出 先 機 関	47	3.9	(5局) 0.8
公 共 機 関	104	8.7	(9局) 1.0
原 子 力 発 電 所 等	108	9.0	(10局) 0.9
合 計	392,302	32,692	(85局) 385

(2) 一斉指令の利用状況

[指令内容別]

平成28年中

区 分	気 象 関 係				事務連絡	テスト	合 計
	警 報	注意報	情 報	計			
指 令 回 数	84	1,396	691	2,171	414	67	2,652
前年比 (%)	111	98	141	109	105	319	110

[指令種類別]

平成28年中

区 分	全 県	県出先	市 町	消 防	その他	合 計
指 令 回 数	2,275	21	290	247	60	2,893
前年比 (%)	102	50	196	184	—	114

(3)一斉指令月別通信回数

平成28年中

区分	月												計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
内容	気警報	16	4	0	10	6	4	4	8	22	8	0	2	84
	象注意報	140	154	154	122	90	74	132	130	104	54	106	136	1,396
	関情報	76	61	32	48	29	37	53	82	92	44	37	100	691
	係小計	232	219	186	180	125	115	189	220	218	106	143	238	2,171
別	事務連絡	45	63	59	42	27	28	30	50	27	17	8	18	414
	テラスト	1	2	1	4	8	17	14	2	9	0	2	7	67
種類	計	278	284	246	226	160	160	233	272	254	123	153	263	2,652
	全県	257	260	237	202	140	120	182	192	209	105	139	232	2,275
別	県出先	2	6	5	1	0	1	3	2	1	0	0	0	21
	市町	18	19	5	20	19	27	33	66	42	16	6	19	290
	消防	16	14	4	12	12	21	30	63	38	15	6	16	247
	その他	0	0	0	2	0	8	14	13	1	2	8	12	60
計	293	299	251	237	171	177	262	336	291	138	159	279	2,893	

備考)市町と消防へ一括して一斉指令した場合は、市町と消防の種類別において、それぞれ回数を計上

3 多重局通信回数集計表

平成28年中

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
福井支部	2,667	2,914	3,614	3,976	3,304	3,687	3,088	2,830	2,981	3,202	3,174	2,717	38,154
三国支部・坂井合庁	3,715	4,187	4,642	3,875	3,243	4,003	3,434	3,232	3,097	3,443	2,923	3,074	42,868
奥越支部・奥越合庁	2,979	3,166	3,783	3,896	3,537	3,797	3,140	3,306	3,644	3,611	3,406	2,979	41,244
勝山中継局	489	490	533	427	355	439	496	442	422	483	546	470	5,592
丹南支部・南越合庁	4,565	4,720	6,135	6,415	4,997	5,674	5,222	5,076	5,074	5,185	4,633	4,543	62,239
鯖江丹生支部	1,042	931	1,456	1,721	1,313	1,437	1,231	1,173	1,411	1,262	1,260	1,183	15,420
敦賀支部・敦賀合庁	3,579	3,738	4,528	4,650	3,999	4,429	3,985	3,378	3,716	3,633	3,545	3,283	46,463
小浜支部・若狭合庁	4,659	4,978	6,369	6,428	5,274	5,840	4,739	4,536	4,836	5,070	4,752	4,271	61,752
福井合庁	3,914	4,241	5,000	5,474	4,705	5,079	4,045	3,476	3,219	3,260	2,955	2,754	48,122
丹生合庁	883	976	1,084	1,292	993	1,002	975	836	935	955	825	673	11,429
原子力センタ	404	370	422	400	454	450	364	455	406	338	361	313	4,737
笹生川ダム管	90	131	179	126	115	144	90	133	123	90	135	136	1,492
笹生川堰堤	2	0	0	1	0	24	4	9	13	11	34	1	99
浄土寺川堰堤	2	1	0	20	8	22	13	9	5	5	21	6	112
広野ダム管	134	158	158	132	188	278	191	247	230	192	208	209	2,325
広野堰堤	5	17	4	14	5	13	3	5	5	2	3	16	92
榎谷堰堤	3	15	4	7	9	19	5	6	4	1	3	15	91
龍ヶ鼻ダム管	57	100	105	60	43	127	72	128	69	88	118	130	1,097
永平寺ダム	3	1	2	0	2	3	7	27	7	1	1	8	62
大津呂ダム管	9	6	0	1	0	22	2	3	8	2	0	0	53
計	29,201	31,140	38,018	38,915	32,544	36,489	31,106	29,307	30,205	30,834	28,903	26,781	383,443

※土木事務所(支部局)と合同庁舎が隣接している局については、合算している

4 端末局無線通信回数調

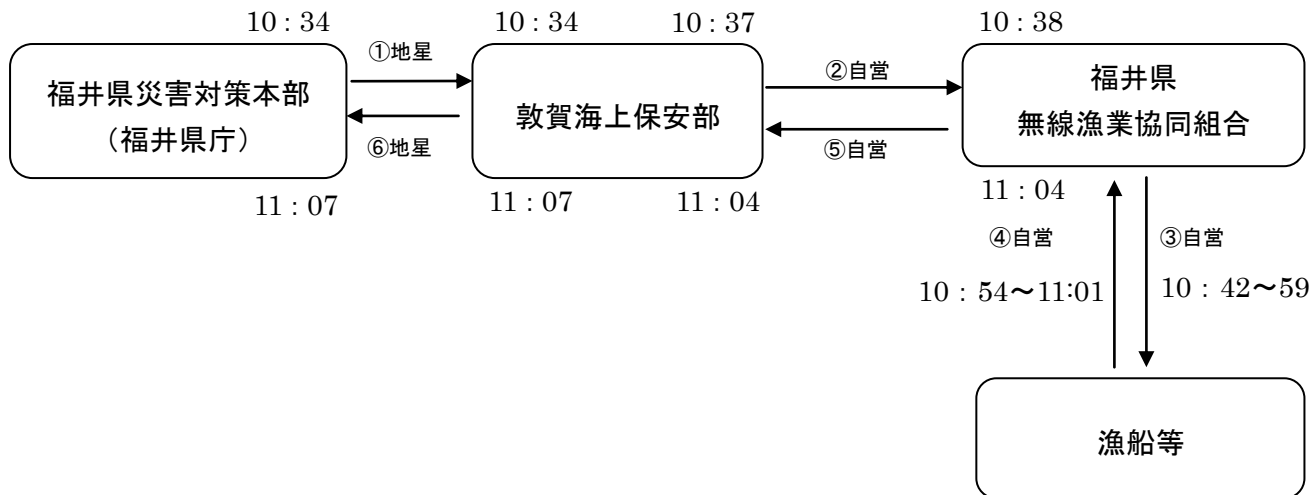
平成28年中

無 線 局	通信回数	無 線 局	通信回数	無 線 局	通信回数
福 井 市	81	福 井 消 防	72	福 井 気 象 台	29
敦 賀 市	47	大 野 消 防	21	鯖 江 自 衛 隊	5
小 浜 市	45	勝 山 消 防	17	舞 鶴 自 衛 隊	3
大 野 市	49	永 平 寺 消 防	81	敦 賀 海 保	5
勝 山 市	40	嶺 北 消 防	28	福 井 海 保	5
鯖 江 市	70	鯖江丹生消防	18	国 出 先 計	47
あ わ ら 市	51	南 越 消 防	43	福 井 駅	24
越 前 市	23	敦賀美方消防	20	N H K 福 井	9
坂 井 市	38	若 狭 消 防	28	福 井 テ レ ビ	9
市 計	444	消 防 計	328	福 井 放 送	7
永 平 寺 町	62	福 井 保 健	195	F M 福 井	8
池 田 町	22	若 狭 保 健	154	日 赤 福 井	3
南 越 前 町	36	二 州 保 健	153	福 井 県 医 師 会	11
越 前 町	20	丹 南 保 健	222	福 井 火 力	12
美 浜 町	75	坂 井 保 健	82	福 井 備 蓄	21
若 狭 町	29	奥 越 保 健	98	公 共 機 関 計	104
お お い 町	22	武 生 保 健	31	原 電 敦 賀	6
高 浜 町	40	衛 生 環 境 セ ン タ ー	2,173	関 電 美 浜	20
町 計	306	県 立 病 院	353	関 電 大 飯	38
市 町 計	750	防 災 航 空 隊	55	関 電 高 浜	16
		福 井 港 湾	638	原 子 力 機 構 ふ げ ん	5
		敦 賀 港 湾	1,827	原 子 力 機 構 も ん じ ゅ	6
		福 井 空 港	58	敦 賀 オ フ サ イ ト	4
		坂 井 上 水	636	美 浜 オ フ サ イ ト	5
		日 野 川 上 水	847	大 飯 オ フ サ イ ト	4
		県 出 先 計	7,522	高 浜 オ フ サ イ ト	4
				原 子 力 発 電 所 等 計	108
				合 計	8,859

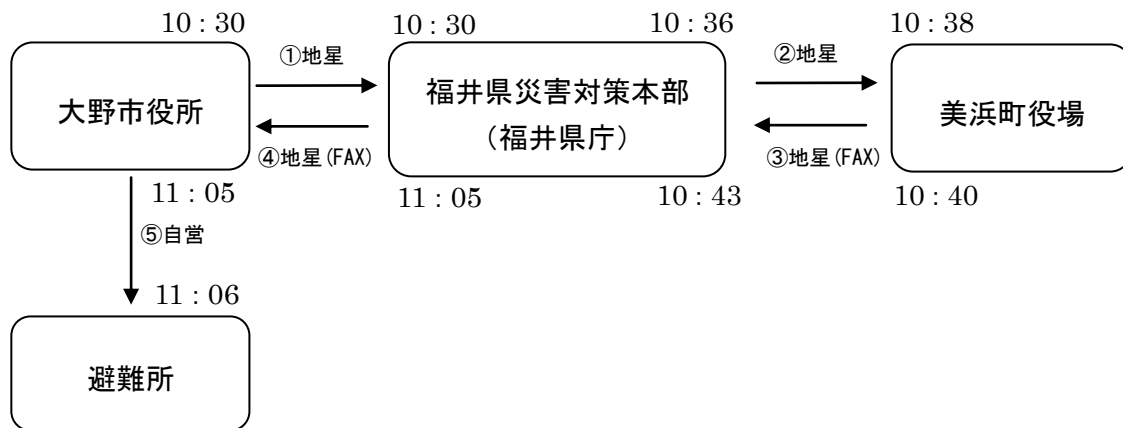
5 非常無線通信実施状況

(1) 平成28年度 福井県原子力防災訓練に伴う非常通信訓練(平成28年8月27、28日)

① 8月27日(土)



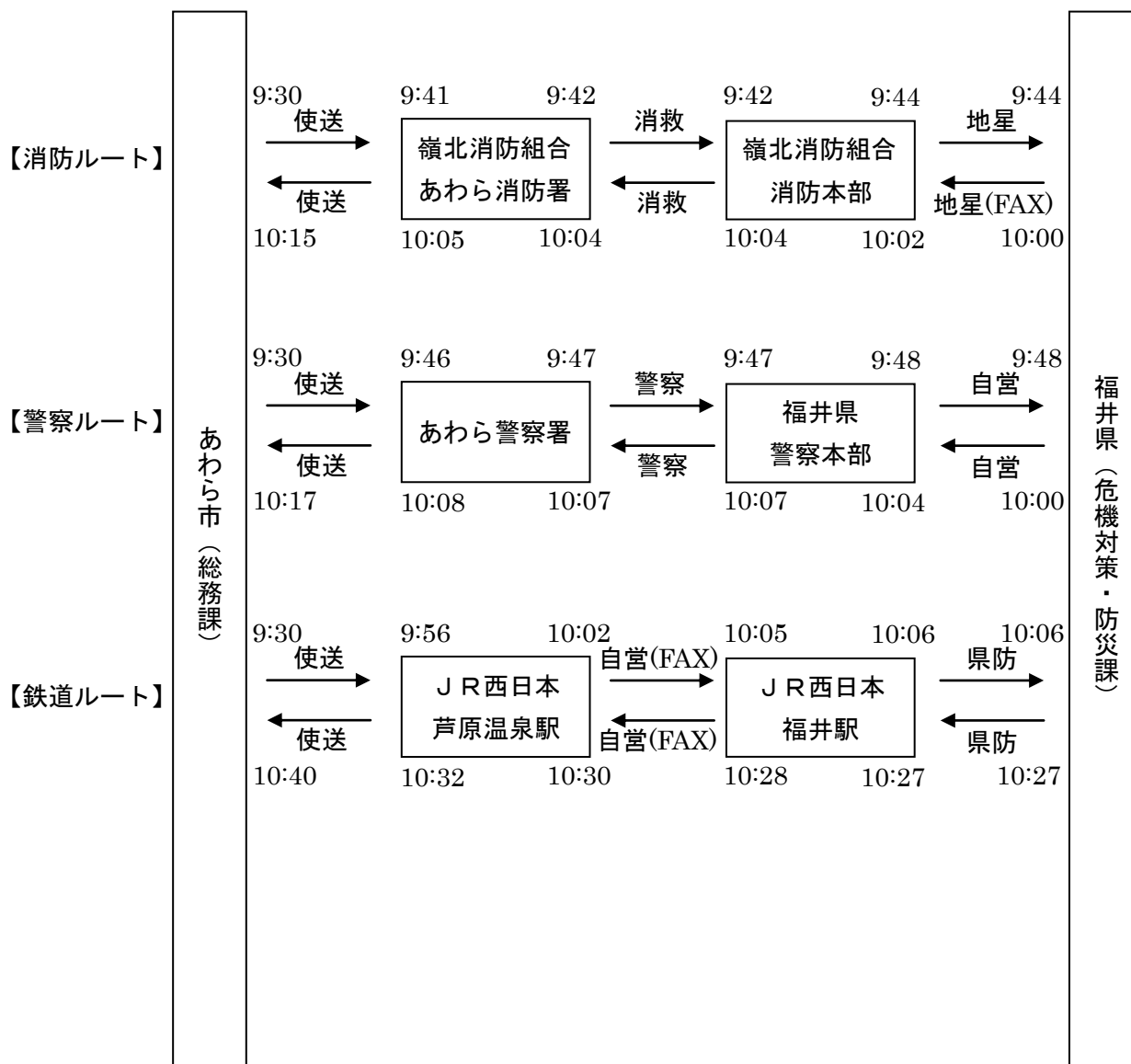
② 8月28日(日)



- (参考)
- ・ 使送：徒歩又は車両等により非常通報文を直接手渡しする。
 - ・ 県防：県防災行政無線（地上系）
 - ・ 地星：地域衛星通信ネットワーク
 - ・ 市同：市町村防災行政無線（同報系）
 - ・ 市移：市町村防災行政無線（移動系）
 - ・ 自営：上記以外の自営の通信網

(2) 平成28年度福井県総合防災訓練に伴う非常通信訓練（平成28年10月30日）

- ・あわら市から福井県あて往復信（複数ルートを使用）

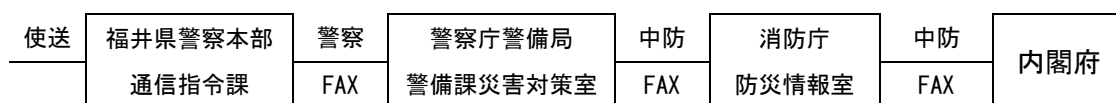


(参考)

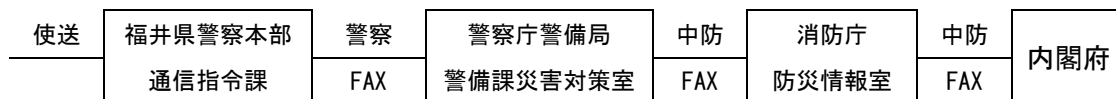
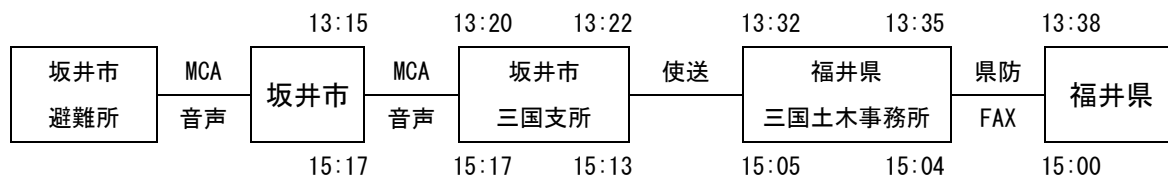
- ・ 使送：徒歩又は車両等により非常通報文を直接手渡しする。
- ・ 警察：警察用通信回線
- ・ 消防：消防・救急無線
- ・ 地星：地域衛星通信ネットワーク
- ・ 県防：県防災行政無線（地上系）
- ・ 自営：上記以外の自営の通信網

(3) 平成28年度 第79回全国非常通信訓練 (平成28年11月16日)

・勝山市内避難所から福井県あて、福井県から内閣府へ往復信



・坂井市内避難所から福井県あて、福井県から内閣府へ往復信



(参考)

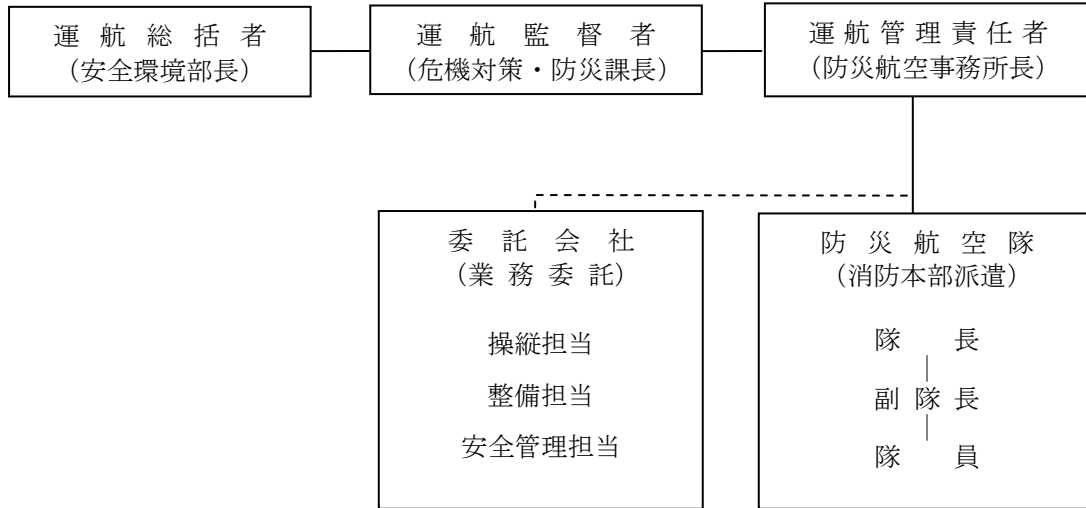
- ・ 使送：徒歩又は車両等により非常通報文を直接手渡しする。
- ・ 警察：警察用通信回線
- ・ 消救：消防・救急無線
- ・ 地星：地域衛星通信ネットワーク
- ・ 県防：県防災行政無線（地上系）
- ・ 中防：中央防災行政無線（地上系）
- ・ 市移：市町村防災行政無線（移動系）
- ・ MCA：MCA無線

第5章 防災ヘリコプターの運航体制

1 運航基地

福井県防災航空事務所（福井空港内）

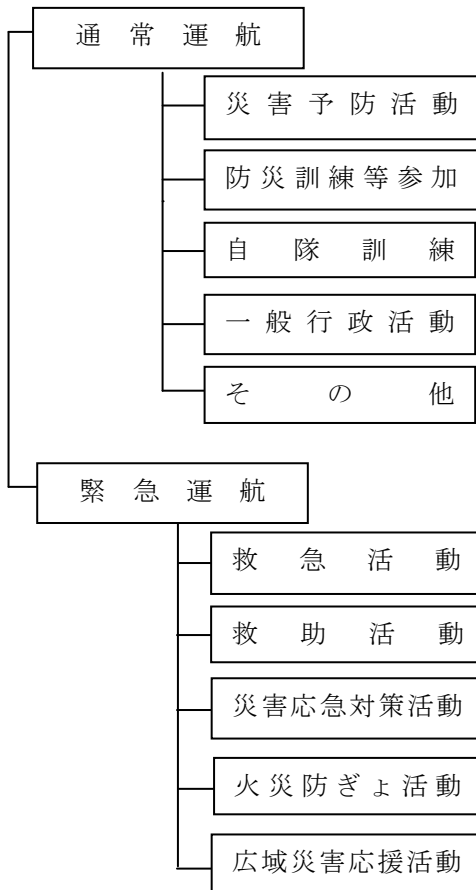
2 組織図



3 運航時間

毎日、午前8時30分から午後5時15分まで
 （ただし、緊急運航の場合は日の出から日没まで）

4 活動業務



機種	川崎BK117C-2
メーカー（製造国）	川崎重工業（日本）
エンジン最大出力	1,384SHP
エンジン基数	2基
搭乗人員	11人
最大全備重量	3,585kg
最大搭載可能重量	1,715kg
航続距離	685km
ホイスト装置	270kg
貨物吊り下げ装置	1,500kg
全長	13.03m
全高	3.95m
最大速度	278km/h
航続時間	約3.5h
着陸方式	スキッド式

第1表 福井県防災ヘリコプター運航実績表（年度別）

平成29年3月31日現在

区分	緊急運航						通常運航						合計
	救急	救助	災害応急	火災防御	広域災害 応援	計	自隊訓練	防災訓練 参加	災害予防活動 危険箇所 調査	災害予防活動 災害予防 広報	一般行政	整備	
平成17年度	件数 36 時間 27:24	27 18:46	4	4:09	8	75 61:38	98 135:21	38 30:20	6 11:30	11 13:07	5 7:40	2 1:26	235 261:02
平成18年度	件数 35 時間 25:00	26 27:31	4 3:26		1 1:08	66 57:05	96 131:13	43 37:04	3 5:00	16 19:28	6 2:09	3 2:19	233 254:18
平成19年度	件数 36 時間 18:15	37 40:29	3 8:27	2 1:02	7 7:30	78 68:13	107 148:44	60 58:03	3 11:15	9 7:32	19 18:04	6 5:17	282 317:08
平成20年度	件数 34 時間 30:41	27 19:05			7 7:30	68 57:16	96 122:16	48 39:54	3 11:17	7 6:22	12 9:36	12 14:09	246 260:50
平成21年度	件数 21 時間 7:36	28 23:32	3 1:01	3 31:21	15 15	67 63:30	82 127:17	45 34:06	3 10:49	4 3:17	10 10:03	4 4:42	215 253:44
平成22年度	件数 22 時間 9:31	26 19:26			15 21:26	63 50:23	128 162:56	40 30:53	4 10:24	3 4:57	4 7:21	3 2:46	245 269:40
平成23年度	件数 25 時間 10:01	26 10:46	4 4:03	1 3:19	6 11:09	62 39:18	125 151:46	39 29:10	4 16:10	4 5:08	3 5:23	4 3:31	241 250:26
平成24年度	件数 25 時間 13:51	24 18:31		1 0:52	11 13:25	61 46:39	162 183:11	39 27:30	3 11:08	1 1:40	5 7:41	5 2:03	276 279:52
平成25年度	件数 29 時間 15:24	23 19:33	9 13:12		12 13:28	73 61:37	158 184:16	33 21:18	3 11:11	1 1:40	5 5:54	4 4:05	277 290:01
平成26年度	件数 28 時間 12:35	29 20:32			12 12:35	69 45:42	139 146:21	33 26:36	3 11:43	4 2:16	8 8:02	8 5:26	265 247:49
平成27年度	件数 36 時間 19:30	36 26:08			6 9:38	78 55:16	162 174:09	40 25:37		2 2:24	6 4:16	3 2:37	291 264:19
平成28年度	件数 37 時間 20:50	31 30:03			10 14:41	78 65:34	142 152:04	40 29:34		2 3:17	9 10:26	2 1:21	273 262:16

※年間の飛行時間は300時間が限度であるが、耐空検査を年度中に実施しているため、年度合計は300時間を超える場合がある

第6章 衛星車載局の運用体制

1 収 容

福井県消防学校内

2 運用組織図

使用管理者 (危機対策・防災課長)	運用統括責任者：運用総括業務	1名
	通信機器操作員：通信機器類の操作、調整	2名
	県庁統制局の操作、調整	1名
	情報収集伝達員：情報の収集、伝達	2名

3 運 用

<非常時の運用>

災害発生もしくは発生する恐れがあるときに、災害の予防、被災後の救助および復旧などの災害対策等に必要な情報の収集・伝達を行う。

<平常時の運用>

業務、事業、イベント等の紹介を行う。

非常時および平常時とも映像情報の伝送を可能としていることにより、より詳細な状況の把握、広報等が可能である。

4 主な仕様

<アンテナ装置>

反射鏡部	オフセットパラボラ	有効開口径 1.8 m
駆動部	電動/手動	
衛星捕捉	GPS等各種センサーおよび送受信装置受信偏波特性比較機による完全自動衛星捕捉が可能	

<送受信装置>

画像系電力増幅部	飽和最大出力	300W以上 (TWT)
個別通信系電力増幅部	飽和最大出力	40W以上 (SSPA)

<端局装置>

実装チャンネル数	個別最大通信回線用	4 CH
	デジタル画像送信用	1 CH
	デジタル画像受信用	1 CH

デジタル画像変復調部 動 画：6 Mbps

<その他端末装置>

全県移動車載型無線装置	260MHz デジタル通信 複信方式
衛星自動車電話	衛星携帯・自動車電話対応
簡易画像伝送装置	50GHz 帯回線構成での画像伝送

保 安 編

第1章 高圧ガス保安

概況

高圧ガスは、エネルギー、原料ガスおよび先端技術分野における特殊材料ガスなどに利用されるなど、その活用分野は広範囲である。

ただし、高圧ガスは有用な反面、高圧状態であること、さらにガスの種類によって可燃性、支燃性および毒性などの化学的な特性があるため、大規模な事故や災害を巻き起こす危険性がある。

このため、高圧ガス保安法等の関係法令に基づく許認可や届出義務などによる危害予防のための規制があるほか、高圧ガス事業者および高圧ガス保安協会による自主的な保安活動を促進するための各種の講習会などを通じた保安指導が実施されている。

国内全体での製造事業所の高圧ガスの事故は、平成23年の1084件をピークに、減少傾向が続いていたが平成28年（863件）には再び増加に転じた。なお、平成23年の事故件数については、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響で、多くの事故報告がなされたことも増加要因の一つと考えられる。東日本大震災の影響を除く平成23年の事故件数は966件であった。なお、事故の内訳で最も多いのが、盗難（平成26年406件、平成27年300件、平成28年368件）である。

一方、高圧ガスのうち一般消費者等への販売にかかる液化石油ガス事故については、全国で平成18年は219件（前年比+114件）と急激な増加をみせ、平成20年にかけて200件を超える高水準を維持していたが、平成28年は136件（前年比-42件）である。

県は、法令遵守はもとより、講習会、保安検査および立入検査などを定期または随時実施し、高圧ガス事業者等に対する指導を行なっている。特に、液化石油ガス事業者に対しては、LPガス設備の点検・調査および改善などの法令遵守ならびに事故防止対策の徹底の指導などを通じ、一般消費者等の安全・安心を推進している。

第1表 市町別高圧ガス関係事業所数

平成29年3月31日現在

事業所 区分	製造事業者				販売事業者(店舗数)										貯蔵所		特定消費事業所			オート ガススタンド	保安機 関	容器檢 査所										
	第1種		第2種		一般 (LPG 販売を 兼ねて いる者 を含む)	高圧 法の み	液化石油ガス			冷凍 計	液化 石油 ガス 計	一般	液化 石油 ガス	一般	液化 石油 ガス	計	一般	液化 石油 ガス	計													
	液化 石油 ガス	冷凍		一般			液化 石油 ガス	冷凍	計														高圧 法の み	大臣 所管	知事 所管	両方 知事 所管	計	計	計	計	計	計
		アンモニア 以外	アンモニア																													
市町村	10	23	1	12	13	46	27			6	203	209	236	282	77	26	6	7	76	115	343	535	19	5	24	8	16	24	5	81	4	
福井市																																
敦賀市	12	6		5	5	23	13			6	63	69	82	105	18	1	1	3	10	15	57	90	9	4	13	5	3	8		9		
小浜市	1	2		3	3	6	5				16	16	21	27	7			4	9	13	26	46	3		3	2	1	3	1	8		
大野市		2				2	2				24	24	26	28	4		3	3	17	23	33	60	2		2			0	1	17		
勝山市		3		2	2	5	2			1	20	21	23	28					17	17	19	36	1		1		2	2	1	14		
鯖江市	3	7		3	3	13	12				42	42	54	67	3	1	2	1	25	29	53	85	6		6	1	7	8	26	1		
あわら市	3	1		1	1	5	6				45	45	51	56	1				11	11	20	32	1		1	2	1	3	1	9		
越前市	14	9		2	3	26	3			1	82	83	86	112	14	6	1	3	32	42	66	122	10	4	14	10	6	16	1	29		
坂井市	9	14		7	7	30	10			2	76	78	88	118	5		5	1	51	57	56	118	14	3	17	5	16	21	55	1		
市計	52	65	2	35	37	154	80			16	571	587	667	823	129	34	0	18	22	248	322	673	1124	65	16	81	33	52	85	10	248	6
永平寺町		1		1	1	2	3				14	14	17	19						6	6	17	23	1		1	1		1	5	1	
池田町											2	2	2	2						2	2	4								2		
南越前町	3			5	5	8	1			2	5	7	8	16					3	3	6	9							4			
越前町	3	2				5	6			3	13	16	22	27	2				1	24	25	12	39					2	2	22		
美浜町				2	2	2	2				5	5	7	9						3	3	6	9			7	1		1	3		
高浜町	1			3	3	4	4			1	4	5	9	13	2				2	2	6	10	13			13			1	1		
おおい町		0		1	1	1	1				4	4	5	6		1			1	4	6	4	10	7		7	1		1			
若狭町	2			1	1	3	2				34	34	36	39			1			7	8	11	19	1	1	2	1	2	3	5		
町村計	6	7		13	13	26	19			6	81	87	106	131	4	1	0	1	2	51	55	64	123	29	1	30	4	4	8	1	42	1
県計	58	72	2	48	50	180	99			22	652	674	773	954	133	35	0	19	24	299	377	737	1247	94	17	111	37	56	93	11	290	7

第2表 ガスの種類別高圧ガス製造事業所数（冷凍事業所を除く）

平成29年3月31日現在

ガスの種類	第1種製造者（事業所）	第2種製造者（事業所）
空 気	6	36
酸 素	2	12
窒 素	20	36
水 素	—	—
炭 酸 ガ ス	16	8
フ ロ ン ガ ス	1	—
ア ン モ ニ ア	1	—
塩 素	—	—
ア ル ゴ ン	2	4
酸 化 エ チ レ ン	1	—
塩化ビニルモノマー	1	—
ヘ リ ウ ム	—	—
プ ロ ビ レ ン	—	—
エ チ レ ン	—	—
天 然 ガ ス	8	3
L P ガ ス	72	—
計	130	99

- 1 第1種製造者とは、1日の処理能力が100 m³以上（政令で定める「第一種ガス」にあつては300 m³以上）、それ以外のものを第2種製造者という。
- 2 同一事業所で2以上のガスを製造している事業所については、最も処理量が多いガスまたは主たる目的のガスに計上した。

第3表 処理量別・製造形態別製造事業所数（冷凍事業所を除く）

平成29年3月31日現在

事務所数 処理量区分(m ³)	空 液 分	気 化 離	L 工 業 消 費	L ガ ス タ ン ド	L ガ ス 充 填 所	L N G ガ ス タ ン ド	圧 空 充 填 所	C E の 製 造 事 業 所		移 動 式 製 造 事 業 所	そ の 他	合 計
								充 填 所	消 費			
0以上～30未満							7		8		23	38
30～100							11		13		2	26
100～1,000							21		23		4	48
1,000～1万			2			1			15	1	1	20
1万～10万	4		28	2	(※)4 7	1		4		7	3	56
10万～100万	1		11		(※)4 17					1	2	32
100万～1,000万	1									1	1	3
1,000万～1億												
1億以上												
計	6		41	2	24	2	39	4	59	10	36	223

1 同一事業所で2以上の製造形態がある場合は、もともと処理量の多い製造形態を当該形態に計上した。(ただし、附属冷凍を除く)

2 ※は充填所に併設されているスタンド数

第4表 高圧ガス貯槽数（冷凍事業所を除く）

平成29年3月31日現在

（単位：基）

ガス名	貯槽の区分 (貯槽能力)		50トン 以上	100トン 以上	計
	3トン 以上	10トン 未満			
液化酸素	14	9	1	1	25
液化炭酸ガス	15	1			16
液化アンモニア		6			6
液化水素	1				1
液化塩素	1				1
酸化エチレン		1			1
塩化ビニルモノマー			1	1	2
LPガス		123	7		130
液化窒素	42	44	6	1	93
液化フロン		1			1
液化アルゴン	6	12	3		21
液化天然ガス	1	15	8		23
計	79	212	26	3	320

第5表 平成28年度高圧ガス製造保安責任者試験実施状況

平成28年11月13日
福井工業大学

種 類	受験者区分	出願者数 (人)	受験者数 (人) (A)	合格者数	
				(人) (B)	合格率 (%) (B/A)
乙種化学	全科目受検者	25	20	5	25.0
	科目免除者	8	8	5	62.5
	計	33	28	10	35.7
丙種化学 (液石丙化)	全科目受検者	30	28	1	3.6
	科目免除者	33	33	29	87.8
	計	63	61	30	49.2
丙種化学 (特別丙化)	全科目受検者	40	39	5	12.8
	科目免除者	23	23	17	73.9
	計	63	62	22	35.5
乙種機械	全科目受検者	22	19	3	15.8
	科目免除者	4	3	1	33.3
	計	26	22	4	18.2
第2種 冷凍機械	全科目受検者	24	24	10	41.7
	科目免除者	6	6	5	83.0
	計	30	30	15	50.0
第3種 冷凍機械	全科目受検者	61	44	20	45.5
	科目免除者	26	24	22	91.7
	計	87	68	42	61.8
計	全科目受検者	202	174	44	25.3
	科目免除者	100	97	79	81.4
	計	302	271	123	45.4

第6表 平成28年度高压ガス販売主任者試験実施状況

平成28年11月13日
福井工業大学

種類	受験者区分	出願者数 (人)	受験者数 (人) (A)	合格者数 (人)	
				(B)	合格率 (%) (B/A)
第1種販売 主任者	全科目受験者	22	20	9	45.0
	科目免除者	2	2	1	50.0
	計	24	22	10	45.5
第2種販売 主任者	全科目受験者	33	30	11	36.7
	科目免除者	41	41	38	92.7
	計	74	71	49	69.0
計	全科目受験者	55	50	20	40.0
	科目免除者	43	43	39	90.7
	計	98	93	59	63.4

第7表 平成28年度液化石油ガス設備士試験実施状況

平成28年11月13日
福井工業大学

出願者 (人)	受験者 (人) (A)	筆記試験合格者 (人)		技能試験合格者 (人)	
		(B)	筆記試験合格率 (%) (B/A)	(C)	合格率 (%) (C/B)
7	3	3	100.0	3	100.0

第8表 平成28年度高压ガス関係免状交付状況

免許の種類	乙種化学	丙種化学 (液石丙化)	丙種化学 (特別丙化)	乙種機械	第2種 冷凍機械	第3種 冷凍機械	第1種 販売	第2種 販売
交付数 (件)	12 (1)	31 (2)	21	4	15	39	13	47 (3)

() 書きは再交付・書換で外数

第9表 平成28年度高压ガス関係申請状況

(1) 高压ガス保安法

申請種別		区分	件数	申請種別		区分	件数
製 造	新 設	一 般	2	完 成 更 改 含 む 検 査	製 造	一 般	8
		液 石	2			液 石	7
		冷 凍	0			冷 凍	1
		計	4			計	16
	変 更	一 般	7		貯 蔵 所	一 般	0
		液 石	6			液 石	0
冷 凍		1	計	0			
計			14	製造保安責任者免状交付		122	
貯 蔵 所	新 設	一 般	0	〃	再交付	3	
		液 石	0	〃	書換	0	
		計	0	販売主任者免状交付	60		
	変 更	一 般	0	〃	再交付	3	
		液 石	0	〃	書換	0	
		計	0	保 安 検 査		23	
計			0	合 計		245	

(2) 液化石油ガス法

申請種別	件数	
販売事業登録	0	
保安機関認定	0	
保安機関認定更新	1	
一般消費者等増加認定	0	
販売事業者謄本交付	4	
販売事業者認定	0	
貯蔵施設等設置	1	
充てん設備許可	1	
液化石油ガス設備士免状交付	24	
〃	再交付	6
〃	書換	3
合 計	40	

第10表 平成28年度高圧ガス事故発生状況

ガスの種類	事故発生日時	事故発生場所	事故の概況	人的被害			原因
				死者	重傷	軽傷	
LP	H28.6.22	あわら市消費者宅	施設敷地内にあるLPガス供給設備の埋設配管（白管）からガス漏えいを確認した。	0	0	0	埋設配管の腐食劣化
LP	H28.7.30	福井市消費者宅	20キロ容器の接合部に小さな穴があり、ガスの微小漏えいを確認した。	0	0	0	製造時の溶接不良

第2章 火薬類保安

概況

火薬類は、土木、採石、鉱山等の事業に使用されているほか、身近なものではがん具煙火にいたるまで様々な種類があり、多岐にわたって利用されている。

しかし、その取扱いによっては大事故につながる恐れがあり、製造から消費にいたるまで厳しく規制を行うなど、安全性の確保が強く要求されている。

本県においては、県公安委員会と密接な連携のもとに立入検査による法の厳格かつ適切な運用、さらに、取扱う者自らによる自主保安体制づくりが、事故予防上重要であることから、危害予防週間を通じ保安意識の啓蒙と普及に努めている。

また、許認可については、県では危機対策・防災課の他、奥越農林総合事務所、嶺南振興局で行っているが、煙火および空包の許可については、平成8年度から県内各市町（消防本部）で行っている。

第1表 火薬類関係事業所等数

平成29年3月31日現在
(単位：件)

販売業者	火薬・爆薬および火工品	8
	競技用紙雷管	28
	合計	36
火薬庫	1級火薬庫	14
	2 "	0
	3 "	2
	煙火 "	5
	実包 "	2
	合計	23
庫外貯蔵所	販売業者	7
	その他	10
	合計	17

第2表 銃砲関係事業所数

業 種	事業所数
販 売	1
製造（修理・改造のみ）および販売	3
計	4

第3表 火薬類（爆薬）の消費量の推移

（単位：t）

年度 \ 業種	鉦山	石灰石	土木	採(砕)石	その他	合計
22	12	5	455	71	0	543
23	14	6	437	64	0	521
24	13	5	134	60	0	212
25	11	4	1	62	1	79
26	11	4	68	57	0	140
27	15	5	387	68	0	475
28	9	2	508	79	0	598

第4表 火薬類取扱および丙種火薬類製造保安責任者試験実施状況

種 別	出願者数(人)	受験者数(人) (A)	合格者(人) (B)	合格率(%) (B/A)
甲 種	51	45	21	46.7
乙 種	16	15	14	93.3
丙 種	0	0	0	—
計	67	60	35	58.3

会場：9月4日（日）福井県中小企業産業大学校

第5表 平成28年度火薬類保安講習関係講習会実施状況

講習会名	回数(回)	受講者数(人)
火薬類取扱者保安教育講習会	6	300
火薬類取扱者保安再教育講習会	1	13
火薬類取扱保安責任者養成講習会	1	16
煙火消費保安講習会	1	79

第6表 平成28年度火薬類申請等の状況

(1) 県許可申請等

区 分	種 別		件 数 (件)
危機対策・防災課	譲 受	火工品のみ	0
		25kg以下	3
		上記以外	24
	譲 渡		6
	火薬庫設置		0
	火薬庫変更		2
	火薬庫完成検査(設置)		0
	" (変更)		0
	火薬庫保安検査		10
	免状交付		35
	免状再交付		6
	販売営業		0
	計		86
総合事務所 奥越農林	譲 受	火工品のみ	0
		25kg以下	2
		上記以外	5
	譲 渡		0
	計		7
地域振興室 若狭観光 嶺南振興局	譲 受	火工品のみ	1
		25kg以下	1
		上記以外	11
	譲 渡		9
	計		22
地域振興室 一州観光 嶺南振興局	譲 受	火工品のみ	0
		25kg以下	3
		上記以外	8
	譲 渡		2
	計		13
合 計		128	

(2) 市町許可申請等

消防(局)本部名	区分	種 別			件 数
		煙火消費	空包譲受	空包譲渡	
福 井 市		6	0	0	6
大 野 市		3	0	0	3
勝 山 市		4	0	0	4
永 平 寺 町		1	0	0	1
嶺北消防組合		4	0	0	4
鯖江・丹生消防組合		6	0	0	6
南越消防組合		5	0	0	5
敦賀美方消防組合		11	0	0	11
若狭消防組合		15	0	0	15
計		55	0	0	55

第7表 平成28年度事故発生状況

発生日時	発生場所	区分	状況	被害	原因
H28.8.16	福井県 敦賀市 川崎町	煙火	花火大会において、消費準備のため、当日9時頃に煙火に係る電気導火線の導通試験を実施しようとしたところ、スターマイン(2.5号連続発射1組)15発を誤って打ち上げたもの。	人的：なし 物的：なし	不注意等